

少林山砂防施設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

少林山台遺跡

—後期弥生時代集落・群集墳の調査—

《遺物観察表編》

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

繪巻	文化財	01-352
	書	411
NO. 94-1364	平成6年9月6日	3(6)

少林山砂防施設工事に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告書

しょう りん ざん だい
少林山台遺跡

—後期弥生時代集落・群集墳の調査—

《遺物観察表編》

1993

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

遺物観察表目次

1. 弥生時代の遺構出土遺物

(1) 住居

1号住居	1
2号住居	1・2
3号住居	3
4号住居	3～5
5号住居	5・6
6号住居	6
7号住居	6～8
8号住居	8～10
9号住居	10・11
10号住居	11・12
11号住居	12～15
12号住居	15・16
13号住居	16・17
14号住居	17・18
15号住居	18
16号住居	18・19
18号住居	19～21
19号住居	22～24
20号住居	24・25
22号住居	25・26
23号住居	26・27
24号住居	27・28
25号住居	28
26号住居	28・29
28号住居	29～32
29号住居	32
30号住居	33～35
32号住居	35～37

(2) 墓

2号墓	38
5号墓	38

(3) 溝

3号溝	38
-----	----

(4) 土坑

1号土坑	38
------	----

(5) グリッド

グリッド	38～40
------	-------

2. 古墳時代の遺構出土遺物

(1) 古墳

2号墳	41～48
3号墳	48～51
4号墳	51～53
5号墳	53・54
6号墳	54・55
7号墳	55～57
8号墳	57・58
9号墳	58～60
11号墳	60～62
12号墳	62～69
14号墳	69～71
15号墳	71
17号墳	71～75
19号墳	75
21号墳	76・77
22号墳	77

(2) 住居

17号住居	78
21号住居	79・80
27号住居	80～82

(3) 土坑

2号土坑	82
3号土坑	82
4号土坑	82

(4) 墓

10号墓	82
------	----

3. 平安時代の遺構出土遺物

(1) 住居

31号住居	83
-------	----

1. 弥生時代の遺構出土遺物

(1) 住 居

1号住居出土遺物観察表 (第26図、図版29)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 1	鉢	1/2残存 口 (10.0) 高 5.3	南東部 -7 №2	①チャート・粗砂 ②酸化焙・良好 ③焼SYR6/8	小径。口縁部は弧状に立ち上がる。底部は高台状に厚みを持つ。内外面とも粗雑な質感。		内面の一部に炭素吸着。
2 3	甕か	口縁部1/2残存 口 (11.5) 高 (4.1)	P 4内 №16	①粗砂少量 ②酸化焙・良好 ③焼SYR6/8	外傾斜し立ち上がる。内面は横方向の磨面調整。	口縁部全面に5～6条1単位による磨線状文様が5段以上施される。	熱を受けているか。
3 2	台付甕 小型	上半部1/3残存 口 (10.0) 高 (8.5)	P 2・4内 №16	①輝石細粒 ②酸化焙・良好 ③にぶ・焼SYR7/4	口縁部は頸部でくびれた後、外傾して立ち上がる。胴部は扁平に張る。内面は横方向の磨き。	頸部に10条の磨線状文様による2連止磨線状文を施した後、口縁部に2～3段、胴部に1段7条の磨線状文を施す。口縁部文様等の上位に円形刺突文を伴うボタン状貼付文が付く。	内外面に炭素吸着。外面は被熱による荒れ。
4 5	甕か	胴部～底部破片	北東部 -56 №13	①チャート細砂 ②酸化焙・良好 ③焼2.5YR7/6	胴部外面は棒状工具による縦方向の磨き。底部外面は砂でザラつく。		外面に炭素吸着。
5 4	台付甕か	台部1/3残存 高 (7.3)	P 2内 №5	①白色磁物の細砂 ②酸化焙・良好 ③焼7.5YR6/6	ラック状に外反し裾部を形成する。外面は丁寧な磨面調整。		器面は荒れている。
6 2	磁石	31.9・14.0 11.8	南東部 №20 8650	精粒安山岩	大型の置石で、側部の3面を使用している。一部に波線状の彫痕が集中し縦打痕も認められる。		
7 1	アリ石 円石	9.2・4.4 2.1	P 2内 №18	緑色片岩 142	小口の肉縁は欠損。裏表面はすり面。表面の一部に縦打痕。側面もすりしている。		

2号住居出土遺物観察表 (第29・30図、図版29・30)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 13	甕 小型	完形 口 8.0 高 5.8	南東部 床直 №47	①細砂 ②酸化焙・良好 ③焼7.5YR7/6	口縁部は弧状に磨やかに外反する。胴部の張りは弱く最大径は口径と等しい。外面は縦方向の丁寧な磨きで磨き。		炭素吸着。内面に付着物。
2 23	高杯か	口縁部破片	南部 +21 №9	①輝石細砂 ②酸化焙・良好 ③断面焼焼SYR6/4	内外面とも丁寧な磨き。		内面に赤色塗彩。
3 25	甕	口縁部破片	北東部 床直 №28	①灰白色の輝・細砂 ②酸化焙・良好 ③明赤焼SYR5/6	折り返し口縁。	折り返し部分の直下から下位に磨線状文様が3段施される。	灰色している。
4 17	甕か	口縁部破片 +10 №26	北東部 №26	①粗石の粗砂少量 ②酸化焙・良好 ③にぶ・赤焼SYR4/4	折り返し口縁。	折り返し部分を除いて磨線状文様が充満される。6条1単位で4段認められ、更に下位にも施される。	被熱による変色。
5 33	甕か	口縁部破片 +30 №48	南東部 +30 №48	①細砂状の輝石 ②酸化焙・良好 ③残焼7.5YR8/6	口縁部は磨やかに立ち上がる。		
6 22	甕	胴部破片 +32 №21	中央部 №21	①細砂 ②酸化焙・良好 ③残焼SYR6/4		胴部には8条1単位、2連止磨線状文が2段施される。その直下には粗雑な磨線状文がある。	
7 18	台付甕 小型	上半部破片	P 3内 №3	①輝石の細砂 ②酸化焙・良好 ③にぶ・焼SYR6/4	口縁部は磨やかに外反して立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。	胴部上位に8条1単位と思われる磨線状文施した後、胴部にやや不規則な等間隔止磨線文を施す。12条1単位か。口縁部文様等の施文は最後で波線状文を3段施すか。	外面に炭素吸着。

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
8 21	台付壺	口縁部～胴部上 位1/3残存 口(12.6) 高(4.5)	中央部 床直 №27	①細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は短く、緩やかに外反する。	胴部の刺線が著しく観察が困難であるが刺線状文が施される。	焼熱による変色。
9 16	壺か甕	口縁部1/3残存 口(17.9) 高(5.0)	北東部 床直 №25	①白色黏物・輝石の 細砂 ②酸化焰・良好 ③により赤褐色5YR 5/4	折り返し口縁部であるが返りは弱く、平たい。内面は丁寧な磨き。	全面に振幅の大きい帯線状文が充塞される。5～7条1単位で5段以上か。	焼熱による変色。
10 15	台付壺	台部欠損 胴部6.1/2欠損 口14.2 高(11.0)	北東部 床直 №59・51・57	①輝石細砂少量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/8	胴部の屈曲は弱く、口縁部は外傾弱く立ち上がる。胴部は偏平。胴部外面及び内面全面は丁寧な磨き。	口縁部上半に7条1単位の帯線状文を、胴部には10条1単位、2連止帯状文を、またその下に波状文を1段施す。	床直とP5内の接合。
11 20	甕又は壺	胴部下～底部 高(11.2)	北東部 床直 №33	①細砂 ②酸化焰・良好 ③により橙5YR7/4	胴部はやや丸みをもって張る。外面には斜方向の刷毛目を残す。内面は荒磨で。		一部に炭素残存。 19と同一形状。
12 14	甕	口縁部～胴部上 位 口17.0 高(14.7)	中央部 床直 №27・67	①白色黏物の細砂 ②酸化焰・良好 ③により赤褐色5YR 5/4	口縁部の先端は内側に短く折れる。外面は刷毛状工具による帯面調整。内面は荒磨で。	胴部には6条1単位の2連止左回りの帯線状文を、胴部上位には6条1単位の帯線状文を3段施す。	床直とP3内の接合。 焼熱。
13 30	甕	底部 底9.8	南東部 +22 №45	①白色黏物の細砂 ②酸化焰・良好 ③により赤褐色5YR 5/3	大径の平底。		
14 31	壺	胴部下位～底部 高(9.1) 底13.4	北東部 床直 №30・65	①明砂・細砂 ②酸化焰・良好 ③浅黄褐色5YR8/6	大型品の部位と思われる。		
15 11	高杯か	脚部 高(7.6)	脚部 +3.5 №1	①黒雲母細砂 ②酸化焰・良好 ③明褐色5YR5/6	脚部は下位にやや厚みを持ち外反。弱い帯をつくる。外面は縦方向の丁寧な磨き。内面は横方向の丁寧な磨き。		杯部を打ち欠いて二次利用をしているか。
16 10	高杯	脚部2/3残存 高(9.0)	南西部 床直 №2	①黒雲母細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	弱く外反し、縦に向けて直線的に開く。外面は縦方向の磨きで、内面は横で後、斜め横方向の刷毛目。		杯部内面に炭素残存。
17 12	高杯	杯部下～脚部 高(9.9)	北部 床直 №54	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	杯部は斜め上方に立ち上がるが、脚部の帯は小径で外反も弱い。外面は縦方向の磨き。内面は下半に斜め横方向の刷毛目。		焼熱。 杯部内面に黒色付着物。
18 9	壺	口縁部から胴部 上半1/3残存 口(21.8) 高(24.2)	P3・4内 №66・70	①粗砂大の赤色粘土 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。先端は折り返し口縁。胴部外面は刷毛目、内面は刷毛目を消して磨きを重ねる。	口縁部は8条1単位の帯線状文を折り返し部分も含め7段施す。胴部には8条1単位2連止の帯線状文が施る。胴部上位の波状文は5段である。	
19 3	ナリ石 凹石	10.5・6.5 3.7	1号9内 №60	粗粒安山岩 382	表面は数箇所、裏面は1箇所を集中して敲打し、片方の側面も敲打している。裏裏面とも多少すぼんでいる。		
20 4	ナリ石	8.4・5.1 4.2	中央部 №61	粗粒安山岩 257	裏裏面とも丁寧にすぼんでいる。		
21 2	ナリ石	8.2・2.5 1.3	埋没土	重厚石英片岩 38	小口部分、特に図の下端は敲打あるいは磨滅の為か平坦になる。表面は裏面と比較して多少すぼれて平滑になっている。		
22 6	ナリ石	31.0・18.6 6.6	東壁際 №59	粗粒安山岩 6250	裏裏面の一部に使用痕が認められる。		

3号住居出土遺物観察表 (第338図、図版30)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 34	高杯	杯部1/3残存	中央部 床直 №13・16	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/6	大径で、斜め上方に開いて立ち上がる。先端は内側に深く返る。内外面とも横方向の彫で。		断面が丸れている。
2 7	石鏝	1.7・1.2 0.2	北西部 №30	黒輝石 0.32	凹基。胴部的一端が欠損。表面の一部剝離面を磨いている。		

4号住居出土遺物観察表 (第37・38図、図版30・31)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 62	蓋	天井部 径 3.2 高 (1.8)	埋没土	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/6	頸口を逆さにしたような形状で、つまみが付く。外反して端部に向かう。		
2 51	鉢	ほぼ方形 口 11.3 高 4.6～5.6	南東部 床直～+8 №14・15・313	①チャート・白色鉱物少量 ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	器形は著しく歪む。口縁部は外傾著しく立ち上がる。内外面とも斜方向に丁寧な磨きを重ねる。		内外面に炭素吸着。
3 46	甕	口縁部1/3残存 口 (10.5) 高 (5.4)	南東部 +5 №50	①細砂大の白色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は緩やかに立ち上がる。外面は寛楕で、内面は横方向の磨き。		焼熱による変色、変質。
4 48	瓶	1/2残存 口 (14.1) 高 9.2 底 3.4	南東部 +3 №27	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	漏斗状を呈し、口縁部は弧をなして張る。底部は小径で中央に1.3cmの孔を穿つ。外面は磨で後磨き。内面は丁寧な磨き。		底部外面に炭素吸着。
5 59	台付甕	口縁部～胴部上位破片	西部 +9 №173	①チャート細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR5/4	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。胴部は偏平か。	口縁部には8条の、胴部上位には11条の棟条工具による波状文を、頸部には13条の2連止兼状文が施される。口縁部文様帯には刻目文を伴う楕円形の貼付文をみる。	
6 49	台付甕	口縁部～胴部上位 口 (13.8) 高 (6.4)	南東部 +19 №25・33	①白色鉱物粒の細砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は短く、外傾弱く立ち上がる。胴部は偏平か。内面は丁寧な磨き。	断面が剝離しており観察は困難であったが、口縁部から胴部上位に櫛推状文を施す。口縁部の最上位には円形の貼付文を付ける。	焼熱。
7 42	蓋	口縁部 口 18.7 高 7.7	貯蔵穴内 +8 №3	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	斜め上方に外反して立ち上がる。外面は斜方向の斜毛目。内面は磨で後磨き方向の磨き。	頸部に櫛状工具による2連止兼状文が施される。	二次利用されたか。
8 63	高杯	杯部1/3残存 口 (13.7) 高 (4.4)	貯蔵穴内 床直 №7	①輝石の細砂 ②酸化焰・良好 ③	口縁部は弧をなして斜め上方に立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
9 56	高杯か	杯部下位破片	中央部 +19 №35	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	杯部は柄状の突起を残して胴部と接合する。		
10 52	台付甕	台部2/3残存 高 (6.9)	北西部 床直 №155・157	①輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	小型で外反して縦方向に開く。外面は磨き。内面は磨で。		焼熱。
11 58	甕	底部 底 6.7	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6	外面は寛楕で後に一部磨き。		
12 57	甕	底部 底 (6.3)	P 3内 床直 №77	①輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	外面は寛楕で。		
13 61	甕か	底部破片		①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6			

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
14 55	甕	胴部下位～底部 破片 底 (6.7)	南西部 +11 №90	①チャート・白色鉱 物粒・細砂 ②酸化焰・良好 ③黄緑7.5YR7/8	外面は縦方向の丁寧な磨き。内 面は荒撫で。		外面に赤色 塗彩か。
15 45	壺か	底部 底 10.3	南西部 P 3 内 +27 №78・80・86	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は磨で。		被熱。
16 50	甕	胴部下半～底部 高 (8.5) 底 7.0	中央部 +22 №138・260	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	胴部は割く張る。内外面とも荒 撫でに磨きを重ねる。		炭素吸着。 熱を受けてい るか。
17 40	壺	胴部上位の破片	南部 +16 №69	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部は大きく張り出す。外面の 下位は縦方向の磨き。内面は磨 毛目。	破片上位に5条1単位の縞縞 波状文を充填する。最下位に は円形刺突文を伴うボタン状 貼付文がみられる。	波状文より 下位に赤色 塗彩。貼付 文に再利用か。
18 47	甕	口縁部～胴部上 半1/3残存	北西部 5～24 №162・279	①白色鉱物粒・石英 の細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は外側強く立ち上がり、 先端は割く内側に返る。内面は 横方向の磨きを重ねる。	頸部には7条1単位の縞縞波 状文を充填する。最下位には 円形刺突文を伴うボタン状 貼付文がみられる。	被熱による 変色、変質。
19 53	甕	口縁部破片	埋込土	①チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	口縁部は緩やかに外反する。	口縁部から胴部上位にかけて、 9条1単位の縞縞波状文による 波状文が間隔を保って4段段 められる。	
20 54	壺か	口縁部破片	南西部 +33 №112	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③洗黄緑7.5YR8/6		口縁部には縞縞波状文による山 形文が描かれ、先端には刺突 文が加えられる。頸部には7 条1単位と思われる縞縞波状 文による波状文と2連刺突文 がある。	
21 35	壺	胴部下位 高 (11.1)	北東部 +17 №92・132・ 133・137	①輝石・白色鉱物粒 の細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4		胴部は大きく張り出す形状と 考えられる。外面は丁寧な磨 き。	
22 44	壺	底部 底 12.4	南東部 +5 №23	①礫大の白色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大型品の底部。内面は指紋によ る器面調整。		
23 39	甕	口縁部～胴部下 位 口 18.7 高 (28.1)	P 1 内 №294・296・ 297・298・ 299	①黒雲母細砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部の張りは緩やかで、最大径 は下位にある。外面は荒撫で下 半は斜方向の磨きを重ねる。	頸部から胴部上位に縞縞波状 文を重なる。且、腹で、波砂の 振幅も大きい。6条1単位で 10段が認められる。	外面下半に 炭素吸着。
24 37	壺	底部 口 14.0 高 22.0	貯蔵穴内 +7 №4	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は緩やかにくびれ外側弱 く立ち上がる。最大径は胴部中 位にある。内外面とも丁寧な磨 き。		器面は艶消、 変色している。
25 36	甕	口縁部～胴部 中 位 口 14.4 高 (16.8)	貯蔵穴内 +6 №2	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	頸部のくびれは弱く、口縁部は 緩やかに立ち上がる。先端は外 側がそびてやや突る。外面は磨 毛目換撫で。下半部は磨き。内 面は丁寧な磨き。	頸部から胴部上位に乱雑な縞 縞波状文が施される。6条1 単位で4段か。	炭素吸着。 器面は艶消、 底部の穴損 は二次利用 のためか。
26 43	壺 大型	口縁部 口 27.9 高 14.1	貯蔵穴内 +5 №1・2	①輝石多量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	ラップ状に外反し、先端は折り 返し口縁。外面は磨毛目。内面 は横方向の磨き。	頸部に縞縞波状文が施される。口 縁部の先端には貼付文が加え られる。	二次利用さ れたか。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
27 41	甕	口縁部2/3残存 口 (16.9) 高 (7.8)	南西部 +7 №73・102・222	①赤色黏土物の粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	ラッパ状に大きく外反する。先端は折り返し口縁で、明瞭な段がつく。外面は縦方向の刷毛目、内面は横方向の磨き。	胴部には10条1単位の帯母模 縁文に9条1単位の縦方向の 直線文が重ねられ、いわゆる 丁字文が描かれる。	
28 10	ナリ石	27.1・13.7 10.5	P 3 跡 №205	粗粒安山岩 5690	表面と側面の一部をすり面として使用している。		

5号住居出土遺物観察表 (№41・42図、図版31)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 70	蓋	ほぼ完形 口 7.4 高 4.8	1号炉内 №85	①白色黏土物粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤焼5YR5/8	小径の天井部に中央の窪むつまみが付く。外面は丁寧な磨きで、天井部縁近くは磨き。内面は磨き。		被熱による 変質、変色。
2 75	高杯か 小壺	胴部 高 (5.0)	東部 +11 №78	①白色黏土物の粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR7/8	弱く外反して胴部をつくる。縁近くには工具圧痕を残すか。		被熱による 変質、変色。
3 71	壺 小型	口縁部～胴部上 半1/4残存 口 (8.1) 高 (5.8)	埋没土	①白色黏土物粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	口縁部は弱く外反、水平方向に延びる。内外とも丁寧な磨き。		被熱。
4 76	高杯	杯部1/2残存	南東部 床直 №3・84	①輝石粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	カップ状を呈する。杯部はあまり重りを持たず斜め上方に立ち上がる。胴部は小径。胴部内面を磨き丁寧な磨き。		杯部内外面 胴部外面に 赤色塗彩。
5 69	高杯か	胴部 高 (7.7)	埋没土	①白色黏土物・赤色 粘土粒 ②酸化焰・良好 ③赤焼5YR4/8	縦方向に弱く外反する。表面調整は外面が磨削り後磨きか。内面は斜縁方向の肌磨き。		被熱による 変質。
6 73	壺	底部 底 5.4	埋没土	①白色黏土物粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	外面は磨き		
7 65	甕	口縁部大型破片 口 (27.2) 高 (8.1)	北東部 床直 №51	①輝石・金雲母粗砂 ②酸化焰・良好 ③よい焼7.5YR 7/4	折り返し口縁。外面は刷毛目、内面は横方向の磨き。		内面に赤色 塗彩。
8 64	甕	口縁部 口 20.8 高 (11.4)	北東部 床直 №49	①輝石・白色黏土物 粗砂 ②酸化焰・良好 ③洗典焼7.5YR8/6	口縁部は外反重しく立ち上がり先端は折り返し口縁。外面の表面調整は刷毛目後磨き。内面は磨き。	折り返し口縁には1単位7条以上の帯模紋状文が加えられる。蓋部には2連止鼻状文が5返る。標高は12条を数える。	二次利用さ れていたか。
9 66	壺	底部2/3残存 底 11.4	南西部 +14 №19	①白色黏土物粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR5/6	外面は丁寧な磨き。		外面に刷毛 圧痕。
10 67	甕	胴部下位～底部 高 (5.8) 底 10.4	埋没土	①輝石・白色黏土物 粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	外面は丁寧な磨き。		胴部、底部 に刷毛圧痕 か。
11 68	壺	胴部下位～底部 底 6.5	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR5/6	外面は磨き。		被熱による 変色。
12 12	ナリ石	13.7・5.5 3.6	南東部 №47	粗粒安山岩 385	表面ともすり面となっている。表面に敲打による凹みが2箇所ある。小口の両端にも多少の敲打痕が認められる。		
13 14	ナリ石	19.1・5.8 2.2	埋没土 №73	黒色片岩 329	表面が使用面であるのか、自然面であるのか不明。表面に1箇所凹みがある。小口部分は敲打により磨滅。		
14 15	ナリ石	15.5・5.4 2.3	東壁部 №74	費母石英片岩 280	表面は自然面か。小口に多少の敲打痕がみられる。		
15 16	ナリ石	34.0・22.3 14.4	貯蔵穴 №77	デキサイト 13800	大型の置版で、表面と側面に4箇所の使用面が見える。部分的に波線状の削痕がある。石質は比較的細粒である。		

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
16 17	円石	8.6・7.5 3.2	埋没土	粗粒安山岩	表面とも磨打とすり面に使用している。側面にも磨打痕が認められる。		

6号住居出土遺物観察表 (第44区、図版31)

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
1 83	壺	胴部上位の破片	南東部 +10 №85	①細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色YR5/6		胴部の2連土曜状文の直下に 帯輪状文を充満する。刺突 文は区画を伴わない縦線文を 構成するのみ。	一部に赤色 塗彩。
2 84	壺	胴部上位破片	中央部 +29 №51	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい増SYR6/3		6条1単位の帯輪状文の下 には斜方向に横線文を充満 する帯輪状文が配されると思 われる。	
3 78	高杯	胴部上半 高(6.5)	南東部 埋没土	①輝石細砂 ②酸化焰・良好 ③増2.5YR7/6	胴部は弱く外反して裾部をつ くったか。		外面に赤色 塗彩。二次 利用されたか。
4 77	壺	口縁部～胴部2/ 3残存 口(22.9) 高(11.6)	中央部 床直 №49・167	①チャート・輝石の 粗砂 ②酸化焰・良好 ③淡褐色YR6/4	口縁部は緩やかに外傾弱立ち 上がる。先端は内側に短く折れ る。外面がそげ尖る。内部は丁 撃な磨き。	胴部に6条1単位の考えられ る帯状工具による等間隔横線 文を施す。口縁部には帯輪状 文を施したか。	縦線。 内面に炭素 吸着。
5 79	壺	胴部下位～底部 1/3残存 底(16.0)	北東部 +18 №61・62	①チャート・粗砂 ②酸化焰・良好 ③増SYR7/8	大型品の底部。		
6 80	壺	底部1/3残存 底(9.7)	南西部 床直 №137	①輝石・白色鉱物粒 細砂 ②酸化焰・良好 ③増SYR6/6	大型品の底部。外面は丁寧な磨 き。		
7 18	すり石	20.2・5.9 5.9	南西隅 №165	粗粒安山岩 906	すり面Aは長・幅とも平坦に使用し、磨きの程が完全になくなっていて、B・ Cの両面も磨耗し、B面には長軸方向に幅2mm程の削痕が残っているか。同 小口の先端は磨打により潰れている。		

7号住居出土遺物観察表 (第46区、図版32・33)

番号	器種	残存法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
1 109	壺	つまみ	南東部 +28 №52	①粗砂大の輝石・白 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	つまみの上部は平坦である。 天井部は大きく外反か。外面は 炭素で。		
2 95	壺か 小型	2/3残存 口(7.6) 高5.2	南西部 +7 №124	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい増SYR7/4	短い口縁部は強く屈曲、先端は 水平方向に延びる。底部は安定 した平底。内外面とも丁寧な磨 き。		外面及び内 面の口縁部 に赤色塗彩。 内面に炭素 吸着。
3 88	台付壺 小型	口縁部～胴部 口8.7 高6.6	P2内 +21 №126	①粗砂大の赤色胎土 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐色YR5/8	口縁部は内湾みに立ち上がる。 胴部は浅い。内外面とも丁寧な 磨き。	胴部に7条1単位の帯状工具 による2連土曜状文を並らした 後、口縁部及び胴部上位に 5～7条1単位の帯輪状文を 施す。	一部に炭素 吸着。
4 110	台付壺か	台部上半	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐色2.5 YR6/4	外面は磨き。内面は刷毛目、炭 素で。		
5 102	高杯か	胴部1/2残存 高(8.5)	南西部 床直 №112	①粗砂大のチャート・ 白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色YR5/8	外面は縦方向の磨き。内面は斜 方向の炭素で。		

番号	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・形 状 の 特 徴	文 様	備 考
6 111	台付壺か	台部下半1/2残存	南西部 灰直 №140	①粗砂大のチャート・白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面は縦方向に直削り、貫徹で、内面は貫徹で。		
7 94	台付壺か	台部	南西部 灰直 №105	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	外面は縦方向に磨き。内面は丁寧な発塵で。		
8 93	高杯	部2/3残存 高 (8.7)	南東部 +7 №67	①粗砂大のチャート・白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/8	内面は斜方向に貫徹で。外面は丁寧な表面調整か。		被熱による変色。
9 89	壺 小型	口縁部2/3残存 口 8.3 高 9.3	東部 +9 №14	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は緩やかにくびれ、外縁弱く立ち上がり、最大径を持つ。口縁部は表面調整の刷毛目を残す。胴部は磨き。	口縁部先端と胴部上位に幅広の波状文、胴部には8条1単位と認められる2連止帯幅横文が施される。	灰黒吸着。胴部の磨滅・刷毛が著しい。
10 107	壺か	底部破片	中央部 +10 №92	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/8			
11 113	瓶	底部破片	北東部 埋没土 №4	①粗砂大の石英・白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/8	小型の鉢状を呈していたか、中央に径1.2cm程度の小孔が穿つてある。内面は丁寧な磨き。		
12 91	鉢	口縁部～一部分のみ残存 口 14.1 高 7.6	南西部 埋没土 №135	①粗砂大の白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は外反弱く斜め上方に立ち上がる。内外面とも貫徹で後磨きか。内面には指頭圧痕が認められる。		一部に灰黒吸着。
13 90	鉢	ほぼ完形 口 14.9 高 7.4	P 2 内 +4 №123	①粗砂大の白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は上半に至り膨らみ弱く、内湾ぎみに立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
14 98	高杯	口縁部破片位 (15.7) 高 (7.1)	P 4 内 +16 №36・47	①精選、細砂の輝石少量 ②酸化焰・良好 ③淡褐色5YR8/4	口縁部の先端は外側がそげてやや尖る。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
15 96	高杯	杯部1/3残存 口 (18.6) 高 (7.2)	南西部 +15 №98	①粗砂大の白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	内外面とも横方向の丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
16 97	高杯	口縁部1/3残存 口 (17.0) 高 (7.9)	P 3 内 +24 №73	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	内外面とも横方向の丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
17 87	壺	口縁部～胴部上位 口 28.9 高 19.8	南東部 +3 №57・69・153	①粗砂大の白色胎物粒多量 ②酸化焰・良好 ③浅黄褐色5YR8/6	口縁部は強くくびれる胴部から外反強く立ち上がる。先期は折り返し口縁。口縁部の外面には表面調整のための刷毛目を残す。	胴部から胴部上位には幅広の帯幅横文に縦方向で2本1単位の直線文が重ねられ、いわゆる丁字文が埋められている。	表面は磨滅が著しい。二次利用されたか。
18 92	壺	口縁部～胴部上位 口 14.2 高 (11.2)	南東部 +12 №78	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐色5YR5/4	口縁部は胴部で弱く、直線的に立ち上がる。内面及び胴部外面は丁寧な磨き。	胴部に8条1単位と思われる2連止帯幅横文を施した後、口縁部の全面と胴部上位に幅広波状文を充塞する。	被熱。一部に灰黒吸着。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
19 86	台付罎	ほぼ完形 口 16.3 高 29.6	南東部 +17 N99・101・102	①細砂大の輝石・白色胎土 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部はくの字状に外傾、肩部は内側に短く折れる。胴部は強く張り球形を呈する。台部は低く、ハの字状に外反する。口縁部外面には刷毛目を残すが、他は内外面とも丁寧な磨き。	口縁部に帯柄波状文、この上に3単位、円形刺突文を伴うボタン状文を貼付する。胴部には11条1単位の帯状工具による2連止溝状文を巡らす。胴部上位には9条1単位の帯柄波状文が2段あり、文様帯の下位には、口縁部同様のボタン状文が6単位貼付される。	灰素焼成。
20 85	罎	完形 口 15.1 高 22.0	南東部 +7 N90	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	口縁部はラッパ状に外反、先端は折り返し口縁。胴部の張りは弱く、最大径は下位にある。器面は丁寧な磨き。		器面の荒れが著しい。外面及び内面の口縁部に赤色塗彩。
21 105	台付罎	口縁部破片	南東部 +11 N68	①細砂大の輝石・白色胎土 ②酸化焰・良好 ③明赤帯5YR5/8		7条1単位と思われる帯柄波状文が2段認められる。	
22 99	罎	口縁部～胴部上位 口 (18.8) 高 (12.2)	北東部 埋没土中 N23・26・27	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR6/4	口縁部は屈曲してくの字状に外反する。胴部の張りも強い。内面は丁寧な磨き。	口縁部は全面に波形の乱れた帯柄波状文を充塞する。胴部上位にも波状文。胴部には9条1単位の帯状工具による2連止溝状文が施される。	
23 100	台付罎	口縁部～胴部上位 口 (16.0) 高 (6.8)	南東部 +11 N71・91	①粗砂大の赤色胎土 ②細砂の白色胎土 ③酸化焰・良好 ④橙5YR6/6	口縁部は短く、外傾固く立ち上がる。口縁部の外面には器面調整の刷毛目が残る。内面は丁寧な磨き。	口縁部先端は、4条1単位の帯柄波状文を巡らした後、刺突文を伴うボタン状貼付が付く。胴部には9条1単位と思われる2連止溝状文を、胴部上位には4条1単位の波状文を2段巡らす。	
24 101	罎	口縁部破片	南西部 埋没土 N136・138	①粗砂大の白色胎土 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤帯5YR5/4	先端は外傾がそび、弱く尖る。		焼熱による変色、変質。
25 103	罎	口縁部破片	南西部 床直 N109	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③洗黄帯7.5YR8/4	ラッパ状に大きく外反していたか。		
26 104	罎	口縁部破片	北東部 埋没土 N2	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③洗黄帯7.5YR8/6	先端は幅広い折り返し口縁。		
27 19	異形石罎	2.3・0.8 0.35	埋没土	玉髄 0.85	凹基。くりこみが著しく胴部欠損後、欠損部を二次調整。		

8号住居出土土物観察表 (第49図、図版33)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2 127	台付罎か 小型	口縁部～胴部上位破片	西部 床直 N10	①細砂大の白色胎土 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は強く屈曲、先端は水平方向を向く。	口縁部の先端に刷目文が施される。	外面及び口縁部内面に赤色塗彩。
3 122	罎か	口縁部1/3残存	南西部 +3 N48	①細砂大の白色胎土 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外反して立ち上がる。内面は丁寧な磨き。	口縁部上位に10条1単位の帯柄波状文を2段施す。胴部には1単位5条以上の波状文がみられる。	

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
4 123	台付壺か	口縁部～胴部上 位の破片	両西部 灰直 №23	①細・粗砂のチャ ート・細砂大の白色藍 物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	口縁部は短く、外縁固く立ち上 がる。	波形の乱れた帯輪状文を充 填する。	被熱。
5 125	壺か	口縁部破片 口 (23.1) 高 (6.1)	両西部 床直 №24	①チャートの微・細 砂の白色藍物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	先端は外面がそげ薄くなり実 る。内面は丁寧な磨き。	波形の乱れた帯輪状文を充 填する。9条1単位か。	一部に灰黄 着色。
6 120	壺	口縁部1/2残存 口 (20.0) 高 (8.5)	南東部 -2.6、+0.2 №35・36・39	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR6/4	外反弱く立ち上がる。内面は磨 き。	口縁部の端部には何日文が施 文される。以下には帯幅の大 きく、波形の乱れた帯輪状 文が充填される。8条1単 位で8段以上出る。	床直とP2 内の接合、 灰黄着色。
7 126	壺か	口縁部破片 口 (18.2) 高 (7.4)	両西部 +11 №34	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	内面は丁寧な磨き。	口縁部上半に帯輪状文2段 による文様帯がある。9条1 単位か。頸部帯状文は4条以 上の帯状工具による。	二次被熱。
8 124	台付壺 小型	口縁部～胴部上 位 口 9.9 高 (5.2)	両西部 床直 №22	①粗砂大の白色藍物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	胴部は狭く扁平な形状か。内面 は丁寧な磨き。	胴部に9条1単位の帯状工具 による2連止帯状文施文後、 口縁部と胴部上位に帯輪状 文2段による文様帯を配す。 口縁部にはボタン状胎付文を 5単位付す。	
9 116	台付壺	口縁部～胴部は 1/2残存 台部下半欠損 口 15.7 高 (15.6)	東部 +5 №. 72	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色藍物粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/8	口縁部は短く、胴部は扁平で深 みがない。	口縁部と胴部上位に帯輪状 文を施文する。胴部には10 条の2連止帯状文が施る。	被熱。
10 131	高杯	杯部下～胴部 高 (9.3)	西部 床直 №10	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面は縦方向に丁寧な磨き。内 面は黄緑で。		杯部内外面、 胴部外面に 赤色塗彩。
11 132	高杯か	胴部 高 (8.0)	両西部 +床直 №49	①粗砂大の輝石・白 色藍物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	基部は細くしまり、縦方向に向 けて弱く開く。		二次被熱に よる変色、 灰黄。
12 119	壺	口縁部～胴部中 位1/2残存 口 (17.1) 高 (20.2)	西部 灰直 № 8・9	①粗砂大のチャ ート ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は緩やかに外反、先端は 折り返し口縁。胴部下 半と内面 全体は丁寧な磨き。	胴部に7条1単位の帯状工具 による2連止帯状文が施る。 その直下から胴部上位は幅 広く帯輪状文の文様帯となる。 8条1単位で4段出る。	灰黄着色。
13 117	壺	ほぼ完形 口 14.8 高 25.2	中央部 床直 №60	①粗砂大のチャ ート・赤色粘土 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/8	口縁部は外縁固く立ち上がり、 先端は外面の首内が薄くなる。 内面は丁寧な磨き。	腹面が荒れており腹面に因襲 を帯びた。口縁部の先端と胴 部から胴部上位にかけて帯輪 状文を施す。胴部以下のそ れは4～5段か。	被熱による 変色、灰黄。
14 128	壺	胴部下位～底部 底 7.5	南東部 +17 №57	①粗砂大の白色藍物 粒 ②酸化焰・良好 ③淡黄橙7.5YR5/4			外面に赤色 塗彩。
15 129	壺か	底部1/2残存 底 (9.0)	両西部 +11 №32	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の白色藍 物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐2.5 YR4/4	内外面とも丁寧な磨き。		

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
16 130	壺	胴部下位～底部 底 4.5	南東部 +5 №72	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR6/6	底部は円盤状の台部。		
17 121	壺か	胴部上平2/3残 存 (10.2)	P4内 №123	①粗砂大の赤色胎土 粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐色5YR4/8	やや丸みを帯びる。内外面とも 横方向に丁寧な磨き。	胴部に6条以上を1単位とする 磨状工具による2道止業状 文が巡る。その比割部上位に 6条1単位で2段施文する。	床面に埋没 されていた。 炭素吸着。
1 20	管玉 パーント シェンナー	1.6・0.25 0.3	南西部 №5	赤色珪質岩 0.14			

9号住居出土遺物観察表 (N62・5302、603234・35)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
1 142	鉢か 小型煎製	口縁部一部欠損 口 4.5 高 2.7	中央部 +21 №12	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	胴平の形状。口縁部は直立ぎみに 立ち上がり、器内は深い。器 面は比較的丁寧な磨で。		
2 137	鉢	完形 口 13.2 高 6.6	南東部 +9 №2	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	口縁部は弧をなさず、斜め上方 に直線的に立ち上がる。底部は 小径の平底。内外面とも丁寧な 磨き。		
3 138	碗	口縁部1/3残存 口 (9.6) 高 9.3	1号炉内 +5 №5・14	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③赤褐色5YR4/6	口縁部は内湾して立ち上がる。 壺の下半を切り取ったような形 状を呈する。外面は丁寧な磨で 後磨きか。内面は荒磨りか。		内外面に赤 色塗彩。
4 141	台付壺か	口縁部～胴部上 位2/3残存 口 8.9 高 (7.4)	埋没土	①チャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③増5YR6/6	口縁部はくの字状に屈曲。胴部 は球形を呈する。口縁部は横磨 で。胴部は磨で。内面は荒磨りか。		
5 144	壺	口縁部1/2残存 口 (13.0) 高 (5.6)	北西部 床直 №5・13	①細砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR6/6	口縁部は短く、斜め上方に立ち 上がる。	胴部に10条1単位と思われる 磨輪業状文が巡る。2道止か。	焼熱による 変質、変色。
6 147	壺	口縁部破片	埋没土	①粗砂大の輝石・ チャート ②酸化焰・良好 ③浅黄褐色10YR8/4	先端は内側に短く折れる。外面 には斜方向の刷毛目を残す。	先端に4条1単位の磨輪業状 文を施し、その上に円形刺突 文7個を伴うボタン状貼付文を 付す。	
7 149	壺	口縁部破片	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③増5YR6/6			
8 140	壺	口縁部 口 21.3 高 (9.5)	北東部 床直 №1	①細砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR6/6	口縁部は折り返し口縁で強く外 反する。	折り返し口縁部分には1単位 7条以上と思われる磨輪業状 文が巡る。胴部には1単位5 条以上の2道止業状文が施文 される。	内面の一部 に炭素吸着。
9 143	壺	胴部1/4残存 高 (18.9)	1号炉内 №17	①粗砂大の白色胎物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③増5YR6/6	胴部は無花果状を呈する。外面 は丁寧な磨き。	胴部上位には磨輪業状文による 文様帯が構成される。直下 に磨輪業状文を配し、内面 には斜行する直線文を充満する。 両文様帯の境には刺突文を伴 う長円形のボタン状貼付文を 付す。	
10 139	壺	口縁部～胴部上 位 口 14.7 高 (10.8)	南東部 -6 №6	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③によい増7.5YR 6/3	内面は丁寧な磨き。	高文は全体に粗磨。胴部に7 条1単位の2道止磨輪業状 施文後、口縁部全面と胴部上 位に磨輪業状文を充満する。 口縁部は4段、胴部は3段のみ。	被熱。 内面は炭素 吸着。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
11 145	椀か	底部1/3残存 高 (5.5) 底 (4.9)	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6	胴部は小径の底部から丸みを もって張り出す。内外面とも 丁寧な磨き。		
12 136	台付甕	口縁部～胴部 (胴部は1/2残 存) 口 12.9 高 (11.8)	南東部 + 3～60 № 8・9	①粗砂大のチャ ート・細砂大の白色 粘土 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	口縁部は短く外反り立ち上 がる。胴部は扁平である。外面胴 部下半と内面全面は丁寧な磨き。	胴部に5条1単位の2連止 縞縞状文を施した後、口縁部に 2段、胴部上位に1段、縞 縞状文を施文する。6本1単 位の施文具か。	内面に灰炭 灰着、黒み を帯びる。
13 146	高杯か	底部1/2残存 高 5.6	中央部 + 2～18 №11	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6	胴部は下位に弱い張り込みをも って立ち上がる。外面は磨き。内 面は荒削り。		外面の一部 に灰炭灰着。
14 150	壺か	口縁部1/4残存 口 (7.0) 高 (2.0)	埋没土	①粗砂大のチャ ート・輝石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	先端は折り返し口縁で、弱い押 圧が加えられる。		
15 133	壺	口縁部2/3残存 口 22.6 高 36.2	南東部 + 8 № 5	①粗砂大のチャ ート・白色 粘土 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	胴部は細くびれる。口縁部は 斜め上方に外反し、先端は折 り返し口縁。胴部は中に最大径 を有し、算盤玉状を呈する。口 縁部と胴部上・中位には剛毛目 が、胴部下位には磨き。	折り返し口縁部分には9条1 単位の縞縞状文が重ねられ る。胴部の縞縞状文は11条1 単位の縞縞状文による2連止 である。胴部上位には11条1 単位の縞縞状文が3段延る。	胴部下位に 灰炭灰着。
16 134	壺	完形 口 20.3 高 34.0	南東部 + 6 № 4	①燻大のチャート・ 細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	口縁部の外反は緩やかで先端は 幅広の折り返し口縁。胴部下半 と内面全面は丁寧な磨き。	口縁部から胴部をへて胴部上 位までを縞縞状文で先装す る。施文具は8条1単位の縞 縞状文と思われるが部分的に 4～8本が両面にあたっている 。文様は波形の幅幅が狭く、 各段が重複している部分も多 い。	
17 135	壺	口縁部は一部分 のみ残存 口 (18.9) 高 32.0	南東部 + 24 № 3	①燻大のチャート・ 細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	133と比較して口縁部の立ち上 がりが低く、大きく外反する。 先端は折り返し口縁。胴部は中 位のやや下に最大径を有し、算 盤玉状を呈する。口縁部外面は 細かな剛毛目、胴部下半は磨き。	折り返し口縁部分には粗い別 目文を重ねる。胴部には10条 1単位の縞縞状文による2連 止縞縞状文が施される。胴部 上位には10条1単位の縞縞状 文を3段配している。	胴部外面に 灰炭灰着。 底部外面は 著しく磨耗 している。
18 21	すり石	18.1・10.9 6.2	1号伊内 №19 1807	粗粒安山岩	小口の一隅が薬打によって潰れている。		

10号住居出土遺物観察表 (第54回、図版35)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 158	台付甕	口縁部～胴部破 片	南西部 + 8 №52	①細砂大の輝石・赤 色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	口縁部は短く外反する。胴部は 扁平である。内面は丁寧な磨き。	胴部に9条1単位の縞縞状文 による縞縞文を施す。止めの 有無は不明。	
2 157	埴	口縁部1/2残存 口 (12.0) 高 (3.9)	埋没土	①燻大のチャート・ 細砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/6	口縁部は肩部との間に弱い装を 持つ。器内は滑い。		焼熟。 土師器である。 。
3 159	椀か	口縁部破片	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	内外面とも丁寧な磨き。		
4 184	台付甕	上部 高 (5.7)	中央部 + 31 № 8	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	低い器高で、緩やかに外反する。 外面は丁寧な磨で後磨き。内面 は横方向の磨で。		
5 165	台付甕か	上部 高 (3.5)	埋没土	①粗砂大の白色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/4	小型で器高は低い。内外面とも 荒削り。		

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
6 152	鉢	完形 口 15.7 高 8.2	北東部 -4 No36	①粗砂少量 ②酸化焰・良好 ③橙2.YR6/6	口縁部は外傾斜の傾め上方に立ち上がる。器面は粗い肌で。		
7 156	鉢	上半は1/5残存 口 (15.8) 高 7.1	中央部 +18.5 No15	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR5/6	口縁部は小径の底部から弧をなして斜め上方に立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		内面に灰黒着色。
8 153	瓶	口縁部2/3残存 口 (15.9) 高 11.2 底 4.3	北東部 灰土 No41	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR6/6	器形は歪んでいる。器高は深く、胴状に丸みをもつて立ち上がる。底部は中央に径1.3×1.0cmの長円形の穿孔がなされる。内外面とも丁寧な磨き。		被熱。 肌割になる。
9 155	鉢	口縁部2/3残存 口 12.9 高 5.9	中央部 +5 No31	①粗砂大の白色鉱物粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は斜め上方に立ち上がり先端が強く内折して終わる。円板状の底部が付く。外面は磨き状の肌割で。		底部外面に灰黒着色。内面は割離している。
10 154	壺	胴部～底部 高 13.0	2号内内 灰土 No35	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	胴部外面には斜方向のタッチの弱い網目目。内面は横方向の肌割で一部を磨く。		二次利用している。
11 160	甕か	底部 底 6.3	東部 +57 No44	①石英・チャートの塵・細砂の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明黄焼10YR8/6	外面は丁寧な磨き。		一部に灰黒着色。
12 162	甕か	底部 底 5.7	中央部 +15 No21	①粗砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR7/4	外面は肌割で。		外面に灰黒着色。
13 163	甕か	底部2/3残存 底 (8.3)	中央部 +13 No32	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は肌割で。		
14 161	甕か	底部 底 7.6	中央部 +55 No33	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面は凸状を呈する。		器面に磨耗している。
15 22	すり石	12.0・7.0 4.4	埋没土	粗粒安山岩 551	表裏面の一部をすり面として使用。小口の先端に敲打痕。		

11号住居出土遺物観察表 (第99～618、69035～37)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
1 179	蓋	完形 口 8.7 高 5.0	南西部 +4 No71	①粗砂大の白色鉱物粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	つまみは中央部が胴体状にへこみ、径4mm程の小孔が貫通する。外面は網目目、肌割で。端部は横割で。		一部に灰黒着色。
2 178	鉢	口縁部2/3欠損 口 (11.8) 高 6.0	南東部 灰土 No40	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がり先端は強く内折する。口縁部は肌割で、外面は磨削り。内面は肌割で。指距打痕を残す。		内外面に灰黒着色。
3 180	鉢	口縁部2/3欠損 口 (15.2) 高 6.5	北西部 +6 No67	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR7/3	口縁部は小径の底部から外傾著しく立ち上がる。		被熱。 灰黒着色。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
4 181	鉢	1/3残存 口 (17.2) 高 9.0	南東部 +4 №25	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR7/3	他と比較して法量が大である。 口縁部は弱く張り、斜め上方に立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		外面に炭素吸着。
5 194	高杯	杯部1/3～胴部 上位 口 (18.2) 高 (14.5)	北部 床直 №51・58・59・ 63	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR7/3	口縁部は弧をなして斜め上方に立ち上がる。口縁部の外面は粗磨あるいは斜方向の刷毛目後、粗磨な磨きを重ねる。胴部は丁寧な磨き。		
6 196	台付壺か	台部 高 (5.4)	南西部 +7 №70	①粗砂大の白色紅物 粒と輝石 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/6	台部は低く、小径である。		被熱。
7 197	高杯か	脚部1/4残存 高 (7.0)	P 2 内 床直 №5	①粗砂大の白色紅物 粒と輝石 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/6	外面は磨擦で磨きを重ねる。		
8 191	高杯か	脚部か 高 (6.0)	北東部 床直 №49	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	小径。基部は接合部分で割裂している。外面は丁寧な磨き。内面には磨擦が残る。		外面に赤色塗彩。内面は炭素吸着、黒色みを帯びる。
9 192	高杯か	脚部 高 (7.0)	西部 床直 №69	①粗砂大の白色紅物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤焼5YR5/6	脚部は概近くになり外反の度合を増す。内面は横方向に磨擦で。		熱のためか器面は荒れている。
10 189	台付壺か	胴部最下位～台 部 高 (8.2)	中央部 床直 №46	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	台部は低く、斜め外方に開く。外面は丁寧な磨き。台部内面には刷毛目を残す。		一部に炭素吸着。
11 195	台付壺か	胴部下位～台部 高 (7.6)	北西部 +3 №68	①粗砂大の白色紅物 粒と輝石 ②酸化焰・良好 ③赤10R6/6	外面は丁寧な磨擦で。内面の下に刷毛目を残す。		上端は接合部分で割裂しているが、二次利用により割断面を調整しているか。
12 172	台付壺	口縁部～胴部下 位 口 9.5 高 (8.9)	P 6 内 №12	①輝石・細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/3	他の同器種の形状と比較して、胴部の張りや弱いが深みがある。器形の最大径は口縁部にある。	口縁部の下平から胴部上位に5条1単位の帯幅波状文、4条による文様帯を配する。	被熱。
13 176	台付壺	口縁部～台部上 位 口 11.0 高 10.6	北部 床直 №62	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR7/3	胴部は偏平で下平の丸みが強い。	胴部に8条1単位、2連止の帯幅波状文を施した後、口縁部と胴部上位に各1段、6条1単位の帯幅波状文を施す。	被熱。 割削になり、炭素吸着により黒みを帯びる。
14 173	台付壺	口縁部～台部は 1/2次損 口 (9.2) 高 (12.5)	南東部 床直 №39・96	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR5/6	胴部は偏平ながらも13と比較するとやや深みがある。胴部中位以下の外面は磨擦で後磨きを施す。内面は胴部に磨き。台部に磨擦で及び刷毛目。	口縁部には10条1単位の帯幅波状文が返る。胴部には10条1単位、2連止の帯幅波状文を施す。その後胴部上位に同じ施文具で波状文を加える。	外面に炭素吸着。
15 186	台付壺	口縁部～胴部中 位1/3残存 口 (12.3) 高 (5.6)	埋没土	①粗砂大の白色紅物 粒・チャート・細砂 大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤焼5YR5/6	内面は丁寧な磨き。	全ての施文に10条1単位の帯幅波状文を用いる。胴部に2連止帯幅波状文後口縁部と胴部上位に各1段、波状文が返る。	炭素吸着。 被熱。

番号	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装形の特徴	文様	備考
16 169 171	台付壺	口縁部～肩部 (上位は1/2欠損) □ (15.6) 高 19.5	P 2内 床直 №5・25	①チャート礫・粗砂 大の赤色粘土 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/6	口縁部は短く外反する。胴部は 上位で張る。	頸部に9条1単位2連止の櫛 推波状文施文後、胴部上位に 櫛推波状文を巡らす。	断面は充 れている。
17 193	台付壺	口縁部～胴部 □ (14.6) 高 (12.7)	北部 床直 №63	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③におい焼5YR6/3	口縁部は外傾弱く立ち上がる。 外面の胴部下半と内面全面は丁 事な磨き。	口縁部は櫛推波状文3段で充 填され、先頭に円形のボタン 状貼付文がある。3単位分。 頸部には8条1単位2連止の 櫛状文が巡る。胴部上位には 櫛推波状文2段があり、文様 帯下端にボタン状貼付文がみ られる。	灰素吸着。
18 183	台付壺	口縁部～胴部中 位 □ 13.1 高 8.0	東部 床直 №43・45	①粗砂大の白色鉱物 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	口縁部は短く、外反して立ち上 がる。胴部は偏平か。内面は丁 事な磨き。	口縁部は上半に7条1単位と 思われる櫛推波状文を2段配 す。頸部の櫛推波状文は7条 1単位で2連止。胴部上位の 波状文は3段である。	外面に灰素 吸着。
19 187	台付壺	口縁部～胴部中 位1/2残存 □ (14.6) 高 (7.7)	南東部 床直 №26・30	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③におい赤褐5YR 5/4	口縁部は緩やかに立ち上がり、 全体形状に深みが感じられる。 胴部上位の外面及び内面全面に 丁寧な磨き。	頸部には10条1単位2連止の 櫛推波状文が施文され、その 直下の胴部上位に櫛推波状文 が巡る。	焼熟。
20 174	壺	口縁部～胴部中 位 □ 11.4 高 (9.0)	東部 床直 №41	①粗砂大のチャート ・輝石 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	口縁部は緩やかに立ち上がり、 胴部はあまり張らない。外面に は刷毛目を残すが、内面は丁寧 な磨き。	頸部には9条1単位の2連止 櫛推波状文を施文する。8条 1単位の櫛推波状文は口縁部 に1段、胴部上位に2段施さ れる。	一部に灰素 吸着。
21 184	壺	口縁部～胴部上 位 □ 13.5 高 (7.6)	北東部 床直 №50	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③におい焼5YR7/3	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。内面は丁寧な磨き。	口縁部には7条1単位の櫛推波 状文3段を充填する。頸部も 7条1単位2連止の櫛推波状 文が巡る。胴部上位の櫛推波 状文は1段分。	灰素吸着。
22 177	壺	口縁部～胴部上 位 □ 14.2 高 (9.8)	南東部 床直 №38	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③におい焼7.5YR 6/4	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。	口縁部から胴部上位までを櫛 推波状文で充填する。5条1 単位を7段配するも、間隔を あけ、波形も乱れている。	焼熟。
23 175	壺	口縁部～胴部上 位 □ 13.1 高 (12.0)	南東部 +4 №27	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③赤褐2.5YR4/6	口縁部は頸部で強く傾角、長く 立ち上がる。口縁部の外面には 刷毛目を残すが、内面は丁寧な 磨き。	口縁部上半には10条1単位の 櫛推波状文が2段近る。頸部 の櫛状文は10条1単位の2連 止である。胴部上位には口縁 部文様帯と同様の波状文を2 段施文する。	内面に灰素 吸着。
24 185	壺	口縁部～胴部1/ 3残存 □ (15.2) 高 (9.4)	P 6内 床直 №10	①粗砂大の白色鉱物 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③におい赤褐5YR 5/4	口縁部は外反弱く立ち上がる。 内面は刷毛目後粗雑な磨き。	全ての施文に14条1単位の櫛 状工具を用いる。口縁部には 櫛推波状文を2段、頸部には 2連止櫛状文を施文する。胴 部上位には1段が残存する。	内面に灰素 吸着で褐色 みを帯びる。
25 182	壺	口縁部～胴部 □ (14.4) 高 (8.9)	南西部 床直 №72	①粗砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③赤7.5YR4/6	口縁部は外反して立ち上がる。 内外面とも丁寧な磨き。		焼熟になり、 断面が割離 している。 外面と口縁 部内面に赤 色塗彩。

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
26 167	壺	口縁部～胴部 口 18.9 高 (14.5)	P 3内 №7	①粗砂・赤色紅土粒 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	口縁部は胴部下位で傾く屈曲、緩やかに立ち上がる。先端は折り返し口縁。外面は刷毛目、内面は刷毛目後傾方向の丁寧な磨き。	折り返し口縁部分には6条1単位の帯状波状文を施す。胴部には6条1単位の帯状波状文を3本1単位の縦直線文で切っている。胴部上位の文様等は8条1単位と思われる帯状波状文4段を配する。	内面に黒色の付着物。
27 166	壺	口縁部 口 27.7 高 (17.0)	南東部 床直 №26	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	口縁部は外反著しく立ち上がり、先端は2段の折り返し口縁。(中央は直線状線で分割したか)外面には刷毛目を残すが、内面は丁寧な磨き。	折り返し口縁部分は帯状波状文施す。円形刺突文を8、9個作りボタン状貼付文を5単位付す。更に上段には細い刷毛目を加える。胴部には10本1単位で2連止の帯状波状文を施す。	二次利用したか。一部に炭素吸着。
28 168	壺	口縁部 口 27.8 高 (10.3)	P6内、南東部 床直 №8・13-22・33	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③鉄赤焼2.5YR7/4	口縁部は著しく外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。内外面とも丁寧な磨き。	折り返し口縁部分には1単位6条以上の帯状波状文を施す。胴部には2連止の帯状波状文を施す。	
29 170	壺	口縁部～胴部破片	P6内、南東部 +3 №19・33	①細砂大の赤色粘土粒・粗砂大の白色紅土粒 ②酸化焰・良好 ③よび赤焼2.5YR5/4	口縁部は緩やかに外反、先端は内側に肥く厚厚。胴部中央の外面には刷毛目を残す。内面は丁寧な磨き。	胴部に9条1単位の2連止帯状波状文を施す。口縁部及び胴部上位の帯状波状文に移る。口縁部の波状文は5段、胴部は1段である。	炭素吸着。
30 188	壺	口縁部と胴部の破片	北部 床直 №30-34・52・54・95	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③よび赤焼7.5YR5/4	口縁部の先端は折り返し口縁。胴部は算盤玉状を施すか。胴部中央～下位の外面は磨き。	胴部には8条1単位の3連止帯状波状文が施される。口縁部と胴部上位には幅広く8条1単位の帯状波状文による文様が配される。口縁部は5段、胴部は4段が施すか。	被熱。
31 24	くぼみ石	11.8・7.3 5.3	西壁部 №29	粗粒安山岩 465	敲打による凹みが表面に5箇所、裏面に2箇所認められる。側面は多少すり面として使用しているか。小口部も若干敲打している。		
32 27	すり石	29.5・14.6 14.4	南東部 №101	デライト 6660	断面三角形の円縁の2側面及び、その面により形成される稜の部分すり面としている。特に稜の部分は平滑である。		
33 23	砥石	22.3・12.1 7.3	P 2部 №6	砂岩 2940	大型の重さと考えられる。両面の磨削が著しいが、使用面が1面と部分的に敲打痕が認められる。		
34 28	打製石斧	19.6・10.2 4.0	北西隅 №80	硬質泥岩 930	片面に自然面を残す。側部の中央に鋭いくりこみがある。両面に二次調整による割離痕が認められる。		
35 25	くぼみ石 すり石	11.1・8.9 6.1	北東部 №82	粗粒安山岩 686	西み石、すり石に同用。小口端部をはじめ側面も若干敲打に使用している。		
36 26	すり石	19.6・9.6 5.0	南東部 №86・88	粗粒安山岩 1338	表面面とも広い面をすり面に使用。小口の両端は若干敲打している。側面も敲打か？。被熱。		

12号住居出土土物観察表 (第62図、図解37)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 205	台付壺	口縁部～胴部上位破片	北西部 +4 №44	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③よび赤焼7.5YR6/3		口縁部先端に波状文を施す。胴部に9条1単位の波状文が施される。胴部上位にも波状文が1段みられる。	外面に炭素吸着。
2 207	壺	口縁部破片	埋没土	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/8		口縁部は乱れた帯状波状文を先導する。	被熱。
3 208	壺	口縁部破片	南西部 +9 №41	①粗砂大の白色紅土粒 ②酸化焰・良好 ③明焼7.5YR5/4		口縁部は波形の幅幅の大きい帯状波状文を先導する。	被熱。

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
4 212	蓋か	口縁部破片	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい黒7.5YR 5/3	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分に1単位6 条以上の櫛歯状文を施す。	灰素吸着。
5 206	高杯	口縁部破片	南西部 床直 No19	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③黄褐色7.5YR7/8	口縁部の先端は屈曲して外反、 水平方向に基びる。		内外面に赤 色塗彩。 被熱。
6 218	高杯か	脚部破片	南西部 床直 No16	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③明黄褐色10YR6/7	内外面とも推定。		
7 217	蓋か	つまみ部～天井 部 高(4.6)	中央部 +4 No52	①粗砂大の白色紅物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐色5YR 5/4	つまみはリング状を呈し、焼成 前に内外両面から穿孔を試みて いるが、貫通していない。外面 には刷毛目、内面には篋脚で 装す。		内面に灰素 吸着。 被熱。
8 213	壺か	底部破片 高(6.7)	北西部 床直 No47	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色紅物粒 ②酸化焰・良好 ③明褐色7.5YR5/6	外面は篋脚で。		外面に灰素 吸着。
9 214	壺か	底部破片 高(8.9)	北西部 床直 No48	①粗砂大の白色紅物 粒 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	外面は篋脚で。		一部に灰素 吸着。
10 29	凹石	12.3 × 8.0 4.5	南西部 No53	粗粒安山岩 S17	表面面とも磨打による凹みが連続している。中核の凹みは表面面とも各6箇所 で側面を磨打している。図示した側面の一部はすり面として使用。		

13号住居出土遺物観察表 (第66回、図版37)

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 226	鉢	口縁部 口 13.9 高 7.0	P1内 No9	①粗砂大のチャート・ 白色紅物粒 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	口縁部は斜め上方に立ち上がる。 先端は外側の面内が薄くなる。 内外面とも篋脚で装飾。		一部灰素吸 着。二次利 用されたか。
2 225	台付壺	口縁部～胴部下 位 口 14.3 高(12.4)	南東部 床直 No14・18	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐色5YR7/4	胴部は深みがあり、丸く張る。 内面は丁寧な磨き。	口縁部と胴部上位に櫛歯状文。 胴部の磨打工具は6条1 単位。頸部には10条2連止の 櫛歯状文が施す。	外面に灰素 吸着。 被熱。
3 223	台付壺	口縁部～胴部中 位 口 8.9 高(11.0)	南東部 床直 No17	①粗砂大の白色紅物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③褐色2.5YR6/8	小径。胴部はやや丸みを帯び、 深みがある。	口縁部から胴部上位に櫛歯状 文による文様帯が施される。 底状文は4条1単位で3段が 通っていると思われる。	被熱による 状文による文様帯が施される。 底状文は4条1単位で3段が 通っていると思われる。
4 227	壺か	底部 高 6.4	埋没土	①粗砂大の白色紅物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黒7.5YR 6/4			被熱。
5 229	壺か	底部破片 高(7.6)	南東部 +16 No19	①礫大の白色紅物 粒・粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6			外面の一部 に灰素吸着。
6 228	台付壺か	台部 高 4.6	2号炉内 No6	①粗砂大の白色紅物 粒・粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	小径。大きく外反して頸部を形 成する。		被熱。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
7 230	甕	胴部破片	南東部 -3 №16	①精造、細砂大の白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6		形のくずれた器胎破片による 細線文内に内形刺文が充塞 される。	胴部文区画 内を除いて 赤色塗彩。 内面に灰青 吸着。
8 231	甕	胴部～底部 高 20.5 底 6.8	北西部 床直 №1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明褐色7.5YR5/6	胴部は最大径も上位に有して備 る。内外とも丁寧な磨き。一 部に刷毛目を残す。	胴部には10条1単位2連止の 帯地帯状文が巡る。胴部上位 には9条1単位の帯輪波状文 3段による文様帯が構成され る。帯状文の直上に6段波状 文が施文されていたと思われ る。	外面の一部 に灰青吸着。
9 224	甕	口縁部～胴部上 位(口縁部上端 欠損) 高 (21.0)	北部 床直 №3	①粗砂大の赤色粘土 粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	胴部は細くくびれ、ラッパ状に 外反する口縁部と算盤玉状の胴 部に続くと思われる。口縁部の 外面は刷毛目。胴部は磨き。	胴部には10条1単位、間隔の 狭い2連止が巡る。胴部文様 帯は上位に帯輪波状文、その 直下に帯地帯文による刺文 が配れる。波状文は4段か。 胴部文の内面は斜行直線文で 充塞される。	二次利用の 可能性があ るか。
10 30	すり石	11.3×4.0 3.6	埋没土	粗粒安山岩 259	小口の両端を磨削している。側面は自然面の可能性もある。		

14号住居出土遺物観察表(第69回、図版37)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 238	台付甕か	台部 高 (6.0)	北西部 +6 №29	①細砂大の白色胎物 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	小径。縦方向に外傾弱く開く。 外面は丁寧な磨き。		被熱。
2 235	甕か	口縁部破片	南西部 +4 №11	①粗砂大の白色胎物 粒・石高 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR5/4	先端は折り返し口縁。		被熱による 変色、変質。
3 236	甕か	口縁部破片	南西部 +4 №11	①細砂大の白色胎物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	先端は折り返し口縁。		
4 234	甕	口縁部～胴部 口 (22.0) 高 11.8	南西部 床直 №12	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐7.5YR 6/3	先端は折り返し口縁。施文が粗 雑で下地に強調整整のための刷 毛目を残す。	口縁部は折り返し部分も含め 帯輪波状文を重ねる。胴部上 位も波状文である。胴部には 11条1単位の帯状文が巡る。 止めは不明。	被熱。
5 240	甕	口縁部～胴部中 位1/4残存 口 19.2 高 21.5	南西部 +4 №11	①最大のチャート・ 粗砂大の白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は外反弱く長い。	口縁部は上半に7か8条1単 位の帯輪波状文を3段巡らす。 胴部には8条1単位2連止帯 状文を施文する。胴部の帯輪 波状文は3か4段と思われる。	灰青吸着。 被熱。
6 232	甕	口縁部～胴部上 位(13.3) 高 (2.6)	西部 +10 №4	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色胎物粒・輝 石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	口縁部はくの字状に屈曲後外傾 弱く立ち上がる。	口縁部の上半、胴部から胴部 上位に帯輪波状文が配れる。 9条1単位である。	被熱。
7 237	甕か	胴部下位～底部 高 (3.7) 底 5.8	埋没土	①細砂 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6	外面は丁寧な磨き。		内外面に赤 色塗彩。灰 青吸着。
8 233	甕	胴部下半～底部 高 12.6	南西部 +6.3 №6・7・17	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐10YR 7/4	外面は磨削で、磨き。内面は丁 寧な磨き。		被熱後灰青 吸着。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
9	くぼみ石	10.8・5.8 2.9	南壁部 №25	牛伏砂岩 251	板状の襷を使用したものか。表面とも中央に凹部が各1箇所認められる。器面は平滑で、すり面に使用したと考えられる。		
10	台石	29.2・21.6 7.5	南東部 №27	粗粒安山岩 7140	器面の一部に磨耗痕が認められるが、礎石として使用されたとは考え難い。		

15号住居出土遺物観察表 (第29回)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 249	蓋か 小型	つまみ部分 高 (2.4)	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 ②酸化焰・良好 ③にぶい層 7.5YR 6/3	つまみは小径で、斜め上方に立ち上がる。破片で詳細に観察できないため小型の高杯の可能性もある。		
2 248	高杯	杯部下位→胴部 高 (9.0)	埋没土	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③赤10R4/6	杯部は小径の脚部から斜め上方に大きく立ち上がるか。		杯部内外面 と脚部外面 に赤色塗彩。
3 245	蓋か	底部 高 5.1	P 1 内 №1	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい層 7.5YR 5/3	小径である。		炭素吸着。
4 241	蓋か	口縁部破片	北東部 +5 №13	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい層 7.5YR 5/3	先端は内側に斜に折れる。	口縁部の先端と残存部下端に 縞線状文を施す。先端は5 条1単位である。	炭素吸着。
5 244	蓋か	口縁部破片	東部 +12 №47	①粗砂大の白色鉱物 粒・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい層 5YR6/4	先端は折り返し口縁。		被熱。
6 243	壺	口縁部破片	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい層 5YR7/4	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分には粗い斜 目文を施す。	内面は赤色 塗彩。外面 も同様か。
7 242	壺	口縁部破片	中央部 床直 №10	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③粗 7.5YR6/6		口縁部には10条1単位の縞線状 文を4段重ねて充満する。 胴部には2道止縞状文が施文 されたと思われる。	

16号住居出土遺物観察表 (第74回、図版38)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2 252	蓋	つまみ部 高 (3.8)	南東 床直 №2	①輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい層 5YR6/4	他と比較するとやや大型品となるか。つまみはリング状で中央部がへこみ、内面から径4.5mm程度の焼成前の穿孔がなされる。内外面には刷毛目が残る。		炭素吸着。
3 251	壺	胴部上半の破片	南西部 +10 №3	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい層 7.5YR 5/4	緩やかに歪る。内外面とも丁寧な磨き。	胴部上位に7条1単位の縞線状 文が4段廻る。	炭素吸着。
4 250	壺	口縁部1/3残存 口 (24.6) 高 (7.5)	1号が内 №41	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③粗 5YR6/6	口縁部は外反して立ち上がり、先端は明瞭な折り返し口縁。内面は丁寧な磨き。	口縁部に4条1単位の縞線状 文5段が廻るが、波形、走向とも不統一でアトランダムである。胴部には縞状文が配される。	

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
5 253	皿	口縁部は1/2欠損 口 24.9 高 51.7	南東部 床直 №1	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR5/8	口縁部は大きく外反し、先周は折り返し口縁。胴部は丸みを帯びて張る。口縁部外面に刷毛目を残す。胴部外面は磨き。	胴部から胴部上位に10条1単位と思われる櫛状工具による横線文3段が施され、その直下と同じ施文具により波状文3段による文様帯が配される。その後、横線文は2条1単位2本の縦直線文により6箇所が区切られる。	
1 34	台石	28.4・19.5 13.1	北東部 №37	粗粒安山岩 12400	表面中央部は径3cm程の円形に刻彫している。敲打によるものか熱のためか不明。裏面は扇形面も含めて平滑であるが、表面をはじめ滑面として利用されたか。		

18号住居出土遺物観察表 (№76~78区、B3039)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 271	鉢 小型胎製	1/2残存 口 (6.8) 高 3.6	南部 +20 №45	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	口縁部は斜め上方に立ち上がる。成形はやや粗雑である。内外面とも磨削で。		炭素吸着。熱を受けているか。
2 304	蓋	1/3残存 (端部欠損) 高 (8.5)	南西部 +16 №12	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	天井部は外反著しく口縁部方向に開く。つまみは大きく、中央部はくぼみ、径5mmの小孔が内面に貫通している。外面の天井部は刷毛目、その他は磨で。		内面に炭素吸着。
3 272	鉢	1/2残存 口 (13.6) 高 5.3	南西部 +19 №140・144	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	口縁部は弱い弧をなして斜め上方に向けて立ち上がる。口縁部は先周を横線。以下は磨削で。		
4 276	高杯	杯部1/4残存 口 (12.0)	埋没土	①精選、細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	杯部は弱い弧をなし、斜め上方に立ち上がる。		内外面に赤色塗彩。
5 291	台付壺か	台部下位	中央部 +23 №82	①粗砂大の白色紅物粒 ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	小型品。内面は磨削り。		被熱。
6 264	高杯	口縁部~胴部2/4残存 口 10.6 高 10.1	南西部 +21 №34	①磨大のチャート ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	口縁部は斜め上方に強く立ち上がる。口径は小さく、裾部分の径を僅かに上回る程度である。外面及び杯部内面は丁寧な磨き。胴部内面は斜方向の弱い刷毛目。		炭素吸着。
7 290	高杯か	脚部1/2残存 高 8.3	中央部 +9 №138	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	脚部は縦方向に大きく外反する。外面は磨削で後磨き。内面は磨削り、磨削でか。	二次利用しているか。	
8 289	高杯	脚部 高 (7.5)	南西部 +25 №16	①粗砂大の白色紅物粒 ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	裾部分は小径で、外反の度合いは弱い。外面は縦方向の磨き。		外面に赤色塗彩。炭素吸着。二次利用しているか。
9 278	高杯か	口縁部破片	中央部 +12 №115	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	口縁部は弱い弧をなして斜め上方に立ち上がる。内外面とも磨き。		炭素吸着。
10 280	高杯か	口縁部破片	中央部 +11 №112	①粗砂大の白色紅物粒 ②酸化焰・良好 ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	外面は磨削で。内面は磨いているか。		炭素吸着。

番号	番 種	残 存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器 形・器 形 の 特 徴	文 様	備 考
11 279	高杯か	口縁部破片	中央部 +22 №177	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	内外面とも丁寧な磨き。		炭素吸着。
12 297	台付壺	口縁部破片	埋没土	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/3	S字状口縁。		
13 300	壺	胴部～底部 高 (10.5)	埋没土	①薄大・粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR7/4	胴部は長球形を呈する。胴部は 内外面とも厚膜で被覆しており、 底部近くには膜で残る。		
14 285	台付壺	口縁部～胴部 口 12.6 高 (8.2)	1号が内 +13 №120	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR5/6	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。胴部はやや扁平である。 器面調整は口縁部の窪みで、胴 部下半は磨き。	口縁部上半は帯描波状文施文 後ボタン状付文を4単位重 ねる。器部には5条1単位2 連止帯描波状文施文で、直上 と直下に帯描波状文を1段づ つ配する。胴部上位のそれ には口縁部と必ずボタ ン状付文が4単位付される。	炭素吸着。
15 273	台付壺	口縁部～胴部中 位 (12.9) 高 8.5	北西部 +21 №116	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③洗黄焼10YR8/3	外面の胴部下半は刷毛目後磨き。 内面は横方向に磨き。	口縁部は6条1単位の帯描波 状文を3段施文か。同じ施文 具で胴部上位に2段施文。胴 部には7条1単位、2連止 の帯状文が施される。	炭素吸着。
16 266	台付壺	胴部上位～台部 高 (13.8)	南西部 +12 №39・41	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/3	胴部は上位に最大径を有し、や や扁平な球形を呈する。外面は 丁寧な磨き。胴部内面には刷毛 目が残る。	胴部上位には7条1単位の帯 描波状文が2段認められ、文 様帯の下位には内形刷突文を 3～6個位うボタン状付文 4単位が付される。	炭素吸着。
17 267	壺	口縁部～胴部中 位 口 15.2 高 (14.4)	中央部 +9 №126・130・ 139	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③明赤焼5YR5/6	口縁部は緩やかに外反、胴部も 弱く磨る。	口縁部は帯描波状文を完備す る。施文具は11条1単位で、 4～5段で文様帯を構成する か。器部には11条1単位2連 止の帯状文が施る。胴部文様 帯は11条1単位の帯描波状文 2段を配する。	炭素吸着。
18 277	壺	口縁部1/4残存 口 (17.8) 高 (7.3)	中央部 +20 №145	①細砂の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 6/4	外面は刷毛目後、粗雑な磨き。 内面は丁寧な磨き。	胴部に1単位6条以上の等間 隔帯状文が施る。	炭素吸着。
19 274	壺	口縁部破片	中央部 +19 №66	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄焼10YR 7/4	緩やかに外反して立ち上がる。	先端を削いて5条1単位の振 幅の大きな帯描波状文を完備 する。	被熱。
20 269	壺	口縁部～胴部中 位 口 19.5 高 (25.0)	南西部 +12 №147	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/8	口縁部は屈曲して外反する。胴 部は中位が著しく張り、脚盤玉 状を呈する。口縁部外面には刷 毛目を残す。胴部外面は磨き。	胴部に9条1単位2連止の帯 描波状文を2段施す。胴部 上位には8条1単位と思われる 帯描波状文を2段施す。	
21 299	壺	口縁部～胴部中 位1/3残存 口 (18.8) 高 (19.0)	中央部 +15 №61・65・66・ 69	①細砂大のチャート・ 白色鉱物粒・輝 石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。胴部はあまり張らない。 内外面とも丁寧な磨き。		被熱。 炭素吸着。
22 298	壺	胴部下～底部 高 (15.2) 底 (10.8)	1号が内 +5 №123・145・ 176	①薄大・粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR7/4	大形器。内外面とも刷毛目後磨 き。		被熱。 炭素吸着。

番号	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
23 301	葉	胴部下位～底部 1/2残存 高 (11.0) 底 7.8	南西部 +5 №167	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	内外面とも丁寧な磨き。		灰素吸着。
24 270	葉	胴部下位～底部 高 (3.1)	西部 +20 №94	①細砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面は磨削で、内面は刷毛目を 残す。		灰素吸着。
25 275	葉か	胴部下位～底部 高 (6.5)	中央部 +12 №115・422	①粗砂大の白色鉱物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/4	外面は磨き。		灰素吸着。
26 284	葉か	底部1/2残存 底 (5.3)	南東部 +27 №50	①粗砂大の白色鉱物 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③明赤紅2.5YR5/6			被熱。
27 268	壺	底部 底 13.2	中央部 +11 №23・46・78・ 126・134・ 140・167	①チャートの糠・粗 砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	大型品。算盤玉状の割部を呈す るが、		内面は割傷。 外面に灰素 吸着。
28 282	壺	底部1/2残存 底 (13.2)	西部 +8 №75	①粗砂大の輝石・白 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/3	大型品と考えられる。		灰素吸着。
29 281	壺	底部1/4残存 底 (16.8)	西部 +22 №98	①粗砂大のチャート・白色 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	大型品と考えられる。		
30 283	壺か	底部 底 8.7	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6			
31 286	壺か	底部1/4残存 底 (12.4)	中央部 +12 №133	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄橙10YR6/4			
32 285	葉か	底部2/3残存 底 (7.6)	中央部 +12 №119	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4			被熱。
33 302	葉	胴部下位～底部 高 (13.5)	1号炉内 +7 №112・118・ 123・130・ 146・153	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大型品。内外面ともに丁寧な磨 き。		
34 39	石彫	4.4・2.3 0.7	埋没土	埴貫頁岩	欠損品。刃部は肉厚であるが調整は丁寧。器面は使用により磨耗が著しい。		
35 37	石鏝	1.3・1.3 0.35	中央部 №183	黒輝石	平基であるが、ごくわずかにくりこんでいる。		
36 38	管玉	2.7・0.6 0.6	埋没土	埴貫凝灰岩	木褐色。		

19号住居出土遺物観察表 (No.2・838、839・40)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 324	台付甕	口縁部～胴部上 位 口 (9.8) 高 (5.0)	埋没土	①精選、細砂大の白 色胎物粒 ②酸化焼・良好 ③にぶい焼5YR7/4	外面、胴部上位は圓筒り後張で、 磨き。内面は丁寧な磨き。	口縁部には7条1単位の櫛 波状文を遺っている。胴部は 7条1単位2連止の櫛波状文で ある。胴部にも櫛波状文を 配す。	炭素吸着。 被熱。
2 318	甕	口縁部～胴部上 位 口 (10.7) 高 (6.5)	南部 +29 No.14	①粗砂大のチャ ート・白色胎物粒 ②酸化焼・良好 ③焼7.5YR7/6	内面は圓筒り後丁寧な磨き。	胴部に6条1単位2連止の櫛 波状文が流る。口縁部と胴 部上位に6条1単位の櫛波 状文が各1段施文される。	炭素吸着。 被熱。
3 344	高杯	口縁部破片	埋没土	①細砂大の輝石 ②酸化焼・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	先端は屈曲して、水平方向に短 く延びる。		
4 345	高杯	杯部破片	埋没土	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焼・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	小窪。あまり深みはないか。		内外面に赤 色塗彩。
5 322	高杯	杯部破片	北西部 +9 No.36	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焼・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	弧をなして斜め上方に立ち上 がる。		炭素吸着。
6 321	台付甕	口縁部～胴部破 片	埋没土	①細砂大の白色胎物 粒 ②酸化焼・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/3	口縁部は短く、外傾斜く立ち上 がる。外面は縦方向に寛撫で。 内面は丁寧な磨き。	口縁部上半には幅幅の小さい 6条1単位の櫛波状文が流 る。胴部には8条1単位と思 われる2連止櫛波状文が施文 される。	炭素吸着。
7 312	甕	口縁部破片	中央部 +17 No.20	①粗砂大のチャ ート ②酸化焼・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分には櫛波 状文が施される。	
8 310	甕	口縁部破片	南東部 +39 No.11	①粗砂大のチャ ート・白色胎物粒 ②酸化焼・良好 ③焼5YR7/6	口縁部は大きく外反して立ち上 がる。		
9 309	高杯	杯部1/4残存 口 (25.2) 高 (9.5)	南西部 +8 No.34	①精選、細砂大の白 色胎物粒・輝石 ②酸化焼・良好 ③焼7.5YR6/6	大型品の杯部。口縁部は外傾強 く立ち上がり、先端は屈曲し水 平方向に延びる。		内外面に赤 色塗彩。 被熱。
10 323	甕	口縁部～胴部 口 (10.7) 高 (5.6)	埋没土	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焼・良好 ③にぶい焼5YR7/4		施文は粗雑。胴部には7条1 単位2連止櫛波状文を施す。そ の直下には幅幅の小さい櫛 波状文が配される。	被熱。
11 317	甕	口縁部～胴部上 位 口 (12.0) 高 (8.6)	埋没土	①粗砂大のチャ ート ②酸化焼・良好 ③焼5YR6/6	口縁部は外傾斜く立ち上がる。 内面は磨き。	口縁部から胴部にかけてまで 櫛波状文を充填する。1単位 は6か7条と思われ7段を 重ねるか。	被熱。 炭素吸着。
12 320	甕	口縁部破片	中央部 床直 No.16・21	①細砂大の白色胎物 粒 ②酸化焼・良好 ③にぶい焼6/4	口縁部の先端は外側がそげ器内 が薄くなる。	口縁部は櫛波状文5段を重 ねて充填する。1単位は8条 と思われる。胴部には1単位 9条以上の2連止櫛波状文を 施文する。	炭素吸着。 被熱。

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
13 336	壺	口縁部～胴部1/4残存 (口縁端部欠損) 口 (11.2) 高 (10.0)	埋没土	①細砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい糖7.5YR6/4	胴部は丸く張り、内外面とも磨で。	5条1単位の波状文を口縁部上半に2段、胴部から胴部上位に2段施す。	被熱。
14 306	甃	口縁部2/3残存 (口縁端部欠損) 高 (9.0)	P 1内 No.50	①細砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR6/6	口縁部は外反して立ち上がる。外面は細かい網目、内面は磨き。	胴部には1単位5条以上の2道止縹状文を施す。	内面に炭素吸着。
15 334	高杯	脚部 高 (6.0)	埋没土	①細砂大の赤色結土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい糖7.5YR6/4	外面は丁寧な磨き。内面は磨で。		外面に赤色塗彩。
16 332	高杯か	脚部 高 (6.4)	埋没土	①細砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	小径、器高も低い。外面は磨き、内面は磨でによる表面調整か。		
17 331	高杯	脚部 高 (9.7)	P 3内 No.26	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい糖7.5YR7/4	器高の高い胴部は外反斜り強方向に開く。外面は丁寧な磨き。内面は網毛目後丁寧な磨で。		
18 333	高杯	脚部 高 (9.0)	南東部 床直 No.7	①細砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい糖5YR7/4	脚部の外面は丁寧な磨き。内面は磨用り。		被熱。
19 319	壺か	口縁部1/2残存 口 (24.8)	埋没土	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③改良糖10YR8/3	外面には刷毛目を残す。内面には丁寧な磨き。	口縁部の先端に4条1単位の縹縹波状文が施文される。	炭素吸着。
20 313	甃	胴部上位1/4残存 +10 No.16	中央部 +10 No.16	①細砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR7/6		胴部上位に8条1単位の縹縹波状文が3段施される。	炭素吸着。
21 308	壺	胴部～底部 高 (13.2) 底 (7.8)	中央部 +6 No.20・21	①細砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい糖7.5YR7/3	胴部は長球形を呈する。外面は磨で後一部磨き。内面は磨き。	胴部は9条1単位2道止縹状文が施る。その直下、胴部上位には9条1単位と思われる波形のくずれた縹縹波状文を3段施す。	被熱。
22 311	甃	口縁部破片	南西部 +21 No.33	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄糖7/3	胴部でくびれる。胴部は算盤玉状に張り出すか。	胴部は6条1単位2道止縹縹波状文を2段重ねる。その直下には縹縹波状文が施るか。	
23 305	壺	口縁部～胴部中位1/4残存 口 (16.7) 高 (17.5)	南東部 +4 No.5	①最大のチャート・細砂大の石英・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい糖7.5YR6/4	口縁部は屈曲して外傾斜り立ち上がる。口縁部の上半は横磨で、口縁部下半と胴部外面は丁寧な磨で、一部に刷毛目を残す。胴部内面は磨き。		外面に炭素吸着。
24 329	壺 小型	底部1/2残存 底 (3.8) 高 (2.1)	P 1内	①細砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい糖5YR7/3	底部外面の陶縁部分のみが使用により磨耗している。		炭素吸着。
25 325	壺か	底部 底 5.8	埋没土	①細砂大の輝石・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄糖10YR7/4	外面は丁寧な磨き。		
26 330	甃	底部1/2残存 底 (5.8) 高 (2.4)	埋没土	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい糖7.5YR7/4	高部は円板状の台をなす。		被熱。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
27 326	壺	底部1/3残存 底(6.0)	埋没土	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	外面は削で。		被熱。
28 327	壺	底部～胴部下位 1/3残存 底(5.6) 高(3.2)	P4内 +8 №38	①粗砂大のチャート・白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	外面は丁寧な削で。		
29 316	壺	胴部下位～底部 高(9.4) 底11.5	1号が内 +10 №30	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/4	大型品。胴部は大きく張るが、 外面は削で、磨き。		内面は割傷。
30 342	壺か	胴部下位～底部 底7.2	南東部 床直 №4	①粗砂大の白色胎物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/4			被熱。 脆弱になっ ている。
31 325	壺	底部2/3残存 底(5.2)	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YR6/6	内外面とも丁寧な磨き。		表裏被熱。
32 307	壺	1/2残存 口(17.6) 高27.4	中央部 +1.0 №16	①明砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/4	口縁部は外傾斜し立ち上がり、 先端は外側の面がそげ薄くなる。 胴部は歪く張る。首面調整 は刷毛目後磨きを加える。外面 の胴部下位、内面の口縁部と胴 部上位に刷毛目を残す。	口縁部は櫛歯状文5段を充 填させる。胴部には9条1単位 2連止の櫛歯状文が通る。 胴部上位にも櫛歯状文3段 が通る。	被熱。
33 347	壺	胴部一部欠損 口19.8 高30.7	中央部 埋没土 №18	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。胴部は球形を呈する。 口縁部を縦方向、胴部を斜方向 に細かい刷毛目。胴部にはその 後粗雑な磨きを加える。下位ほ ど丁寧になる。内面も刷毛目後 磨き。		表裏被熱。
34 346	壺	ほぼ完成 口18.2 高30.2	貯蔵穴内 №48	①粗砂大の赤色胎土 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐色5YR5/4	胴部は長球形に張る。口縁部の 内面には刷毛目を残す。胴部は 内外面とも磨き。	口縁部は1単位6条と思われる 櫛歯状文を重ねる。8、 9段を配するが、胴部には10 条の2連止横状文7単位が通 る。胴部上位は横状文4段か らなる文様帯である。	表裏被熱。
35 40	すり石	13.5・9.9 6.7	北部 №43	粗粒安山岩 1334	表面の中央部分を中心にすり面として使用している。側面を若干敲打しているか。		
36 41	石皿	24.0・15.8 6.6	不明 №46	粗粒安山岩 3900	表面のすり面はあまり使用されていないか。すり面以外の面は丁寧な敲打により仕上げられている。		

20号住居出土遺物観察表(第55回、図版40)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 348	台付壺	口縁部～胴部下 位 口(14.7) 高(13.7)	北東部 +5 №6・7・9・ 10・17	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐色10YR7/4	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。 先端の外側はそげ、尖り、内傾 する。胴部は扁平な球形を呈す る。外面は刷毛目後磨き。内面 は丁寧な磨き。	胴部には12条の等間隔横状文 が施される。口縁部と胴部上 位には櫛歯状文の文様帯が 通る。	表裏被熱。
2 349	台付壺	口縁部～胴部中 位破片	北東部 +7 №10・17	①細砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐色10YR7/4	口縁部の先端は尖り、強く内傾 する。外面は刷毛目後磨き。内 面は丁寧な磨き。	胴部には13条の2連止横状文 が通る。口縁部と胴部上位に は櫛歯状文が配される。	表裏被熱。

番号	器種	残存法量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
350	鉢	口縁部破片	南部 +1.3 №11	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄緑10YR 7/3	先端は内湾して立ち上がる。端部附近に2箇所径3mmの焼成前穿孔の小孔がある。内外面とも無彫で。		内面に皮黒吸着。
352	甕	底部 底 4.6	北部 +5.5 №4	①粗砂のチャート・粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	内外面とも丁寧な磨き。		皮黒吸着。
351	甕	底部2/3残存 底 5.6	南部 +1.5 №11	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面は無彫で。		被熱。
645	刺片	5.8・4.7 1.5	埋没土	頁岩 36	使用痕ある刺片。		

22号住居出土遺物観察表 (3087・888区、図版41・43)

番号	器種	残存法量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
355	高杯	杯部1/2残存 口 (15.5) 高 (6.0)	中央部 床直 №6・15	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は弧をなして斜め上方に立ち上がり、先端は内側に鋭くかえる。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
356	台付甕	口縁部へ胴部中位 口 (9.7) 高 (5.0)	中央部 床直 №6	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 4/4	小径。口縁部は屈曲後短く立ち上がる。胴部中位と内面は磨き。	口縁部と胴部上位に帯増成文を施す。胴部には8条1単位と思われる2連止帯増成文が巡る。	皮黒吸着。
359	高杯か	脚部 高 (7.0)	1号9内 +6.5 №38	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	脚部は外反折く屈方向に開く。外面は無彫で。内面には刷毛目を残す。		被熱。
357	台付甕	口縁部破片	埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		口縁部は帯増成文施文後先端に円形のボタン状胎付文を付している。胴部には帯状文が巡る。	被熱。
363	甕か	口縁部破片	1号9内 埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	小径。口縁部は屈曲して弱く外傾する。		被熱。
554	鉢か	底部 底 4.0	埋没土	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/4	外面は丁寧な磨き。		底部外面を除き赤色塗彩。
358	甕	底部1/2残存 底 (5.9)	中央部 床直 №7	①粗砂大の白色鉱物粒・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③褐7.5YR	外面は無彫で。		被熱。
361	甕か	底部 底 (7.0)	埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6			被熱。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
9 354	罎か	口縁部～胴部下 位 口 (17.2) 高 (28.1)	南西部 +10 №14・19-21・ 25-26-28・ 29-30-31	①粗砂大の白色胎物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい・楕5YR7/4	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。胴部は張り出しの強い 形状を呈する。口縁部の内外面 には部面調整の刷毛目を残す。	口縁部は先端をあげ上半部に 粗な8条1単位位の櫛歯状文 を3段重ねる。胴部と胴部 文線帯の最下位には止めの間 隔が不均等な8条1単位2連 止の櫛状文が各1段入り、そ の間に櫛歯状文3段が充 填される。	皮裏吸着。
10 353	壺	胴部下半は3/4 欠損 口 25.8 高 61.8	南西部 +8 №1・5・13・ 14・16・18・ 22・23・24・ 26-32-33	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい・楕5YR6/4	口縁部は屈曲後大きく外反、先 端は折り返し口縁。胴部は中位 やや下方に最大径を持つ球形を 呈する。内外面とも丁寧な磨き。	折り返し口縁部分には櫛歯状 文を施す。胴部に12条1 単位2連止の帯状文を 1段返らす。その下位には10 条1単位と異なる幅広文線帯 が続く。下端には寛幅帯文 13単位が配され、内部を斜行 線文により充填される。	皮裏吸着。
11 365	壺	胴部以下胴部下 半	1号伊内、南 西部 +7 №2・14-16・ 33-39	①粗砂大のチャート ・輝石 ②酸化焰・良好 ③楕7.5YR6/6	大型品。胴部はくびれる。胴部 は大きく張り算盤玉状を呈する。	胴部に8条の2連止帯状文 を返らす。直下の胴部上位 には櫛歯状文を重ねる。	胴部は磨耗 している。
12 364	罎	口縁部～胴部上 位破片	P2内、北西部 床面 №8・9・12・ 34	①粗砂大のチャート ・白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③にふい・楕7.5YR 7/4	口縁部は緩やかに外反、先端は 外側の縁内が薄くなり尖る。	口縁部は先端に距離の狭い櫛 歯状文を1段施す。以下 に5条1単位で距離の大きい 波状文を4段重ねる。胴部 の櫛状文は2連止と思われる。 胴部にも波状文が返る。	皮裏吸着。
13 48	打製石斧	20.7・10.4 3.8	南西部 №26	硬質泥岩 768	基部は欠損。		

23号住居出土遺物観察表 (№90図、図版42・43)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・器形の特徴	文様	備考
1 371	鉢か 小型粗製	1/2残存 口 (5.6) 高 3.3	埴土	①細砂大の赤色粘土 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にふい・楕5YR7/4	口縁部はやや深み波状を呈する。 外縁面立ち上がり、先端は尖 る。内外面とも撫で。		底部外面に 皮裏吸着。
2 368	台付罎	口縁部～胴部中 位 口 14.0 高 (11.3)	中央部 +8 №3	①細大のチャート ②酸化焰・良好 ③楕5YR6/6	口縁部は短く外傾弱く立ち上 がる。胴部は器高が高くやや深 みがある。内面は刷毛目後磨き。	口縁部上半に1段、胴部上位 に2段帯状文が返る。胴 部には9条1単位位の2連止 文を施す。	皮裏吸着。
3 367	台付罎	口縁部～胴部中 位 口 14.0 高 (11.5)	P2埴土	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③にふい・楕5YR6/4	小径。口縁部は弱く外反する。 内面は丁寧な磨き。	口縁部と胴部上位に帯状文 が各1段返る。胴部には7 条1単位2連止の櫛状文が施 文される。	破損。 皮裏吸着。
4 366	罎	口縁部～胴部中 位 口 19.2 高 (23.0)	P2内 №.11	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③楕7.5YR6/6	口縁部は外反弱く立ち上がり、 先端は折り返し口縁。胴部外面 及び内面全面は丁寧な磨き。	折り返し部分を含め口縁部 には櫛歯状文が充填される。 6段で8条1単位である。胴 部には11条1単位2連止櫛 状文が返る。胴部にも櫛歯状 文が2段施される。	外面に皮裏 吸着。
5 369	壺	底部 底 (17.5)	南東部 +8 №4	①細大のチャート・ 輝石・細砂の白色胎 物粒 ②酸化焰・良好 ③楕5YR7/6	大型品。		内面は刷磨 している。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
6 370	甕	上半は1/2欠損 □ 25.3 高 66.0	北西部 +8 №1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい褐色5YR7/4	口縁部の先端は折り返し口縁。 胴部は上半が大きく丸く張るが 下半は底部に向かって急速に径 をせまめる。外面の器部調整は 口縁部に刷毛目を残すが胴部は 磨き。	胴部から胴部上位にかけて、 10条1単位の帯状文による 横線文を重ね縮幅の文様等を 配す。これを縦方向の直線文 で区切り、その下端には刺突 文を伴う円形のボタン状貼付 文を付している。	下半に炭素 吸着。

24号住居出土遺物観察表(第94図、図版43)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 372	甕 小型	口縁部1/3欠損 □ 7.5 高 7.0	南東部 床直 №86	①細砂のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐色5YR 5/4	小型品。口縁部は短く外傾して 立ち上がる。胴部は上位で張る。 外面は丁寧な磨きで、内面は丁 寧な磨き。	口縁部から胴部上位にかけて 帯状文を3段施す。	炭素吸着。 胴部上半に は焼成後の 穿孔を残す。
2 381	甕か	天井部 高(8.2)	南西部 床直 №46	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③褐色5YR7/6	天井部は大きく外反して端方向 に開く。外面は丁寧な磨き。内 面は丁寧な磨きで。		
3 382	甕	胴部1/2欠損 □ 11.9 高 9.4	北西部 +7 №5	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	口縁部は屈曲して緩やかに外反 する。胴部は中に最大径を持つ 扁球形を呈する。底部は丸底。	口縁部は8条1単位と思われる 帯状文を重ねる。胴部 には12条の等間隔止帯状文が 施されるが7条1単位を2段 重ねたものか。胴部にも帯状 文が重ねられている。	炭素吸着。 被熱。
4 555	台付甕	口縁部～胴部上 位1/3残存 □ (14.0) 高(5.6)	埋没土	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐色5YR6/4	口縁部は外傾強く立ち上がる。 内面は丁寧な磨き。	口縁部から胴部上位にいたる まで5条1単位の帯状文を 充填する。	炭素吸着。
5 373	甕	口縁部～胴部上 位 □ 14.6 高(10.6)	北西部 +7.5 №2	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。	口縁部の上半には6条1単位 の帯状文3段による文様 帯が配される。胴部は6条1 単位2連止の帯状文が配 され、その直下の胴部上位に は波状文2段が重なる。	被熱による 変色、変質。
6 556	甕	口縁部～底部を 欠損 高(22.0)	埋没土	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③褐色2.5YR6/6	胴部は中に最大径を有し、異 型玉状に近い。内外面とも丁寧 な磨き。	胴部は7条1単位2連止の帯 状文が1段施す、その直 上には波状文が加えられる。 胴部上位には7条1単位の帯 状文が2段重なる。	炭素吸着。
7 375	甕	底部 高 7.3	南東部 +9 №84	①粗砂大の白色胎物 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	外面は磨き。		
8 376	甕	底部 高 5.2	西部 +16 №12	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐色7.5YR 6/4			被熱。 炭素吸着。
9 377	鉢か	底部 高 4.3	埋没土	①粗砂大の白色胎物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい褐色7.5YR 7/3			底部外面を 除いて赤色 塗彩。
10 378	甕	底部 高(6.6)	南部 床直 №53	①粗砂大のチャート・ 白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐色10YR 7/4	外面に刷毛目を残す。		外面に炭素 吸着。

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
11 379	甕か	底部 底(7.6)	北西部 床直 №4	①粗砂大の白色黏土 粒 ②酸化焰・良好 ③によい褐7.5YR 5/4	器部調整は粗雑である。胴部は 粘土結の接合部分で割裂してい る。		炭素吸着。
12 380	甕	底部 底 11.1	南西部 +4.2 №38	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄褐色10YR8/4	大型品。		被熱。
13 49	すり石	20.3・17.7 5.5	中央部 №102	粗粒安山岩 3515	表面面にすり面が認められる。		
14 50	割片石罫	9.8・3.8 1.8	埋没土	粗粒安山岩 62	一部に割離痕が認められる。		

25号住居出土遺物観察表 (第95図、図版4)

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 386	高杯か	脚部上平 高(6.2)	埋没土	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色黏土粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	脚部は外反割く様方向に開く。		被熱。
2 385	甕	底部 底 7.0	東部 床直 №2	①粗砂大のチャート・細砂大の白色黏土 粒 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR7/6			被熱。
3 392	甕	口縁部～胴部上 位 口(17.5) 高(14.5)	南東部 +3.5 №5・6・8	①細砂大の輝石・白色 黏土粒 ②酸化焰・良好 ③によい褐7.5YR 7/4	内外面とも丁寧な磨き。	胴部には6条1単位と思われ る2連止帯幅縮状文が返る。 その直下の胴部上位には帯幅 縮状文2段が配される。被 熱による変質、変色。	
4 383	甕	胴部下位～底部 高(10.0) 底(7.8)	南部 +3.5 №8	①粗砂大のチャート・ 白色黏土粒 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR6/6	胴部は長球形を呈したか。内外 面とも丁寧な磨き。		内面に炭素 吸着。
5 384	甕	底部 底(12.6)	南東部 +8.5 №8	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③浅黄褐色10YR8/3	大型品。外面は磨き。		内面に炭素 吸着。
6 51	凹石 すり石	11.9・7.9 3.2	埋没土 442	粗粒安山岩	表面面ともすり面。表面の2箇所 に数個の軸打痕が集中して認め られる。浅い側面もすっている。 小口の両端も使用面か。		浅い側面もす っている。
7 52	すり石	12.2・6.4 5.0	埋没土 552	粗粒安山岩	裏面は割面部分が多い。熱のため か。炭素吸着。		
8 53	打撃石弁	8.6・6.6 2.0	埋没土 147	頁岩	基部寄りの一部が残存する。方部 に向かって横溝を増す形状と考 えられる。		

26号住居出土遺物観察表 (第97図、図版4)

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 388	甕	口縁部～胴部上 位破片	南東部 +3 №1	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色黏土粒 ②酸化焰・良好 ③増7.5YR7/6	胴部は大きくぐれ。算盤玉状 の胴部に続く。	胴部から胴部上位には帯幅の 横線文を重ねた文様帯を配し、 これを12条1単位の縦直線文 で区切っている。その直下 には12条1単位の帯幅縮状文が 続く。	被熱。
2 391	台付甕か	脚部 高(2.3)	南東部 床直 №11	①粗砂大の白色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③によい褐7.5YR 6/3	台部は外反割く開く。内面に は刷毛目を残す。		被熱による 変質、変色。

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
3 54	打製石片	9.3×3.3 1.2	埋没土	砂岩 3B3			短冊型を呈する。割線は粗雑で使用痕はあまり顕著ではない。

28号住居出土遺物観察表（第101～104区、図版44～47）

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 420	鉢か 小型精製	1/2残存(先端は 欠損) 高(2.5)	埋没土	①細砂大の白色紅物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐10YR 5/4	口径に比較して器高は低く、偏 平である。内外面とも磨き。		被熱。
2 414	甕か	1/4残存 口(7.2) 高(9.7) 底 4.3	中央部 +11 No.144	①粗砂大のチャ ート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 7/3	口縁部は直立ぎみに立ち上がり、 先端は折り返し口縁。器面は磨 削り後部分的に磨き、磨き。		上半部と底 部を区上復 元。
3 403	甕 小型	完形 口 9.9 高 11.7	P 3内 No 2	①細砂大の白色紅物 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐10YR 7/3	器形の歪みから器高が著しく異 なる。口縁部に最大径を持ち、 胴部は狭ならない。口縁部は横割 で。胴部外面は寛削り、提腕で、 内面は磨き。	胴部には9条1単位2連止の 縞状文が流る。施文は非常に 粗雑である。	炭素吸着。
4 409	高杯	杯部～胴部上位 口 13.6 高(10.5)	P 3内、東部 床直 No 1・2	①細砂大の白色紅物 粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	杯部は残く、斜め上方に弧をな して立ち上がる。胴部内面は磨 削りて赤色削り、その他は丁寧 な磨き。		胴部内面を 磨き。杯部 内面に炭素 吸着。
5 416	甕	底部 底 4.9	P 5内 +6 No118	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐5YR 5/4	外面は磨き。		被熱。 炭素吸着。
6 419	甕	底部 底 5.8	3号炉内 +8 No108	①細砂大の白色紅物 粒・石英 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面の一部は磨き。		内面に炭素 吸着。
7 421	甕	底部 底 5.4	3号炉内 床直 No74	①粗砂大のチャ ート・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄褐10YR 7/4			
8 417	甕	底部 底 5.9	北西部 +10 No116	①細砂大のチャ ート・白色紅物粒 ②酸化焰・良好 ③灰黄褐10YR6/2	外面の一部は磨き。		炭素吸着。
9 418	鉢か	底部 底 10.3	南西部 +32 No65	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 5/3	外面は提腕で。		外面に炭素 吸着。
10 423	台付甕	台部 高(6.8)	西部 +3 No111	① 雑・粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③明黄褐10YR7/6	器高は低く、胴部は外反斜り器 方向に開く。		被熱。
11 422	台付甕か	台部 高(8.3)	西部 +6 No97	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR 6/4	器高高い胴部は傾方向に至って 外反の度合をやや強める。外面 は磨き。内面には刷毛目を残す。		胴部内面に 炭素吸着。 二次利用し ているか。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
12 411	高杯	杯部 口 22.6 高 (10.2)	中央部 +12 №14・16・32	①精選、粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	大径。基部は細くくびれる。口縁部は斜め上方に立ち上がり、先端は屈曲。水平方向に短く延びる。基部胴縁部には脚部との接合のためのほぞ状の突起が認められる。内外面とも丁寧な磨き。	口縁部の先端に刻目文を施す。	内外面に赤色塗彩。
13 410	高杯	杯部(先端は欠損) 高 (7.5)	中央部 +11 №.38・45	①精選、粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	杯部は大径でやや扁平な輪状を呈する。先端は屈曲し大きく外反する。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
14 400	台付甕	口縁部～胴部破片	中央部 +10 №15・39	①粗砂大の赤色粘土粒・白色灰物粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YK5/6	口縁部は短く、外反弱く立ち上がる。胴部は扁平となるが、内面は丁寧な磨き。	胴部は9条の2連止麗文状文が巡る。口縁部と胴部上位に櫛歯状文を2段ずつ重ねる。1単位は7条か。	灰青着色。
15 399	台付甕	口縁部～胴部中位 口 (11.6) 高 (6.5)	北東部 +11 №.11	①粗砂大の白色灰物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 6/4	口縁部は弱く外傾する。胴部はやや深みを持つが。	胴部は9条の2連止麗文状文を各2段配している。胴部には9条の2連止麗文状文が巡る。	被熱。 灰青着色。 磨耗している。
16 405	台付甕	口縁部～胴部 口 (10.0) 高 (11.5)	北東部 +7 №.6	①粗砂大のチャート・細砂の白色灰物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	胴部は上位に最大径を有し、下位は膨らみに欠ける。内外面とも磨き。	口縁部と胴部には櫛歯状文を各2段配している。胴部には9条の2連止麗文状文が巡る。	灰青着色。
17 404	台付甕	口縁部～胴部 口 14.8 高 (11.0)	北東部 +5 №.4・5・7・ 8・9・10・ 138	①粗砂大のチャート・細砂大の白色灰物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR7/4	口縁部は顕著でくびれ外反して立ち上がる。胴部は最大径の位置がやや下がり、若干膨らみを保つ。器面は丁寧な磨き。	口縁部は上半に櫛歯状文を施した上に刻目文を伴う楕円形の貼付文を4単位重ねている。胴部は10条の2連止麗文状文が巡る。胴部上位には10条1単位の櫛歯状文を配し、その直下に口縁部とは45位置をずらし、貼付文を付している。	灰青着色。
18 401	台付甕	ほぼ完形 口 11.0 高 17.9	2号が内 床直 №175・176	①粗砂大のチャート・赤色粘土粒・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	胴部は個球形を呈するが、402と比較すると下位にやや膨らみをもつ。脚部の器高は高く、外反弱く縦方向に開く。胴部の内外面は磨き。胴部外面は質無で、内面には刷毛目を残す。	口縁部には7あるいは8条1単位の櫛歯状文を2段施す。胴部には9条1単位2連止の櫛歯状文が巡る。胴部上位にも波状文が2段配されている。	被熱。 灰青着色。
19 402	台付甕	上半部一部欠損 口 (11.3) 高 15.7	北東部 +13 №7・8	①粗砂大の白色灰物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 6/3	胴部は上位に最大径を有し、以下は台部との接合部分に向けて急速に細くなる。台部は401よりもやや低く、外反の度合いも強い。	口縁部の上半と胴部上位に櫛歯状文が各1段巡る。胴部には7条1単位と思われる2連止麗文状文が配される。	被熱。 灰青着色。 変質。
20 413	甕	胴部上位破片	埋没土	①精選、粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	器面は丁寧な磨き。	胴部には9条以上の2連止麗文状文が巡る。胴部文様帯は上位には10条1単位と思われる櫛歯状文を重ねる。その直下に直線刷毛文を配し内部を刷毛文で充填する。	刷毛文の間を赤色塗彩。
21 412	甕	口縁部上半 口 (27.6)	埋没土	①精選、粗砂大の石英・輝石 ②酸化焰・良好 ③淡赤2.5YR7/4	外反著しく立ち上がり先端は折り返し口縁。		内外面に赤色塗彩。

番号	器 種	残 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・整 形 の 特 徴	文 様	備 考
22 408	壺	口縁部～胴部上位 口 (11.6) 高 (9.2)	P 6内 -20 №177	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/3	口縁部は外反斜立ち上がる。内面は丁寧な磨き。	胴部には8条の2連止帯輪状文(4条1単位を2段か)を施文する。その直上の口縁部下半、直下の胴部上位には帯輪状文2段が施る。	被熱による変質、変色。
23 407	壺	1/2残存 口 (11.4) 高 (15.3)	北西部 +7 №112	①粗砂大の白色胎土粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は短く、屈曲して外反する。胴部は中位に最大径を有して張る。全体の器肉は厚い。外面は丁寧な磨き。		口縁部の内外面と胴部外面に赤色地彩。
24 397	壺	胴部～胴部下位 1/3残存	南西部 +4 №44・83・89・ 90・94・95	①精選、細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/3	胴部はやや細身ながら算盤玉状を呈して張る。外面は丁寧な磨き。	胴部には1単位7条以上の2連止帯状文を施文。胴部上位には8条1単位の帯輪状文を3段配し、幅広い文様帯をつくる。	
25 396	香かぼ	上半部1/3欠損 口 (17.3) 高 (29.6)	北西部 +4 №113・114	①粗砂大の白色胎土粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部は腰やかに外反し、先端は折り返し口縁。胴部は球形を呈する。内外面とも丁寧な磨き。	口縁部は7条1単位と思われる帯輪状文5段を充満している。胴部には8条1単位3連止の帯状文が施文され、直下の胴部上位には帯輪状文が2段施る。	皮裏吸着。
26 398	壺	3/4残存 口 15.3 高 23.9	中央部 +6 №43・44・45・ 47・48・51・ 113・142	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7/4	口縁部は外反斜立ち上がり先端は折り返し口縁。胴部は中位に最大径を持ち大きく張る。外面は磨き。内面は発色で後磨き。	胴部には7条1単位2連止帯状文を施文した後、口縁部、胴部上位に施文したことが認められる。口縁部には折り返し部分に1段、以下に2段、7条1単位の帯輪状文を配する。胴部には波状文3段が施る。	皮裏吸着。被熱。
27 394	壺	完形 口 18.0 高 27.3	北東部 +10 №4・5・11	①粗砂大の赤色胎土粒・白色胎土粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	頸部から短く直立する口縁部はその後、外反斜立ち上がる。器蓋は丁寧な磨き。	口縁部は8条1単位の帯輪状文を7、8段充満する。胴部には9条1単位2連止の帯状文を配す。胴部上位の帯輪状文は4段である。	皮裏吸着。被熱。
28 415	台付壺	台部 高 (5.6)	中央部 +6 №44・57・ 138・139	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③浅黄橙7.5YR8/3	低く、外面がややゆらみをもってハの字状に開く。外面には縦方向の刷毛目を、内面には一部に刷毛目を残し、指触でを磨す。		
29 406	壺	胴部上半1/2残存 高 (13.7)	2号9内、南部 +6 №43・45	①粗砂大のチャート・白色胎土粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	胴部は大きく張り出し球形を呈する。胴部外面は発色で後粗磨な磨き。	胴部には2連止の帯輪状文が施る。胴部上位には7条1単位の帯輪状文が4段施られる。	皮裏吸着。
30 395	壺	3/4残存 口 (20.8) 高 30.8	北西部 灰産 №107・108・ 110・113・ 114・118・ 119・120・ 121・124・138	①粗砂大の白色胎土粒・輝石・石英 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がる。胴部は中位に最大径を持ち算盤玉状に張る。口縁部の内面は刷毛目を残す。	口縁部は先端を除いて強幅の大きな帯輪状文4段を粗磨に施す。施文具は7条1単位か。胴部上位にも3段施る。胴部の帯状文は8条で3連止である。	皮裏吸着。
31 393	壺	胴部1/3欠損 口 23.0 高 41.6	中央部 +3 №13・22・24・ 28・31・33・ 36・96	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③	口縁部の先端は折り返し口縁。胴部は中位が大きく張り算盤玉状を呈する。口縁部外面は刷毛目。他は磨き。	頸部から胴部上位にかけては8条1単位の帯輪状文を3段施る。これを4箇所で2本1単位4本の縦直線文で区切っている。その直下には8条1単位の帯輪状文2段を施している。	破砕後皮裏吸着。
35 426	壺	口縁部上半欠損 胴部上半1/2欠損 高 59.6	南西部 +7 №60・61・82・ 86・90・95・ 96・98・123・ 138・178	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR7/4	胴部は縦長の算盤玉状に張り、中位やや下方に最大径を有する。	胴部には9条1単位2連止の帯輪状文を2段施し、その直下に帯輪状文2段を施している。	一部に皮裏吸着。

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
32	すり石	21.6・11.4 7.5	東栗原 No.171	粗粒安山岩 2800	器底の一部をすり面として使用している。小口部分の欠損は敲打によるものか。		
33	すり石	13.9・7.6 3.2	2号6号 No169	粗粒安山岩 532	表面面ともすり面として使用している。側面を多少敲打しているか。小口は両端とも敲打により潰れている。		
34	すり石	10.7・8.2 2.7	P1期 No170	砂岩 376	表面側面をすり面としている。側面・小口面で点描を行っていない面は、使用部としての判断が困難な部分である。		

29号住居出土遺物観察表 (第107図、図版47)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 438	鉢	1/2残存 口 (15.0) 高 6.0	埋没土	①精選、粗砂大の チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.YR7/4	口縁部は小径の底部から浅く立ち上がる。先端は尖る。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。
2 428	鉢	上位1/2欠損 口 (13.6) 高 6.9	南東部 +43 No43	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/8	口径に比較して器高を有し、深みがある。外面は丁寧な磨で。		被熱。 炭素吸着。
3 439	高杯	杯部1/3欠損 口 12.7 高 10.0	埋没土	粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR7/4	杯部は浅く、弧をなし斜め上方に立ち上がる。頸部は小径。外反側く方向に開く。胴部内面を除いて丁寧な磨き。		被熱。
4 430	高杯	胴部 高 (10.3)	南西部 床直 No18	①微・粗砂大のチャート・長石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/8	胴部は器高を有し、微方向に開く。基部は外面に種をなした後杯部に絞っている。胴部内面は磨で。		被熱。 炭素吸着。
5 427	甕	口縁部 口 12.7 高 (5.0)	南東部 +33 No11	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR7/4	外反して立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤色塗彩。欠損後炭素吸着。
6 435	台付壺	口縁部破片	東部 +13 No6	①粗砂大のチャート・細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		口縁部には縞線状文を施し、先端に刻目文を伴うボタン状貼付文を付す。胴部には1単位9条以上の2連止翼状文を施す。	器面は磨料する。
7 433	壺か	口縁部破片	1号伊内 +14 No4	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙7.5YR6/4	先端は折り返し口縁。	折り返し口縁部分に縞線状文を施す。	
8 429	壺	胴部～胴部上位 破片	北東部 床直 No23	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	胴部は大きく張る。	胴部には6条1単位2連止翼状文を2段重ねる。胴部上位には縞線状文を4段重ねる。	
9 431	壺	口縁部破片	南西部 +7 No16	①微大のチャート・細砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR6/4	口縁部は緩やかに外反して立ち上がる。先端は外側の器内が薄れ尖る。	5条1単位の縞線状文を5段重ねる。最上位のみ器高が薄い。	被熱。
10 60	すり石	18.2・6.1 3.2	埋没土	粗粒安山岩 510	真面はすり面となっていたか。1箇所凹みが認められる。先端の割傷は敲打によるものか。旧事欠損である。		
11 59	砥石	10.0・7.4 3.9	埋没土	平伏砂岩 281	表面はすり面として使用されているが、裏面については全体が割傷し、細かな凹凸が見られる。側面は旧事欠損の部分を除いてすり面となっている。		

30号住居出土土物観察表 (No.110~112図、図版47~49)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・形状の特徴	文様	備考
1 448	鉢 小型粗製	1/2残存 口 (5.2) 高 3.6	塚内土	①粗砂大の赤色粘土 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR7/3	口縁部の先端は短く外反する。 内外面とも撫で。		底部外面に 灰土吸着。
2 465	台付蓋か	胴部下位の破片	北部 床直 №38	①粗砂大の赤色粘土 粒・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	内外面とも丁寧な磨き。		
3 450	鉢	1/2残存 口 (12.2) 高 5.6	東部 +4 №27	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がる。 先端は直立ぎみに起きる。内外 面とも丁寧な磨き。		内面と外面 の一部に灰 土吸着。
4 446	鉢	1/2残存 口 (15.8) 高 8.1	北東部 床直 №9	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/3	口縁部は器高く、斜め上方に 立ち上がる。先端はやや起き上 がる。外面は足跡で後磨き。内 面は磨き。		
5 445	高杯か	口縁部破片	北東部 床直 №18	①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	杯部の破片となるか。大径。斜 め上方に向けて立ち上がる。内 外面とも丁寧な磨き。		
6 454	高杯か	口縁部破片	北東部 -1.1 №4	①粗砂の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	大径。斜め上方に立ち上がる。 内外面とも丁寧な磨き。		灰土吸着。
7 452	高杯	杯部下半～胴部 高 (16.5)	南西部 +4 №48	①粗砂大の輝石・白 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	胴部は外反著しく裾方向に開く。 杯部は大径で深みを有していた と思われる。器部は丁寧な磨き。	外面に赤色塗彩。	
8 449	台付蓋	口縁部～胴部下 位 口 (11.7) 高 10.7	北東部 床直 №3	①粗砂大のチャ ート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 5/4		火熱のため器面は剥離しており 胴部が黒褐色であったが口縁 部に輪線状文を、器部に輪 線状文を施す。	焼熱による 変色。
9 456	台付蓋	ほぼ空形 口 9.8 高 12.5	北東部 床直 №18	①粗砂大の赤色粘土 粒・チャート ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 6/4	胴部の器高を有し深みがある。 下位は成形が粗拙で丸みを失っ ている。外面は磨削で。		灰土吸着。
10 459	高杯か	口縁部～胴部 1/3残存	北東部 床直 №22	①精選、細砂大の白 色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6	口縁部は内側に立ち上がる。 先端は屈曲して強く外反するか、 内外面とも丁寧な磨き。		外面及び内 面の上位に 赤色塗彩。
11 470	高杯	胴部 高 (5.8)	南西部 +3.2 №46	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR5/4	胴部は低く小径である。外面は 丁寧な磨で、内面は磨削し、撫 で。		杯部内面に 赤色塗彩。
12 472	高杯か	胴部 高 (7.0)	東部 +2.6 №31	①粗砂大のチャ ート・輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼7.5YR 7/4	裾方向に外反著しく開く。外面 は丁寧な磨き。		焼熱。
13 473	高杯か	胴部 高 (8.3)	北東部 +5 №1	①粗砂大のチャ ート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	胴部は外反弱く裾方向に開く。		焼熱。

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①粘土 ②構成 ③色調	器形・器形の特徴	文 様	備 考
14 451	壺	胴部は1/2欠損 口 15.6 高 (18.3)	南東部 床直 №34	①粗砂大のチャート・白色粘土粒 ②酸化燧・良好 ③ ④	口縁部は緩やかに外反し先端は弱く返る。胴部はあまり張らない。		被熱による変質、変色。
15 453	甕	口縁部破片	埋没土	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒・赤色粘土粒 ②酸化燧・良好 ③燧5YR6/8	口縁部は大きく外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。		
16 455	壺	口縁部破片	南東部 床直 №34	①粗砂 ②酸化燧・良好 ③洗良燧7.5YR8/4	口縁部は大きく外反し、先端は折り返し口縁。外面は刷毛目後粗雑な磨き。		灰素依着。
17 460	壺	胴部下位～底部 高 (5.3)	北東部 +1.0 №7	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化燧・良好 ③燧5YR6/6	外面は磨き。一部に刷毛目を残す。		灰素依着。
18 461	甕	底部 底 14.2	南西部 +7.2 №49	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化燧・良好 ③燧5YR6/8	大型品。		
19 462	壺か	底部 底 8.7	埋没土	①粗砂大の赤色粘土粒・チャート ②酸化燧・良好 ③燧5YR5/8			被熱。
20 464	壺	底部 底 6.7	北東部 +7.0 №5	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化燧・良好 ③明赤燧7.5YR5/6	外面の一部は磨き。		灰素依着。
21 466	鉢か	下半部1/4残存 高 (4.9) 底 (4.1)	埋没土	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化燧・良好 ③にぶい燧7.5YR7/4	口縁部は小径の底部から斜め上方に弧をなして立ち上がる。内外面とも丁寧な磨き。		
22 463	壺か	底部 底 8.5	南東部 +3.8 №35	①粗砂大の輝石・チャート ②酸化燧・良好 ③明赤燧5YR5/8			器面は磨耗している。
23 468	壺	胴部下位～底部 底 5.9	北東部 -2.8 №15	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化燧・良好 ③燧5YR6/6	外面は磨き。		
24 469	壺	底部 底 (6.0)	北東部 -1.3 №8	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化燧・良好 ③にぶい燧7.5YR7/4			被熱による変色。
25 467	壺	胴部下位～底部 高 (5.8) 底 6.5	北東部 床直 №19	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化燧・良好 ③にぶい燧7.5YR5/4	外面は丁寧な磨き。内部は磨で。		被熱。 灰素依着。
26 457	壺	底部 底 4.5	P 2 内 床直 №24	①燧大の赤色粘土粒・粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化燧・良好 ③にぶい燧7.5YR5/4			被熱。 脆弱になる。 二次利用されたか。

番号	器種	残存量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
27 471	台付壺	台部2/3残存 高(5.2)	埋没土	①精漚、細砂大の白色 ②酸化焰・良好 ③により體7.5YR7/4	白色はやや内湾さみにへの字状に開く。外周は丁寧な磨で後半部に刷毛目。内面は指頭による磨でと思われる。		灰黄吸着。
28 447	壺か	口縁部~胴部中位1/4残存 口(11.8) 高(12.5)	西部 +4.1 №45	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③體2.5YR7/6	口縁部は直立さみに外反割く立ち上がり、先端は折り返し口縁。胴部は大きく張り球形を呈したか。	口縁部から胴部上位までを櫛歯状文を充滿する。8条1単位の櫛状工具で、8段重ねたか。	
29 443	壺か	胴部2/3残存 高(20.6)	北西部 床直 №50・51・53	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③體7.5YR7/6	胴部はやや張るか。胴部は丁寧な磨き。	胴部には14条の等間隔止帯櫛歯状文が走る。胴部上位には5段の櫛歯状文を施す。	
30 442	壺	3/4残存 口(12.6) 高21.8	南部 床直 №34・43・44	①粗砂大のチャート・白色磁物粒 ②酸化焰・良好 ③體7.5YR7/6	口縁部は外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。胴部は球形を呈する。胴部外面は粗磨を呈明り。	胴部には9条1単位と思われる2連止帯櫛歯状文が走る。胴部には櫛歯状文3段を重ねた文様帯を配す。	灰黄吸着。
31 444	壺か	口縁部欠損、胴部は2/3残存 高(17.0)	西部 +5.2 №43	①粗砂大のチャート・白色磁物粒 ②酸化焰・良好 ③體5YR7/6	胴部は球形を呈する。胴部外半は磨で後粗磨な磨き。	胴部には9条の3連止帯櫛歯状文を施す。胴部中位や上には8条櫛歯状文を並らせた文様帯の下端を施している。この際、胴部上位には5条1単位の櫛状工具により横位の羽状文が配られる。	灰黄吸着。
32 441	壺	上半部一部欠損 口18.1 高33.4 底9.2	北東部 床直 №18	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③により體7.5YR7/3	口縁部は縁曲り緩やかに外反して立ち上がる。胴部は上位に最大径をもち張る。裾面は丁寧な磨き。	口縁部と胴部上位に櫛歯状文による文様帯を配す。櫛状工具により8条1単位で口縁部に3段、胴部に4段重ねている。胴部には8条1単位2連止の櫛歯状文を施す。	一部に灰黄吸着。
33 481	壺	口縁部は先端を1/2欠損 口(22.6) 高42.1	北東部 +3 №13	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③體5YR6/6	口縁部は緩やかに立ち上がり先端は内側に折れ返る。胴部は長球形を呈する。口縁部は刷毛目、胴部外面は磨き。	口縁部先端は櫛歯状文文後円形貼付文を付す。胴部には13条2連止の櫛歯状文を施す。胴部上位には9条1単位の櫛歯状文を3段並らした文様帯の下端に7條の刺突文を伴う円形貼付文5単位を付す。	灰黄吸着、被焼。
34 478	壺	ほぼ完形 口19.5 高36.2	西部 床直 №52	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③體5YR6/6	口縁部は全体形状に比較してやや短く、緩やかに外反する。胴部は中位やや上で張り出す。器形調整は刷毛目後磨で、磨き。口縁部内外面には刷毛目を強く残す。	口縁部の上半に9条1単位と思われる櫛歯状文を3段並らする。胴部には7条1単位2連止の櫛状文を右回りに巻き上げるように2段施している。胴部上位には11条1単位と思われる櫛歯状文を3段並らする。	一部に灰黄吸着。
35 62	すり石	26.6・7.5 7.2	東部 №63	粗粒安山岩 1950	小口面はすり面として使用したか。また、後の部分は磨打により磨れている。		
36 61	すり石	12.7・6.2 4.6	南東部 №57	粗粒安山岩 566	表面両面ともすり面となる。表面の上位は磨打している。また、小口の両端はともに磨打により磨れている。		
37 63	石彫	6.5・3.3 0.95	埋没土	チャート 18.82	縦長切片の側面を制御調整。		

32号住居出土遺物観察表(第115~117器、図版49~51)

番号	器種	残存量	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 500	鉢	3/4残存 口(11.3) 高5.0	北部 +5 №43	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③により體7.5YR7/4	小径。口縁部は内湾さみに斜め上方に立ち上がる。底部外面を除き丁寧な磨き。		底部外面を除き赤色着色。

番号	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
2 458	瓶	胴部下位～底部 高(4.5) 底 5.3	南東部 +19 №37	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR 7/4	底部のほぼ中央に径1.6cmの穿孔がなされている。内外面とも丁寧な製で。		
3 489	壺か	底部 底 5.8	南西部 +16 №61	① 礫・粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③によい黄橙10YR 6/4	底部外面に木量痕が認められる。		
4 483	蓋 小型	胴部 高(4.7)	南東部 +3 №34	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	つまみは逆縁凹面形を呈し、上端の径は4.2cmである。内外面とも製で。		炭素吸着。
5 499	高杯	定形 口 13.8 高 13.0	中央部 床直 №40	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR 7/4	鼓状を呈するが、口径が部分の径を上回る。胴部内面に刷毛目を残すが、その他は丁寧な製で。		胴部内面を除き赤色塗彩。胴部内面に炭素吸着。
6 487	台付壺	口縁部～胴部中位 口(12.0) 高(8.0)	南西部 +36 №47	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR 7/4	口縁部は屈曲して外反、硬やかに立ち上がる。	頸部に8条1単位2連止の櫛指縷状文を施した後、口縁部と胴部上位に櫛指波状文を加える。	被熱。 炭素吸着。
7 498	台付壺	口縁部～台部上位 口 10.5 高(13.6)	南西部 -17 №86	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	小型品。口縁部は短く、屈曲して外反する。器面は丁寧な製で、強い磨き。	頸部に10条1単位2連止櫛縷状文を施した後、口縁部と胴部上位に櫛指波状文を2段施す。	内外面に炭素吸着。
8 497	台付壺	口縁部～胴部下位 口(16.6) 高(14.0)	+16	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③によい黄橙10YR 7/4	器面は内外面とも非常に丁寧な製で。	頸部に9条1単位2連止縷状文を1段施す。胴部上位には櫛指波状文2段が施される。	台部欠損後も使用可。
9 496	台付壺	口縁部～台部上位 口 13.6 高(16.0)	南西部 +33 №79・84	①粗砂大の白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR 7/4	口縁部は弱く外反する。胴部は他と比較してやや膨らみを持つ。	頸部に10条1単位2連止櫛縷状文を1段施した後、口縁部と胴部上位に各2段櫛縷波状文を施す。	被熱による変色、変質。 炭素吸着。
10 495	台付壺	上半部の一部欠損 口(15.2) 高 21.2	東部 +6、-10 +4、床直 №7・14・16・ 20	①粗砂大の白色鉱物粒・粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は直立ぎみに立ち上がる。器面調整は刷毛目後磨きを施すが、胴部内面を除き刷毛目の残存が顕著である。	頸部に8条1単位2連止の櫛指縷状文を1段施した後、口縁部と胴部に櫛指波状文を各2段施す。	P5・P6が接合。口縁部・胴部の内外面に炭素吸着。
11 486	壺	口縁部破片	南西部 +15 №62	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大きく外反して立ち上がり先端は折り返し口縁。内面は丁寧な製で。		炭素吸着。
12 490	壺か	底部 底 9.0	南東部 +4 №33	①粗砂大のチャート・白色鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③によい橙7.5YR 6/4			外面に炭素吸着。
13 491	壺	底部 底 16.2	南西部 床直 №72	①粗砂大の白色鉱物粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	大型品の底部。		炭素吸着。
14 492	壺	底部 底 16.2	埋設土	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	大型品の底部。		

番号	器種	残存 法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
15 488	甕か	胴部下位～底部 高 (5.3) 底 9.2	南西部 +19 №47	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③によい貫粒10YR 7/3	胴部は内外面とも丁寧な磨き。		
17 485	甕	胴部下位～底部 高 (14.5)	北東部 床直 №19	①粗砂大のチャート・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③によい濁7.5YR 6/3	外面は刷毛目後、側で・磨き。		焼熟。 皮裏吸着。
18 483	甕	胴部中位～底部 高 (12.4)	中央部 床直 №44	①粗砂大のチャート・白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③によい濁7.5YR 7/4	胴部は大きく張り、舞盤玉状を呈していたか。外面は丁寧な磨き。		皮裏吸着。
19 482	甕か	胴部上半2/3残 存 高 (19.2)	南西部 +5 №77・80	①粗砂大の輝石・最大 の輝石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	胴部は径が細く長割を呈している たか。胴部外面は丁寧な磨き。 内面も磨いているが器面に指痕 によると考えられる縦方向の調整 痕が強く残る。	胴部には12条の2連止舞状文 が巡る。胴部には9条1単位 の櫛指波状文3段重ねる。	
20 484	甕か	胴部～胴部下位 の破片	南西部 +19 №64・69・74	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③によい貫粒10YR 7/4	胴部は下位に最大径を有してい たか。内面に刷毛目を残す。	胴部に11条1単位と思われる 2連止櫛指波状文が巡る。そ の直下、胴部上位には7条1 単位の櫛指波状文3段が施さ れる。	皮裏吸着。
21 479	甕	胴部下半は1/3 欠損 口 28.3 高 64.7	南部 床直 №1・2・6・ 24・26・29・ 32・35・59・ 80	①粗砂大のチャート・輝石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/8	口縁部の先端は折り返し口縁。 胴部は大きく張り出すが最大径 は下位にある。器面調整は刷毛 目後磨きを加えるが、口縁部は 刷毛目を残す。	折り返し口縁部には櫛指波状 文を施す。胴部には11条1単 位2連止の櫛指波状文1段 巡らす。胴部の文様帯は1条 の沈線波状文で下縁を圍し胴 部兼状文との間に10条1単位 の櫛指波状文6段を充満する か。	皮裏吸着。
22 480	甕	ほぼ完形 口 25.0 高 64.6	西部 床直 №5	①粗砂大の輝石・ チャート ②酸化焰・良好 ③明赤濁2.5YR5/8	口縁部は短く立ち上がり先端は 折り返し口縁。胴部は下位に最 大径を有し下腹に広がる器面調 整は口縁部に刷毛目を残し、胴 部は磨き。	口縁部は先端に櫛指波状文を 施す。胴部には8条1単位等 間隔止櫛指波状文が2段巡る。 胴部上位には8条1単位の櫛 指波状文3段を配し、文様帯 の下縁には刺突文を伴う円形 の貼付文を付す。	
16 65	石鏝	1.4・1.15 0.2	埋没土	黒耀石 0.2I	有蓋。柄い舌を作り出している。 刺突が粗雑で形状が歪んでいる。		

(2) 墓

2号墓出土遺物観察表 (第120回・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 960	台付蓋	完形 口 6.8 高 10.5	No.1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③明赤褐色SYRS/8	小型。胴部は球形を呈し、深みがある。内外面とも丁寧な磨き。	胴部に6条1単位の2連止帯遺像状文を施した後、口縁部、胴部にそれぞれ2段ずつ縞遺像状文を施す。	灰素焼着。
2 961	高杯?	完形 口 8.3 高 7.7	No.2	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③褐色SYR6/8	小型。杯部の口縁部分は強く屈曲して立ち上がり、先端は水平方向に開く。器面は丁寧な磨で、磨き。	杯部の口縁部分に刻目文が施される。	一部に灰素焼着。
3 962	鉢	3/4残存 口 13.8 高 6.2	No.3	①粗砂大の赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③褐色SYR7/6	口縁部は弱く内湾して斜め上方に立ち上がる。器面は非常に丁寧な磨き。		底部外面を除き赤色焼着。

5号墓出土遺物観察表 (第123回・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 964	高杯	ほぼ完形 口 14.4 高 14.6	底面密着	①粗砂大のチャート・赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③褐色SYR7/6	杯部は浅く、先端は屈曲して水平方向に開く。脚部は外反開く。脚部内面を除き磨きによる器面調整。	杯部の先端に刻目文が施される。	
2 963	鉢	ほぼ完形 口 15.3 高 6.7	底面密着	①粗砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③褐色SYR6/6	口縁部は弱く内湾しながら斜め上方に立ち上がる。底部は小径である。器面は丁寧な磨き。		

(3) 溝

3号溝出土遺物観察表 (第126回・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 966	蓋	口縁部1/2残存 口 (14.1) 高 20.1	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③褐色SYR7/6	口縁部は外反して立ち上がり、先端は折り返し口縁。胴部は球形を呈する。外面には丁寧な磨き。	胴部には9条からなる2連止帯状文が通り、その直下の胴部上位には波状文が2段施される。	灰素焼着。

(4) 土坑

1号土坑出土遺物観察表 (第127回・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 957	蓋か	胴部下半~底部 高 (12.9)	No.1	①粗砂大の赤色粘土粒・白色炭粉粒 ②酸化焰・良好 ③褐色SYR6/8	外面は横あるいは斜方向の刷毛目。内面は横方向の磨で。		

(5) グリッド

G-18グリッド出土遺物観察表 (第129・130回・図版56)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 951	高杯	杯部 口 12.6 高 (4.5)	No.33	①粗砂大の赤色粘土粒・輝石 ②酸化焰・良好 ③褐色SYR7/6	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がる。器面は丁寧に磨かれていたと思われる。		内外面に赤色焼着。

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
2 948	鉢か甕?	口縁部1/3残存 口 (17.7) 高 (7.8)	No83	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	先端は折り返し口縁。内外面とも丁寧な磨き。		灰素吸着。
3 950	高杯	脚部2/3残存 高 (8.2)	No40	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤焼2.5YR5/6	脚部は外反して握力方向に開く。 外面は丁寧な磨き。内面は削で。		内面に黒色 付着物。赤 色塗彩の顔 料が変化し たものか。
4 952	高杯か	杯部下位～脚部 高 (7.3)	No 1	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③赤焼2.5YR4/8	脚部は外反弱く開く。内面には 磨で強く残る。		
5 954	高杯か 台付甕	口縁部上位1/3 残存 口 (19.5) 高 (7.2)	No57	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	口縁部は先端が強く外反する。 屈曲する部分には焼成前穿孔の 径5mmの小孔が2個穿ってある。 内外面とも丁寧な磨き。		内外面に赤 色塗彩。
6 946	台付甕	脚部破片	No91	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4	扁平な球形を呈していたか。	頸部には6条以上の2連止 溝状文を施す。胴部には6条1 単位の繩輪波状文を2段巡ら し、下段にはボタン状粘付文 を重ねる。	灰素吸着。
7 949	甕	口縁部～胴部上 半	No35・59	①粗砂大のチャ ート・白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	口縁部は緩やかに外反して立ち 上がる。内面は丁寧な磨で、磨 き。	口縁部の上半に10本1単位の 繩輪波状文が2段配される。 胴部には10本1単位の2連止 溝状文が巡る。胴部には波状 文が3段配される。	灰素吸着。
8	甕	口縁部破片	No59	①白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	口縁部は緩やかに外反する。		7と同一個 体か。
9	甕	口縁部破片	No73	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6			
10 947	壺	胴部破片	埋没土	①粗砂大の輝石・白色 胎物粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい焼5YR6/4		繩輪横線文(扇状文)の下位 に寛指断歯文を配し、内側 には斜交文を充填させる。	
11 953	甕	口縁部下半～胴 部上半1/2残存 高 (12.4)	No34・70・71	①粗大のチャート・ 粗砂大の白色胎物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	口縁部は緩やかに外反する。	頸部に9条の2連止溝状文を 1段巡らしたほかは繩輪波状 文を充填させる。	熱を受けて が均等に 磨滅してお り二次利用 されたか。
12 956	甕	底部 底 9.7	No46	①粗大のチャート・ 粗砂大の輝石・白色 胎物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6			割れ口は金 で均等に 磨滅してお り二次利用 されたか。
13 955	甕	胴部下位～底部 高 (6.5)	No76	①粗砂大のチャ ート・輝石 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	胴部は緩やかに張ったか。内外 面とも丁寧な磨で、磨き。		
14 945	甕	胴部下位～底部 高 (10.7)	No87・118	①粗砂大の白色胎物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤焼5YR5/6	胴部は弱く張るか。内外面とも 丁寧な磨き。		灰素吸着。

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
15 944	甕	胴部下位～底部 1/2残存 高（9.9）	No118	①粗砂大の白色黏物 粒・赤色黏物粒 ②酸化焰・貝好 ③明赤釉SYR6/8	胴部の膨らみは大きい。外面 は丁寧な磨き。内面も磨で、磨 き。		炭素吸着。
16 133	磨製石斧	11.0・6.4 3.6	18号墳 Q-25	灰緑緑岩 781	乳棒状を呈する。両刃。		
17 1358	鉄剣	長さ 6.5	I-19	端部欠損。刃部幅2.5cm・茎幅1.8cm。茎に木質が付着し、鉄目釘が残る。			
18 1359	管玉	径 0.65 長 2.4	K-14	珉質凝灰岩 1.7	両側から穿孔。灰緑色。		

2. 古墳時代の遺構出土遺物

(1) 古 墳

2号墳出土土輪観覧表 (第141~143回・図R96~98)

番号	器 種	法 量 (cm)	出土位置	①胎土 ②地成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備 考
1 967	形象 人物 腰~基部	高 (60.3) 底 23.8	テラス 埴輪列 No1	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	外面 12	衣服の裾の表現が認められる。外面 縦刷毛。円形透孔(4.0×4.5)。内面 丁寧な縦方向指ナゲ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
2 968	形象 人物 基部	高 (37.7) 底 19.1	テラス 埴輪列 No2	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 12	①外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(4.3×4.1)。内面 縦方向指ナゲ。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
3 969	形象 人物 基部	高 (36.0) 底 20.4	テラス 埴輪列 No3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③純橙5YR6/4	外面 11	①外面 縦刷毛。円形透孔(4.8×4.1)。内面 縦方向指ナゲ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
4 970	形象 人物 基部	高 (35.1) 底 21.8	テラス 埴輪列 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 11	①外面 縦刷毛。刷毛が著しい。内面 縦方向指ナゲ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	外面に九字状発記号胎土No2
5 971	形象 人物 基部	高 (34.5) 底 17.2	テラス 埴輪列 No5	①緻密 ②酸化焰・良好 ③純橙5YR6/4	外面 10	①外面 縦刷毛。内面 縦方向指ナゲ。基部削り調整。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
6 972	形象 基部	高 (22.9) 底 18.1	テラス 埴輪列 No6	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12 内面 13	①外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナゲ。底面 接合方向不明。	
7 973	形象 基部	高 (26.4) 底 15.4	テラス 埴輪列 No7	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 6 内面 7	①外面 縦刷毛。内面 縦刷毛。縦~横方向指ナゲ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
8 974	形象 基部	高 (31.0) 底 14.6	テラス 埴輪列 No.8	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 10	①外面 縦刷毛。内面 縦刷毛。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
9 975	形象 基部	高 (29.1) 底 14.3	テラス 埴輪列 No9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 13 底面	①外面 縦刷毛。内面 縦刷毛後に斜な縦方向指ナゲ。底面 右回り接合。	
10 976	形象 基部	高 (28.8) 底 14.9	テラス 埴輪列 No10	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 6 内面 6	①外面 縦刷毛。内面 縦刷毛後に丁寧な縦方向指ナゲ。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
11 977	形象	高 (22.7) 底 14.7	テラス 埴輪列 No11	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 7 内面 8	①外面 縦刷毛。内面 縦方向刷毛後に縦方向指ナゲ。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
12 978	形象	高 (21.7) 底 12.6	テラス 埴輪列 No12	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 13 底面	①外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。内面 左上がり斜め刷毛。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
13 979	円筒	高 (14.5) 底 12.4	テラス 埴輪列 No16	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 12 内面	①外面 縦刷毛。基部削り調整。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナゲ。底面 接合方向不明。	
14 980	円筒	高 (20.8)	東側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③純橙7.5YR7/4	外面 内面	①外面 縦刷毛。基部削り調整。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナゲ。底面 接合方向不明。	
15 981	円筒 胎土No1	高 (14.8) 底 9.2	テラス 埴輪列 No17	①緻密 ②酸化焰・良好 ③純赤褐5YR5/4	外面 9 内面 10	①外面 縦刷毛。基部削り調整。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナゲ。底面 接合方向不明。	
16 982	朝顔	高 (43.2) 底 15.1	テラス 埴輪列 No14	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12 内面 8	①外面 縦刷毛。横長の半円形透孔(5.2×8.5、4.5×4.5)。胴部以上に青色地彩。内面 縦方向指ナゲ。底面 接合方向不明。植物圧痕。	3号墳の遺物の可能性が高い
17 983	円筒	高 (11.5) 口 23.2	テラス 埴輪列 No25	①緻密 ②酸化焰・良好 ③赤褐5YR4/8	外面 9 内面	①外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛。	口縁部外面に発記号「>」
18 984	円筒	高 (3.9)	周堀覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6		口唇部破片。	

19 985	円筒	高 (3.4)	東側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR6/6	内面 14	口唇部破片。	
20 986	円筒	高 (5.2)	東側周堀	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR5/6	外面 11 内面 12	口唇部破片。	
21 987	円筒	高 (4.1)	東側覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6		口唇部破片。	
22 988	円筒	高 (5.6)	テラス 埴輪列 No.9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR5/8	外面 11 内面 10	口唇部破片。	
23 989	円筒	高 (4.7)	テラス 埴輪列 No.8	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR5/8	外面 9 内面 11	口唇部破片。	
24 990	円筒	高 (3.1)	墳丘北	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR5/6	外面 10	口唇部破片。	
25 991	円筒	高 (3.7)	テラス 埴輪列 No.9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR5/8	外面 内面 12	口唇部破片。	
26 992	円筒	高 (6.4)	東側周堀	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	外面 11 内面 12	口唇部破片。	
27 993	朝顔	高 (8.2)	テラス 埴輪列 No.3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR5/6	外面 内面	口唇部破片。	
28 994	朝顔	高 (13.3)	テラス 埴輪列 No.1・7・9	①緻密 ②酸化焰・良好 ③赤褐色SYR4/8	外面 6 内面	口唇部破片。	

2号墳出土人物埴輪観察表 (第144図・図版98~101)

番号	図種	法量 (cm)	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (\approx 2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 995	形象 人物 女子顔部	高 (19.7)	テラス 埴輪列 No.4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	外面 10	額部まで巻き上げ成形した後に粘土板の髻を貼り付けている。	
2 996	形象 人物 女子顔部	高 (14.2)	テラス 埴輪列 No.5	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋7.5YR6/8	外面 12	額部まで巻き上げ成形した後に粘土板の髻を貼り付けているが、中央部には横髻が認められる。耳飾りの刺彫痕が残る。	
3 997	形象 人物 男子顔部	高 (11.9)	テラス 埴輪列 No.4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋7.5YR6/6	外面 11	額頂部まで巻き上げ成形。髻巻と右側の下げ髻・眉毛の一部が残る。	
4 998	形象 人物 性別不詳	高 (7.8)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③黄褐色7.5YR7/8		口と鼻の一部が残る。刺突により鼻孔を表現している。	
5 999	形象 人物 顔部	高 (3.7)	テラス 埴輪列 No.4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	外面 10	首飾りの表現が認められる。	
6 1000	形象 人物	高 (9.5)	テラス 埴輪列 No.2	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋7.5YR6/8		下げ髻。	7と対の可能性が高い
7 1001	形象 人物	高 (9.7)	玄室内	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋7.5YR6/8		下げ髻。	8と対の可能性が高い
8 1002	形象 人物	高 (6.7)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋7.5YR6/6		下げ髻。	9と対の可能性が高い
9 1003	形象 人物	高 (8.1)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③埋7.5YR6/6	外面 14	下げ髻。	8と対の可能性が高い

10 1004	形象 人物	高 (5.8)	前庭	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		下げ髪。	
11 1005	形象 人物	高 (11.0)	テラス 埴輪判 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR6/4	外面 12	右腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	12と対の 可能性が高い
12 1006	形象 人物	高 (11.4)	テラス 埴輪判 No3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	左腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	11と対の可 能性が高い
13 1007	形象 人物	高 (9.3)	テラス 埴輪判 No5	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		右腕。胸部付近に掌を置くと考えられる。	14と対の可 能性が高い
14 1008	形象 人物	高 (8.9)	前庭	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		左腕。胸部付近に掌を置くと考えられる。	13と対の可 能性が高い
15 1009	形象 人物	高 (5.1)	テラス 埴輪判 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		左手。掌に何かを覆っていた痕跡が認められる。	
16 1010	形象 人物	高 (14.9)	周船覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		右腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	17と対の可 能性が高い
17 1011	形象 人物	高 (8.5)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		左腕。腰部付近に掌を置くと考えられる。	16と対の可 能性が高い
18 1012	形象 人物	高 (12.2)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	腕。左右・姿勢不明。	
19 1013	形象 人物	高 (10.7)	テラス 埴輪判 No4	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		体部に差し込まれた腕の接合部。左右不明。	
20 1014	形象 人物	高 (13.2)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR6/4		体部に差し込まれた腕の接合部。左右不明。	
21 1015	形象 人物	高 (9.0)	テラス 埴輪判 No3	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		大刀を表現した部分が判識したものと考えられる。	

2号墳出土埴輪観察表 (第145～150図・図表101～109)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	面毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1016	形象 駒	高 (20.9)	前庭、西側墳 丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 11		
2 1017	形象 大刀	高 (10.6)	北側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	勾金の上端。表面には三輪玉の刺繍痕が残る。裏面には補綴の粘土層帯が認められる。	
3 1018	形象 大刀	高 (4.1)	周船	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6		矢羽の上面に貼り付けたもの可能性が考えられるが詳細は不明。	
4 1019	形象 大刀	高 (9.5)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 11	勾金の下端部。三輪玉の一部が残る。	
5 1020	形象 大刀	高 (15.2)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		勾金の下端部。三輪玉が1個残る。	
6 1021	形象 大刀	高 (7.3)	西側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	勾金の下端部。三輪玉が1個残る。	
7 1022	形象 大刀	高 (14.8)	南側墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		勾金の下部。三輪玉が1個残る。	
8 1023	形象 大刀	高 (7.7)	墳丘	①緻密 ②酸化焰・良好 ④明赤褐5YR5/8	外面 9	勾金の上端。鈎が1個残る。	

9	1024	形象 大刀	高 (7.0)	前庭	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6		勾金の下部。鎧と紐の表現が1個残る。	8とは別個 体と考えら れる
10	1025	形象 大刀	高 (6.5)	周堀覆土中	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/4		矢尻の接合部と考えられる。	
11	1026	形象 大刀	高 (18.3)	テラス 堀輪列 №9	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 12	大刀の鞘部と考えられる。	
12	1027	形象 不明	高 (12.0)	東側墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/4	外面 8	凸帯より上部は剥離しているが、種別不明。	
13	1028	形象 大刀	高 (11.2)	南側墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 12	矢尻。上面には何も付かないと考えられる。	
14	1029	形象 槍	高 (45.0)	奥溝部	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/8	外面 10	円筒形の柄の上部を決めて別作りの鎧身を差込んで 接合している。	
15	1030	形象 槍	高 (7.8)	周堀覆土中	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6		鎧身の破片。	
16	1031	形象 槍	高 (28.8)	墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 9	鎧の柄部分と考えられる。	
17	1032	形象 細	高 (36.5)	テラス 堀輪列 №15	①縹密 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 8	背負い紐は線刻で表現し、結び目の粘土紐を貼り 付けている。	18とは同一 個体
18	1033	形象 細	高 (19.0)	東側墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	線刻により4本の鏃を表現している。裏面には莖ナ デ痕が明瞭に残る。	17と同一個 体
19	1034	形象 細	高 (11.2)	トレンチ	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 8	線刻により4本の鏃を表現し、四脇は粘土鏃帯を貼 り付けている。裏面には莖ナデ痕が明瞭に残る。	
20	1035	形象 細	高 (7.4)	西側墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 7	線刻による鏃が2本認められる。裏面は剥離してい る。	
21	1036	形象 細	高 (18.7)	南側墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR7/4	外面 9	線刻により4本の鏃を表現している。裏面には鏃強 の粘土鏃帯の一部がほぼ並行して残る。	
22	1037	形象 細	高 (8.5)	テラス 堀輪列 №2	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 11	左側部破片。線刻による鏃の莖部が2本残る。裏面 には鏃強の粘土鏃帯が認められる。	
23	1038	形象 細	高 (11.2)	北側墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 12 内面 12	線刻による4本の鏃が認められる。裏面には鏃強の 粘土鏃帯の影線痕が1箇所残る。	
24	1039	形象 細	高 (70.0)	テラス 堀輪列 №12	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR7/6	外面 7	矢尻部分には背負い紐の紐にも線刻が認められる。	
25	1040	形象 細	高 (20.8)	北側墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 10	左側上部の翼。	
26	1041	形象 細	高 (23.5)	テラス 堀輪列 №9	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/4	外面 10	右側上部の翼。	
27	1042	形象 細	高 (51.0)	墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③焼増7.5YR6/6	外面 9	矢尻部の上端に線刻と粘土鏃帯による裝飾が認めら れる。	
28	1043	形象 細	高 (31.9)	墳丘	①縹密 ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 8	矢尻の下部。	

29 1044	形象 期	高 (13.0)	南側墳丘 東側墳丘	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③鈍黒7.5YR5/4	外面 8	右側上部の瓦破片。	
30 1045	形象 期	高 (17.5)	北側墳丘	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③明褐色5YR5/6	外面 11 内面 11	右側上部の瓦破片。	
31 1046	形象 期	高 (18.5)	北側墳丘	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/8	外面 9	Aタイプの破片。	
32 1047	形象 期	高 (10.2)	東側周溝	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	外面 12	Aタイプの破片。	
33 1048	形象 期	高 (8.5)	東側周溝	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5/8	外面 9	Aタイプの破片。	
34 1049	形象 期	高 (13.9)	テラス 楕輪列 №9	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	外面 9	Aタイプの破片。	
35 1050	形象 期	高 (14.9)	テラス 楕輪列 №37	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	外面 10	Bタイプの破片。	
36 1051	形象 期	高 (8.5)	南側墳丘	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	外面 12	Cタイプの破片。	
37 1052	形象 期	高 (10.3)	南側墳丘	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6		Cタイプの破片。	
38 1053	形象 期	高 (10.8)	周溝覆土中	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	外面 7	右側の下部破片。	
39 1054	形象 期	高 (12.0)	周溝覆土中	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR7/6	外面 8	右側の下部破片。	
40 1055	形象 期	高 (55.0)	東側墳丘	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③鈍黒7.5YR6/4	外面 10	筒状の柄を挟んで別造りの粘土板を接合し、中央の円孔の周り及び周縁部に粘土紐を貼り付けている。裏面にはY字状の補強の粘土塊等が認められる。	
41 1056	形象 期	高 (13.3)	南側墳丘	①縹赤 ②酸化焰・良好 ③鈍赤褐色5YR5/3	外面 11	管の基部と考えられるが詳細は不明。	

2号墳出土遺物観察表 (第151～153図、図版145・146)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 557	須恵器 坏蓋	□ 13.4	前庭部 №18	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転クロコ型。体部上半回転型削り。口縁部横ナズ。	
2 558	須恵器 坏蓋	□ 12.9 底 6.3	テラス面 №2	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転クロコ型。体部上半回転型削り。口縁部横ナズ。	
3 559	須恵器 坏身	□ 11.0 高 3.6	前庭部 №22	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転クロコ型。体部下半回転型削り。口縁部横ナズ。	
4 560	須恵器 坏身	□ 12.8	前庭部	①細砂を含む ②還元焰・硬質 ③灰白10Y7/1	右回転クロコ型。体部下半回転型削り。口縁部横ナズ。	
5 561	須恵器 坏身	□ 11.6	前庭部	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転クロコ型。体部下半回転型削り。口縁部横ナズ。	
6 562	須恵器 坏身	□ 12.9	前庭部	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転クロコ型。体部下半回転型削り。口縁部横ナズ。	

7 563	須磨器 坏身	口 高	11.2	前庭部 №3・4	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転覆削り。口縁部横ナデ。	
8 564	須磨器 坏	口 高	11.6 3.3	前庭部	①細砂を多く含む ②還元焰・硬質 ③R10Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転覆削り。口縁部横ナデ。	
9 565	須磨器 坏	口 高	10.6 4.0	前庭部 №9	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転覆削り。口縁部横ナデ。	
10 566	須磨器 坏	口	13.0	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転覆削り。口縁部横ナデ。	
11 567	須磨器	口	8.4	北東部墳丘	①緻密 ②還元焰・硬質 ③R7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。2条の沈線の上に8条1単位の櫛歯状波状文を施す。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
12 568	須磨器 高坏	口	18.0	東側墳丘	①砂粒を含む ②還元焰・やや軟質 ③R7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。体部が2段になる。脚部の3方向に透孔。	
13 569	須磨器 高坏	口	12.7	南側墳丘	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。6条1単位の櫛歯状波状文を施す。脚部の3方向に2段の透孔。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
14 570	須磨器 高坏	底	11.0	北東部墳丘	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。脚部の3方向に長方形透孔。	
15 571	須磨器 高坏	口 底	14.3 12.0	墳丘	①緻密 ②還元焰・軟質 ③鈍い黄褐色10YR5/4	体が摩耗している。右回転ロクロ整形。脚部の3方向に透孔。	
16 572	須磨器 蓋	口	9.8	前庭部	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部と肩部に2条の沈線を施す。	17とセットをなすか
17 573	須磨器 脚付 短頸壺	口 底 高	6.8 11.7 18.5	テラス面 №3	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転覆削り。肩部の沈線の間に列点刺突を施す。焼締まり、降灰釉が掛かる。	16とセットをなすか
18 574	須磨器 鉢	破片		北東部墳丘	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R10Y5/1	右回転ロクロ整形。8～10条1単位の櫛歯状波状文を2段施らず。焼締まり、降灰釉が掛かる。	19と同一個体か
19 575	須磨器 鉢	破片		北東部墳丘	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ④暗オリーブ灰	右回転ロクロ整形。肩部に列点刺突を施す。穿孔の周囲は平坦。焼締まり、降灰釉が掛かる。	18と同一個体か
20 576	須磨器 短頸壺	口 高	10.2 10.9	テラス面 №1	①黄色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y6/1	右回転ロクロ整形。体部下端手持ち寛削り。良く焼締まり、降灰釉が厚く掛かる。	
21 577	須磨器 短頸壺	口 高	8.4 12.4	前庭部 №1・16	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ④R10Y5/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転覆削り。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
22 578	須磨器 提瓶	口 胴	9.9 20.8	前庭部 №2・12・26	①砂粒を多く含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y7/1	右回転ロクロ整形。肩部に列点刺突を施す。体部 回転覆削り。裏面 回転覆削り。弱いカキ目。	
23 579	須磨器 提瓶	口 底	7.6 14.6	前庭部 №37	①緻密 ②還元焰・やや軟質 ③R7.5Y8/2	全体が摩耗している。右回転ロクロ整形。体部 回転覆削り。内面 磨ナデ。	
24 580	須磨器 提瓶	破片		前庭部 №9・6	①白色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y5/1	右回転ロクロ整形。裏面 回転覆削り。カキ目。列点刺突。焼締まり、降灰釉が掛かる。	
25 581	須磨器 平瓶	口 高	6.2 17.3	前庭部 №1・9・8・9・ 14・27・29	①緻密 ②還元焰・硬質 ③R7.5Y6/1	頸状の耳2個。右回転ロクロ整形。底～体部回転覆削り。口縁部及び肩部に2条の沈線を施す。良く焼締まり、厚い緑色の降灰釉が掛かる。	
26 582	須磨器 平瓶	破片		北西部墳丘	①砂粒を多く含む ②還元焰・硬質 ④オリーブR2.5G6/1	右回転ロクロ整形。体部下半回転覆削り。	

27 583	須恵器 平瓶	破片	前庭部 №12	①白色灰物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R7.5Y6/1	右回転クロロ型。体部下半回転寛明り。焼締めり、隅灰 軸が掛かる。口縁部に別の個体が膠着している。	
28 584	須恵器 壺	口 47.6	東側墳丘 前庭部 №36・37	①白色灰物粒を含む ②還元焰・硬質 ③R10Y6/1	外面 平行可。口唇部に縞波状文。口縁部を縦線文で 埋める。 内面 青濁文。	
29 585	須恵器 壺	口 18.9	東側墳丘	①白色灰物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗オリーブ灰	外面 平行可。口唇部に縞波状文。 内面 青濁文。	
30 586	土師器 環	口 12.5	前庭部	①麻布 ②酸化焰・良好 ③繪5Y8/6	外面 体部手持ち寛明り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	

2号墳出土遺物観察表 (第154図、図版155)

番号	器種	残存 量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 698	ガラス玉	3.3×5.1 重さ 0.338	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
2 699	ガラス玉	3.8×3.0 重さ 0.06	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
3 700	ガラス玉	4.0×2.1 重さ 0.039	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
4 701	ガラス玉	3.9×2.3 重さ 0.047	玄室中	マリンプルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
5 702	ガラス玉	3.5×1.8 重さ 0.037	玄室中	マリンプルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
6 703	ガラス玉	3.6×1.4 重さ 0.037	玄室中	マリンプルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
7 704	ガラス玉	3.5×1.5 重さ 0.037	玄室中	シアン。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
8 705	ガラス玉	3.6×2.0 重さ 0.017	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
9 706	ガラス玉	4.8×3.0 重さ 0.1	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
10 707	ガラス玉	3.4×1.5 重さ 0.034	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
11 708	ガラス玉	3.7×2.6 重さ 0.075	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
12 709	ガラス玉	3.9×1.2 重さ 0.033	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
13 710	ガラス玉	4.0×2.0 重さ 0.044	玄室中	ターコイスブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
14 711	ガラス玉	3.7×2.3 重さ 0.047	玄室中	ターコイスグリーン。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
15 712	ガラス玉	4.1×4.4 重さ 0.097	玄室中	黄色。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
16 713	ガラス玉	4.2×3.0 重さ 0.065	玄室中	黄色。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	
17 714	ガラス玉	3.9×3.0 重さ 0.066	玄室中	ブルジャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
18 715	ガラス玉	3.8×1.9 重さ 0.03	玄室中	青緑色。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
19 716	ガラス玉	4.2×2.4 重さ 0.049	玄室中	ビーコックブルー。管切法による製作。両断面は加熱処理され、丸みを帯びる。	
20 717	耳環	18.70×16.95 重さ 4.3	玄室中	径4.0×4.5mmの楕円形の銅線に周状の金の環状を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、1.5mm程度の切れ目を持つ輪状に曲げたもの。	
21 718	鉄器	13×30	玄室中	筒形弓金具。両端が球状になった輪が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。輪の一端欠損。	
22 719	鉄器	17.5×18.5	玄室中	花卉状を呈し、中央に穿孔が認められるが、用途不明。	
23 720	鉄器	27×9.5	玄室中	兵衛鍔の破片。	

24	鉄鏝	78×10	玄室中	長距離の運搬。	
25	刀	20×35	玄室中	平造。種類6.5mmで、大横か？	
26	鉄鏝	78.5×15	玄室中	錆化が著しく、詳細不明。刀子或は長距離の破片と考えられる。	
27	鉄鏝 刀装具		玄室中	錆と考えられる。長さ22mmで、25×34mmの側面形を呈し、中央部に刀身形の透孔が認められる。	
28	鉄鏝 刀装具		玄室中	長さ9mmで、15×21mmの側面形を呈すと考えられる。刀子の柄口金具の可能性が高い。	
29	鉄海 馬具		玄室中	鉄貝型黒銅製板行轡。長さ約164mmの二連面の先端に銀板と一本引手を取り付ける。左側に全体に大振りて、引手長157mm、銀板最大幅64.2mm、寄尺94.65mm。	

3号墳出土土輪観察表 (第158～166回・図版109～120)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1	円筒	高 (17.2) 底 14.3	テラス 埋輪判 No1	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③純橙7.5YR7/4	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
2	円筒	高 (12.2) 底 15.4	テラス 埋輪判 No2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純橙7.5YR8/8	外面 16	外面 縦刷毛。刷毛が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
3	円筒	高 36.4 口 24.3 底 14.0	テラス 埋輪判 No3	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③純橙7.5YR7/3	外面 11 内面 9	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.2×7.0)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
4	円筒	高 (17.2) 底 13.1	テラス 埋輪判 No4	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙10YR8/4	外面 9 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
5	円筒	高 32.0 口 27.0 底 14.9	テラス 埋輪判 No5	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙10YR8/4	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.5×7.5)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
6	円筒	高 (32.0) 底 13.4	テラス 埋輪判 No6	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③純橙7.5YR7/4	外面 14 内面 13	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.2×6.0)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
7	円筒 胎土No3	高 37.0 口 28.0 底 14.5	テラス 埋輪判 No7	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③純橙7.5YR7/4	外面 11 内面 13	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×6.0)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
8	円筒	高 (31.2) 底 14.3	テラス 埋輪判 No8	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③橙5YR7/8	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.4×6.8)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
9	円筒	高 (34.0) 底 13.3	テラス 埋輪判 No9	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 6 内面 6	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に基部は丁寧な縦方向指ナデ。底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部に埋 記号「×」
10	円筒	高 (26.0) 底 15.0	テラス 埋輪判 No10	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 7 内面 7	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (7.0×8.5)。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
11	円筒	高 37.6 口 30.0 底 15.2	テラス 埋輪判 No11	①細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙2.5YR7/6	外面 11 内面 14	外面 縦刷毛。円形透孔 (5.6×7.1)。 内面 左上がり斜め刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	口縁部に三 角形透孔
12	円筒	高 37.0 口 22.9 底 15.7	テラス 埋輪判 No12	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 19 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.4)。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。埋記 号「×」
13	円筒	高 (15.2) 底 13.2	テラス 埋輪判 No13	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 14	外面 縦なC横刷毛。刷毛が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
14	円筒	高 34.4 口 25.9 底 13.7	テラス 埋輪判 No14	①細砂を多く含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙2.5YR8/6	外面 14 内面 12	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.5×6.9)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
15	円筒	高 31.8 口 23.4 底 14.4	テラス 埋輪判 No15	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.0)。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。小円 形透孔
16	円筒 胎土No5	高 (28.8) 底 14.1	テラス 埋輪判 No16	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③洗黄橙2.5YR8/6	外面 17 内面	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.3×8.0)。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	

17	円筒	高 36.4 口 25.8 底 13.6	テラス 増輪列 №17	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③洗骨機7.5YR8/6	外面 12 内面 9	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.3×6.2)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナゲ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
18	円筒	高 (27.2) 底 15.3	テラス 増輪列 №18-2	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③骨棒7.5YR7/6	外面 14 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (7.2×7.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナゲ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩
19	円筒	高 (22.4) 底 14.4	テラス 増輪列 №19	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③鈍色5YR7/4	外面 8 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
20	円筒	高 35.6 口 27.8 底 14.7	テラス 増輪列 №20	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③鈍色5YR7/4	外面 11 内面 11	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×6.5)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナゲ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
21	円筒	高 (33.6) 底 14.6	テラス 増輪列 №21	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③鈍色5YR7/4	外面 14 内面 17	外面 2・3段に目種横刷毛。横長の円形透孔 (7.2× 6.8)。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
22	円筒	高 (18.0) 底 15.6	テラス 増輪列 №22	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③骨棒5YR7/8	外面 14 内面 12	外面 B種刷毛。斜刷毛が著しい。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	黒斑が認め られる
23	円筒	高 36.4 口 26.7 底 14.0	テラス 増輪列 №23	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③骨棒7.5YR7/6	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.2×6.4)。 内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナゲ。 底面 左回り接合。	
24	円筒	高 (25.6) 底 14.9	テラス 増輪列 №24	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③鈍色5YR7/6	外面 6 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.0×7.0)。 内面 丁寧な縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部に黒 記号「×」
25	円筒 胎土№4	高 34.4 口 24.3 底 14.9	テラス 増輪列 №25	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③骨棒2.5YR7/6	外面 15 内面 14	外面 縦刷毛。口縁部を除きB種横刷毛。横長の円 形透孔 (6.5×7.5)。内面 左上がり斜め刷毛後に縦 方向指ナゲ。底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。黒記 号「×」
26	円筒	高 36.8 口 27.1 底 14.8	テラス 増輪列 №26	①細砂を含む ②酸化珪・硬質 ③鈍色7.5YR8/8	外面 12 内面 11	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.5×6.7)。内面横 方向刷毛後に縦な縦方向指ナゲ。底面 右回り接合。 植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩
27	円筒	高 (27.2) 底 14.3	テラス 増輪列 №27	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③骨棒5YR7/8	外面 15 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.5×7.1)。 内面 丁寧な縦方向指ナゲ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
28	円筒	高 35.0 口 23.6 底 13.2	テラス 増輪列 №28	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③鈍色5YR7/4	外面 11 内面 11	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.5×6.0)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。黒記 号「△」
29	円筒	高 (32.0) 底 14.3	テラス 増輪列 №29	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③洗骨機10YR5/2	外面 14 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.3×7.1)。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナゲ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
30	円筒	高 (19.2) 底 13.6	テラス 増輪列 №30	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③骨棒7.5YR7/6	外面 17 内面 15	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
31	円筒	高 (30.2) 底 15.3	テラス 増輪列 №31	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③洗骨機10YR8/3	外面 11 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.2×6.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
32	円筒	高 35.2 口 25.7 底 13.9	テラス 増輪列 №32	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③鈍色10YR7/3	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。円形透孔 (6.1×6.1)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナゲ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
33	円筒	高 36.0 口 27.3 底 14.8	テラス 増輪列 №33	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③洗骨機7.5YR8/4	外面 12 内面 9	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.3×6.8)。内面 横方向刷毛後に縦な縦方向指ナゲ。底面 左回り接 合。植物圧痕。	
34	円筒	高 36.2 口 27.8 底 15.1	テラス 増輪列 №34	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③鈍色5YR7/4	外面 14 内面 14	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (6.1×7.8)。 内面 横方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナゲ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
35	円筒	高 33.8 口 22.7 底 13.3	テラス 増輪列 №35	①細砂を多く含む ②酸化珪・硬質 ③洗骨機7.5YR8/4	外面 14 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔 (5.2×5.4)。 内面 横方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナゲ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
36	円筒	高 (26.8) 底 15.5	テラス 増輪列 №36	①細砂を含む ②酸化珪・良好 ③骨棒5YR7/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。横長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナゲ。 底面 粘土凝2枚接合。植物圧痕。	

37	円筒	高 26.8 底 11.0	テラス 増輪列 №37	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR8/8	外面 17 内面 14	外面 縦刷毛。縦長の半円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
38	円筒	高 22.4 底 14.2	テラス 増輪列 №38	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR8/8	外面 7	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
39	円筒	高 36.8 口 26.1 底 14.7	テラス 増輪列 №39	①細砂を多く含む ②酸化焙・硬質 ③黄褐色7.5YR8/8	外面 12 内面 11	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (5.6×6.5)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
40	円筒	高 16.0 底 13.8	テラス 増輪列 №40	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR7/8		外面 縦刷毛。割離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
41	円筒	高 18.4 底 14.2	テラス 増輪列 №41	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR7/6	外面 9	外面 縦刷毛。割離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
42	円筒	高 37.4 口 28.0 底 14.9	テラス 増輪列 №42	①細砂を多く含む ②酸化焙・硬質 ③黄褐色7.5YR7/4	外面 12 内面 13	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (6.1×7.3)。 内面 横方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
43	円筒	高 19.2 底 14.7	テラス 増輪列 №43	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR7/8	外面 7 内面 9	外面 縦刷毛。割離が著しい。 内面 縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
44	円筒	高 13.0 底 14.2	テラス 増輪列 №44	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR8/8	外面 6	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
45	円筒	高 35.0 口 27.0 底 13.7	テラス 増輪列 №45	①細砂を多く含む ②酸化焙・硬質 ③黄褐色7.5YR8/8	外面 12 内面 12	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (6.1×7.0)。 内面 横方向刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
46	円筒	高 17.3 底 17.0	周相層土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR8/4	外面 6 内面 6	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
47	円筒	高 36.0 口 21.7 底 12.7	周相層土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR7/8	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (6.0×7.5)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。黄記 号「X」。
48	円筒	高 37.3 口 21.8 底 13.8	周相層土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR7/6	外面 14 内面 15	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (7.0×7.8)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部赤色 塗彩。黄記 号「X」。
49	円筒 胎土№6	高 35.0 口 34.5 底 13.9	テラス 増輪列 №31・32・51・ 52	①細砂を多く含む ②還元焙・硬質 ③灰黄色5Y1/6	外面 14 内面 11	外面 縦刷毛。円形透孔。 内面 横方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	焼直みが著 しい
50	朝顔	高 (12.8)	周相層土中	①細砂を多く含む ②酸化焙・硬質 ③黄褐色7.5YR8/4	外面 13 内面 14	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	
51	円筒	高 (23.2)	周相層土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③淡赤褐色2.5YR7/4	外面 7 内面 6	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	口縁部赤色 塗彩
52	朝顔	高 (53.2) 底 14.5	周相層土中	①細砂を多く含む ②還元焙・硬質 ③黄褐色7.5YR7/4	外面 内面	外面 縦刷毛。大小の縦長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
53	朝顔	高 (49.5) 底 16.9	周相層土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR7/6	外面 内面	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	肩部以上に 赤色塗彩

3号墳出土遺物観察表 (第167頁)

番号	器 種	残 存 状 態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形・装 飾 的特 徴	備 考
1	土師器 坏	口 11.7	北側周相 №48	①硬質 ②酸化焙・良好 ③黄褐色5Y6/6	内外面共に割離が著しい。 外面 体部手持り寛削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
2	土師器 坏	口 12.2	北側周相 №48	①硬質 ②酸化焙・良好 ③明赤褐色5Y5/6	内外面共に割離が著しい。 外面 体部手持り寛削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	

3	土師器 坏	□ 13.0	北側周壁 №48・78	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面共に刺離が著しい。 外面 体部手持り箇所。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
4	土師器 坏	□ 12.8	北側周壁 覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③にじみ橙5YR6/4	内外面共に刺離が著しい。内斜口縁。 外面 体部手持り箇所。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
5	土師器 罍	□ 11.4	北側周壁 覆土中	①緻密 ②酸化焰・良好 ③鈍い黄橙10YR7/2	外面 体部横ナデ。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
6	土師器 高坏	坏部欠損 底 11.1	北側周壁 №.48	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面の刺離が著しい。 外面 底ナデ。3方向に径7mmの穿孔。 内面 ナデ。	
7	土師器 高坏	坏部欠損 底 14.3	北側周壁 №48・49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面共に刺離が著しい。 外面 底ナデ。 内面 ホゾ接合。ナデ。	
8	土師器 高坏	坏部欠損 底 13.5	北側周壁 №49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面の刺離が著しい。 外面 底ナデ。 内面 ナデだけ接合。ナデ。	
9	土師器 高坏	脚部欠損 □ 15.8	北側周壁 №49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	内外面共に刺離が著しい。 外面 体部手持り箇所。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	10と同一個 体か。
10	土師器 高坏	坏部欠損 底 13.0	北側周壁 №49	①緻密 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面の刺離が著しい。 外面 底ナデ。 内面 ホゾ接合。ナデ。	9と同一個 体か。

4号墳出土埴輪観察表 (第171区・図版121)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1	円筒	高 35.4 底 19.3 底 13.8	周壁 №1	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔(5.5×4.5)。基部吹押え調整。内面 縦方向刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
2	円筒	高 (20.0) 底 12.7	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。基部吹押え調整。内面 縦方向刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
3	円筒	高 (25.5)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。基部吹押え調整。内面 縦方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
4	円筒	高 (6.5) 底 11.0	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 15 内面 11	外面 縦刷毛。基部吹押え調整。内面 縦方向刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
5	円筒	高 (7.7) 底 12.5	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 12 内面 16	外面 縦刷毛。基部吹押え調整。内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
6	円筒	高 (12.8) 底 13.1	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 8 内面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
7	朝顔	高 (37.6) 底 13.1	周壁 №2	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙2.5YR6/6	外面 9 内面	外面 縦刷毛。横長の円形透孔(4.0×5.3)。内面 縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
8	朝顔	底 16.0	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ④明赤褐2.5YR5/6	外面 9 内面 9	外面 縦刷毛。肩部横方向刷毛。基部に粘土板製作時の横刷毛が残る。内面 縦方向刷毛。底面 右回り接合。植物圧痕。	図上復元

4号墳出土形象埴輪観察表 (第172区)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1	形象 人物頭部	高 (5.1)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		内外面共にナデ調整。頂部には何か割かれた痕跡が残る。女性か？	
2	形象 家形	高 (6.0)	周壁 №3	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4		内外面共にナデ調整。家形埴輪の壁の一部と考えられる。	

3	形象 家形	高 (3.5)	周縁 №1	①細砂を含む ②還元焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	外面 16 内面 14	内外面共に刷毛調整。表面に炭焼きの彫文が認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。
4	形象 人物像部	高 (5.3)	周縁覆土中	①細砂を含む ②還元焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	外面 8	外面 刷毛。内面 斜方向指ナデ。半身像の人物埴輪の衣服の裾。性別不明。
5	形象 家形	高 (4.0)	周縁覆土中	①細砂を含む ②還元焰・良好 ③明赤褐色5YR5/8	外面 14	内外面共に刷毛調整。表面は割離が著しい。表面に炭焼きの彫文が2条認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。
6	形象 家形	高 (6.0)	周縁 №2	①細砂を含む ②還元焰・良好 ③明赤褐色5YR5/8	外面 10 内面 14	内外面共に刷毛調整。表面に炭焼きの彫文が2条認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。

4号墳出土遺物観察表 (第173図、図版146・147)

番号	器種	残存法	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 597	須恵器 坏蓋	□ 高 5.0	前庭部	①黒色黏土粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転クロコ整形。体部下回転旋削り。口縁部横ナデ、焼締まり、降灰輪が掛かる。	図上復元
2 598	須恵器 高坏	□ 高 10.5	前庭部	①黒色黏土粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y4/1	右回転クロコ整形。体部の2条凸帯間に列点刺突を施す、焼締まり、降灰輪が掛かる。	
3 599	須恵器 小型壺	胴 高 8.3	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転クロコ整形。焼締まり、降灰輪が掛かる。	
4 600	須恵器 高坏	高 (12.3)	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転クロコ整形。体部が2段になる。胴部の3方向に長方形透孔。	
5 601	須恵器 高坏	高 10.2	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転クロコ整形。長脚の3方向に二段透孔。焼締まり、降灰輪が掛かる。	
6 602	須恵器 平瓶	□ 高 11.5	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転クロコ整形。体部下回転旋削り。底部内面に8箇所の梵状の刺突がある。口縁部3段接合。	
7 603	須恵器 平瓶	□ 高 12.8	前庭部	①瘠を少し含む ②還元焰・やや軟質 ③灰10Y6/1	右回転クロコ整形。体部下回転旋削り。口縁部3段接合。2条の改修を施す。	
8 604	須恵器 長頸瓶?	胴 高 15.2	前庭部	①黒色黏土粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転クロコ整形。体部下回転旋削り。肩部に列点刺突を施す。	
9 605	須恵器 平瓶	胴 高 4.0	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	右回転クロコ整形。体部3段接合。胴部に比輪が1条走る。	
10 606	須恵器 平瓶	□ 高 8.5	前庭部	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰10Y6/1	右回転クロコ整形。体部下回転旋削り。一部に手持り置削り痕跡が残る。体部3段接合。胴部から1段開いて口縁部に至る。	
11 607	須恵器 提瓶	□ 高 30.6	前庭部	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転クロコ整形。体部下回転旋削り。底面に明確なホネ目が残る。	
12 608	須恵器 提瓶	胴 高 18.7	前庭部	①白色黏土粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰10Y5/1	右回転クロコ整形。底面手持り置削り。焼締まり、降灰輪が掛かる。	

4号墳出土遺物観察表 (第174図、図版156)

番号	器種	残存法	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 727	主眼大刀 把直	長さ 70	衆石中	金銅製。径22×43mmの円形形を呈する。幅8mmの縁金の中央には幅1mm程の改修が認められる。列点又は内隈から打ち出しているが、意匠は不明。木質部に釘が埋存。	
2 728	鉄器 刀装具	長さ 47	主体部 №5	靱肌金具。径18×24mmの円形形を呈する。	
3 729	刀子	長さ 26	主体部 №1	平造。幅2.5mmの平横で縁はフクラヤヤ付。	

4	ガラス玉	7.3×5.2 重さ 0.394	石室中	コバルトブルー。管切法による製作。裏面は加熱・研磨処理され、扁平な形を呈する。
5	滑石製品	長さ 45 重さ 10.03	周堀中 №2	有孔円盤。厚さ4mmで、径1.5mmの孔が2個認められる。
6	滑石製品	長さ 40 重さ 5.03	周堀中 №3	有孔円盤。厚さ2.5mmで、径1.5mmの孔が1個認められる。

5号墳出土埴輪観察表 (M177団・B00321・122)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1116	円筒	高 (14.3) 口 19.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向指ナデ。 内外面に割離が著しい。	
2 1117	円筒	高 (15.0) 口 21.5	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 10 内面 12	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	
3 1118	円筒	高 (15.6) 底 12.0	西側周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 12	外面 縦刷毛。刷りによる基部調整。内面 縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
4 1119	円筒 粘土№9	高 (16.8) 底 11.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
5 1120	朝顔 人物	高 (6.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 8	外面 縦刷毛。 内面 割離が著しい。	
6 1121	朝顔 人物	高 (7.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 6	外面 縦刷毛。 内面 縦～横方向指ナデ。	
7 1122	形象 人物頭	高 (4.1)	西側周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR6/6		左目の一部と鼻。刺突により鼻孔を表現している。	
8 1123	形象 人物顔部	高 (4.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		粘土玉を貼り付けて一連の首飾りを表現している。	
9 1124	形象 人物頭	高 (3.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		右顔部分。	
10 1125	形象 人物頭	高 (5.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6		左頬と口の一部。	
11 1126	形象 人物頭	高 (5.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		表面に線刷りが認められる。家形埴輪の眉根の一部と考えられる。	
12 1127	形象 人物右腕	高 (7.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 8	腕の付け根付近の破片であるが、手は腕の近くに置かれていたと考えられる。	
13 1128	形象 人物	高 (5.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6		上げ髷。左右不明。	
14 1129	形象 人物右胸	高 (6.9)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR7/6		頸の盛り上がりと右目の一部。	
15 1130	形象 人物耳	高 (7.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6		粘土を盛り上げて耳殻を作り、別の粘土玉を貼り付けて耳飾りを表現している。左右不明。	
16 1131	形象 人物	高 (6.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 14	左肩～胸付近の破片。2連の首飾りを表現した粘土玉の割離痕が認められる。	
17 1132	形象 人物右腕	高 (11.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	外面 14	腕の近くまで手を下げて何かを握っていた状態を表現している。	18とセットと考えられる

18 1133	形象 人物左胸	高 (12.3)		周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③重7.5YR6/6	外面 10	腰の近くまで手を下ろし掌を体に付けていた状態を表現している。	17とセットと考えられる
19 1134	形象 人物顔部	高 (6.3)		周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③重7.5YR6/6		表面の剥離が著しく、前後不明。	20とセットと考えられる
20 1135	形象 人物	高 (6.2)		周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③重7.5YR6/6		濃し島田製の破片。	19とセットと考えられる

5号墳出土遺物観察表 (第178図・図版148)

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 609	須恵器 埴瓶	肩部 3.6	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・やや軟質 ③暗オリーブ灰3GY4/1	右回転クロコ整形。2条の沈線が認められる。	
2 610	須恵器 蓋	口 9.1	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰10Y6/1	右回転クロコ整形。天井部回転痕あり。体部と肩部に2条の沈線が通る。	
3 611	須恵器 鉢	胴部破片	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③オリーブR2.5GY5/1	右回転クロコ整形。肩部の沈線の下部に刃点刺突が高される。焼跡あり、降灰粒が散る。	
4 612	須恵器 鉢	口縁部破片	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③オリーブR2.5GY5/1	右回転クロコ整形。2条の沈線の上部に細線が施される。焼跡あり。	
5 613	須恵器 鉢	口縁部破片	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰10Y5/1	右回転クロコ整形。ラッパ状に関口縁部の上下に細線が施される。焼跡あり。	6と同一個体か
6 614	須恵器 鉢	胴部破片	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③暗オリーブR3GY4/1	右回転クロコ整形。刀子工具による細線が認められる。焼跡あり。	5と同一個体か
7 615	須恵器 壺	口 20.5	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰10Y6/1	外面 体部平行印。口縁部の2条沈線の上下に15本1単位の横線状文が通る。内面 背向波文。焼跡あり。	
8 616	須恵器 壺	口 25.4	周堀覆土中	①白色鉱物粒を含む ②還元焙・硬質 ③オリーブR2.5GY5/1	外面 体部平印。口縁部2条沈線の上下及び口唇部に6条1単位の横線状文が通る。内面 背向波文。焼跡あり、降灰粒が散る。	

6号墳出土埴輪観察表 (第183図・図版123)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (ノ2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1136	円筒 胎土No11	高 40.0 口 21.2 底 12.4	周堀覆土中	①赤・細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR8/4	外面 11 内面	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (6.5×5.7)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り擦合。植物圧痕。	口縁部内面に 登記号「X」
2 1137	円筒	高 (30.0) 口 22.3	周堀覆土中	①赤・細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色10YR8/3	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	
3 1138	円筒 胎土No10	高 (25.2) 口 21.3	周堀覆土中	①赤・細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色10YR7/4	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (7.5×6.2)。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	
4 1139	形象 家?	高 (9.5)	周堀覆土中	①赤・細砂を含む ②酸化焙・良好 ③重7.5YR7/6	外面 14	表面の剥離が著しく、表面に瓦摺き細線が認められる。家形埴輪の屋根の一部と考えられる。	

6号墳出土遺物観察表 (第184図・図版156)

番号	器種	残存量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 733	鉄鏃	38.5×17.5 重さ 2.8	玄室中 No1	無茎長三角形鏃。鏃身の中央部に穿孔が認められる。	
2 734	鉄鏃	24.5×14.5 重さ 1.2	玄室中 No3	無茎長三角形鏃。逆刺欠損。矢先の痕跡が残る。鏃身の中央部に穿孔が認められる。	

3	鉄鍔	33×21	玄室中	無茎長三角形鍔。先端部欠損。矢羽の痕跡が残る。鍔身の中央部に穿孔が認められる。
735		長さ 3.0	No.2	
4	鉄箭	25×34	玄室中	刀身の剝離したものの可能性が考えられるが明確は不明。
736			No.4	
5	銅製品	長さ 42	北東部周環丘	長釘状製品。先端部欠損。
737		長さ 4.06	境	
6	ガラス玉	3.5×1.8	玄室中	ターコイズブルー。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
738		長さ 0.033		
7	ガラス玉	4×2.4	玄室中	ビーコックブルー。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
739		長さ 0.057		
8	ガラス玉	4.2×2.3	玄室中	褐色。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
740		長さ 0.057		
9	ガラス玉	4.4×2.5	玄室中	薄緑。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
741		長さ 0.064		
10	ガラス玉	3.9×2.4	玄室中	若竹色。管切法による製作。両断面は、加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
742		長さ 0.036		

7号墳出土土輪観察表 (第1939号・図版123)

番号	面 種	法 量 (cm)	出土位置	①粘土 ②構成 ③色調	刷毛目 (ノ2cm)	器 形・成 形・整 形 の 特 徴	備 考
1	円筒	高 (13.3)	テラス	①細砂を含む		外面 縦刷毛。刷りによる基部調整。	
1140	粘土No12	底 11.2	増輪列 No1	②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6		内面 縦方向指ナド。 底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
2	円筒	高 (13.2)	テラス	①細砂を含む	外面 10	外面 縦刷毛。基部押え。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナド。粘土板製作時の横刷毛が僅かに残る。底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
1141	粘土No11	底 11.4	増輪列 No2	②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6			
3	円筒	高 (13.2)	テラス	①細砂を含む	外面 11	外面 縦刷毛。	
1142	粘土No13	底 11.8	増輪列 No3	②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/6	内面 12	内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
4	円筒	高 (10.2)	テラス	①泥・細砂を含む	外面 12	外面 縦刷毛。	
1143	粘土No14	底 13.2	増輪列 No4	②酸化焰・良好 ③純焼5YR6/4		内面 縦方向指ナド。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
5	円筒	高 (12.3)	テラス	①細砂を含む	外面 10	外面 縦刷毛。内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナド。粘土板製作時の横刷毛が残る。底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
1144	粘土No14	底 14.9	増輪列 No5	②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6			
6	円筒	高 (11.2)	周環覆土中	①細砂を含む	外面 10	外面 縦刷毛。	
1145	粘土No15	底 12.2		②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	内面 12	内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
7	円筒	高 (13.7)	北東部周環	①細砂を含む	外面 12	外面 縦刷毛。	
1146	粘土No16	底 14.4		②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	内面 12	内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナド。 底面 接合不明。細かい植物圧痕。	
8	形象 基部?	高 (13.5)	周環覆土中	①細砂を含む	外面 11	外面 縦刷毛。	
1147	粘土No17	底 15.3		②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	内面 11	内面 縦方向指ナド。 底面 接合方向不明。細かい植物圧痕。	
9	円筒	高 (13.7)	周環覆土中	①細砂を含む	外面 11	外面 縦刷毛。縦長の円形穿孔。	
1148	粘土No18			②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	内面 12	内面 縦方向刷毛。	
10	円筒	高 (8.9)	南東部周環	①細砂を含む	外面 11	外面 縦刷毛。	
1149	粘土No19			②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	内面 11	内面 縦方向指ナド。	
11	円筒	高 (4.4)	南東部周環	①細砂を含む	外面 7	外面 縦刷毛。	
1150	粘土No20			②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	内面 6	内面 指ナド。	
12	円筒	高 (5.1)	南東部周環	①細砂を含む	外面 10	外面 縦刷毛。	
1151	粘土No21			②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	内面 10	内面 左上がり斜め刷毛後に指ナド。	
13	円筒	高 (5.5)	南東部周環	①細砂を含む	外面 11	外面 縦刷毛。	
1152	粘土No22			②酸化焰・良好 ③純赤褐5YR5/4	内面 13	内面 左上がり斜め刷毛。	
14	円筒	高 (4.1)	北東部周環	①細砂を含む	外面 10	外面 縦刷毛。	
1153	粘土No23			②酸化焰・良好 ③純焼5YR6/4	内面 10	内面 左上がり斜め刷毛。	

15	朝顔	高 (6.3)	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋2.SYR6/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に指ナデ。	
16	朝顔	高 (9.1)	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋堀2.SYR5/6	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に指ナデ。	

7号墳出土形象埴輪観察表 (第194図・図版123・124)

番号	部 種	法 量 (cm)	出土位置	①土質 ②焼成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器 形・成 形・整 形 の 特 徴	備 考
1	形象 盤	高 (20.6)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	外面 12 内面 11	内外面共に刷毛調整。表面中央部の透孔の周囲に円形の線刻と放射状の線刻が認められる。	
2	形象 盤	高 (23.2)	南東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/8	外面 13 内面 13	内外面共に刷毛調整。表面中央部の透孔の周囲に円形の線刻と放射状の線刻が認められる。外縁部に赤色塗彩。	
3	形象 靴	高 (4.6)	北東部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	外面 12 内面 14	内外面共に刷毛調整。表面に線刻による縁が認められる。	
4	形象 靴	高 (11.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	外面 12	表面に粘土紐を貼り付けた4本の縁が認められる。裏面には補強に使用した粘土の刺刺痕が平行して認められる。	
5	形象 大刀	高 (9.2)	北東面	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	外面 10	表面には鈔が貼り付けられ、裏面には補強に使用した粘土の刺刺痕が認められる。大刀の勾金の上部と考えられる。	
6	形象 基部	高 96.2 底 15.9	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋7.SYR7/6	外面 11	外面 縦刷毛。内面 丁寧な指ナデ。凸部の近くに円形の透孔。形象埴輪の基部と考えられるが種別を特定できる資料は無い。	
7	形象 盾	高 (10.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6		内外面共にナデ調整。直線状の表面に線刻が3本認められる。盾形埴輪の右上隅と考えられる。	
8	形象 盾	高 (8.3)	南東周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋赤褐色SYR5/6		内外面共にナデ調整。表面に弧状の線刻が2本認められる。盾形埴輪の右下隅と考えられる。	
9	形象 人物	高 (7.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③埋SYR6/6	内面 10	表面に線刻が認められる。人物埴輪の衣服表現の一部と考えられる。裏面には半円形に近い刺刺痕が認められる。	

7号墳出土遺物観察表 (第195・196図・図版157・158)

番号	部 種	検 存 法 量	出土位置	器 形 成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1	鉄鏃	長さ 134.5 重さ 9.4	玄室中 №1	片丸造柳葉形長鏃鏃。轉状区。基部長23mm。鏃身先端部欠損。	
2	鉄鏃	長さ 134 重さ 9.1	玄室中	片丸造柳葉形長鏃鏃。轉状区。基部先端部欠損。	
3	鉄鏃	長さ 119 重さ 6.6	玄室中	長鏃鏃。鏃身部欠損。轉状区。基部長24mm。	
4	鉄鏃	長さ 112 重さ 8.7	玄室中	長鏃鏃。鏃身部欠損。轉状区。基部長22mm。	
5	鉄鏃	長さ 76.5 重さ 6.6	玄室中	長鏃鏃。鏃身部欠損。轉状区。基部長15mm。	
6	鉄鏃	長さ 99.5 重さ 6.7	玄室中 №2	片丸造柳葉形長鏃鏃。基部欠損。鏃身9×21mm。	
7	鉄鏃	長さ 159 重さ 18.7	玄室中	片丸造柳葉形長鏃鏃。轉状区。基部長42mm。鏃身9×26mm。	
8	鉄鏃	長さ 156.5 重さ 10.2	玄室中	長鏃鏃。鏃身部の刺刺痕が著しい。轉状区。基部長45mm。	
9	鉄鏃	長さ 129 重さ 9.4	玄室中	長鏃鏃。鏃身部欠損。台形区。基部長57mm。	
10	鉄鏃	長さ 106 重さ 7.4	玄室中	片丸造柳葉形長鏃鏃。轉状区。基部欠損。鏃身11×29mm。	

11	鉄鏝	長さ 82 重さ 5.9	玄室中	長柄鉄。鏝身部欠損。林状区。基部長42cm。	
12	鉄鏝	長さ 53 重さ 3.4	玄室中	片丸造柳葉形長柄鉄。基部欠損。鏝身9×19cm。	
13	鉄鏝	長さ 82 重さ 5.0	玄室中	片切刃造方造形鏝。鏝身先端部が僅かに欠損。12×17cm。鏝部無区。	
14	刀子	長さ 38	玄室中	平造。柄幅3mm。鏝は端部欠損するが、元張ってフラタ枯れる。	15と同一個体か？
15	刀子	長さ 58	玄室中	平造。区はなだらか。端部欠損。	14と同一個体か？
16	刀	長さ 124	玄室中	刀の基部破片。	
17	鉄器	長さ 43	玄室中	刀の区部の可能性が考えられるが詳細は不明。	
18	刀	長さ 419	玄室中	平造小刀。柄幅6mmの平棟で、背区幅3mmで、刃区はなだらか。背区の下部に径4mmの鋼本孔が認められる。跡はフラタや付く。	
19	刀	長さ 720	玄室中	平造大刀。柄幅8mmの平棟で、背区幅2mm・刃区幅5mmで共に直。茎の中央部に鉄目釘が残る。径5mmの鋼本孔が認められる。	
20	刀	長さ 22	玄室中 No.3	刀の基部破片。鉄目釘が残る。	
21	鉄器 刀装具			径40×50mmの銅形を示すと考えられる。側面に鋳象嵌が認められるが、意匠は不明。	
22	ガラス玉	8.4×6.9 重さ 0.625	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。	

8号墳出土土輪観察表 (第199回・図版125)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼2.5YR6/6	銅毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1165	円筒	高 29.0 口 21.9 底 13.0	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼2.5YR6/6	外面 9 内面 11	外面 縦銅毛。縦長の円形透孔(3.5×4.5)。基部板に押し。内面 縦方向指ナブ。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	口縁部内面に 記号 [~]
2 1166	円筒	高 (16.0) 底 13.6	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼5YR6/6	外面 9 内面 10	外面 縦銅毛。基部板押し調整。 内面 左上がり斜めの銅毛後に縦な縦方向指ナブ。 底面 接合方向不明。	
3 1167	円筒	高 (16.8) 口 21.7	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼2.5YR6/6	外面 8	外面 縦銅毛。 内面 左上がり斜めの銅毛後に縦な縦方向指ナブ。	
4 1168	円筒	高 (13.2) 底 13.1	北側周縁	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼2.5YR6/6	外面 12	外面 縦銅毛。 内面 左上がり斜めの銅毛後に縦な縦方向指ナブ。 底面 接合方向不明。	
5 1169	円筒 胎土No15	高 9.3 底 10.2	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼5YR6/6	外面 10	外面 縦銅毛。基部板押し調整。 内面 縦方向指ナブ。 底面 右回り接合。細かい植物圧痕。	
6 1170	円筒	高 (12.8)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼5YR6/6	外面 11 内面 12	外面 縦銅毛。 内面 横方向銅毛。縦方向指ナブ。	
7 1171	朝顔	高 (12.8)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼5YR6/6	外面 10 内面 12	外面 縦銅毛。 内面 左上がり斜めの銅毛後に縦方向指ナブ。	
8 1172	朝顔	高 (12.2)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③明赤焼5/6	外面 12 内面 12	外面 縦銅毛。 内面 左上がり斜めの銅毛後に縦方向指ナブ。	
9 1173	朝顔	高 8.0	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③明赤焼5/6	外面 9	外面 縦銅毛。 内面 左上がり斜めの銅毛。	口縁部内面に 記号 [~]
10 1174	形象 人物	高 6.0	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼7.5YR6/6		顔部破片。首筋4ヶ所が認められる。	
11 1175	形象	高 7.5	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化腐・良好 ③焼5YR6/6		人物土輪の衣服の表現と考えられる。	

12	形象 刷	高 (7.8)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋7.5YR6/6		腐蝕により3本の矢が表現されている。	
13	形象 刷	高 (5.0)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③鈍黄7.5YR6/4	外面 14	幅7mm程の粘土紐を貼り付けて2本の矢が表現されている。	
14	形象 家	高 (7.1)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋7.5YR6/6	内面 10	屋根成は壁の表現と考えられる。	

8号墳出土遺物観察表 (第200図・図版148)

番号	器種	法量 存 量	出土位置	①胎土 ②構成 ③色調	器形・成形の特徴	備考
1 618	土師器 坏	口 12.5 高 3.4	南側周壁	①細砂を多く含む ②酸化層・良好 ③にふい赤褐2.5YR5/4	外面 底部～体部手持り見削り。口縁部横ナデ。 内面 丁寧なナデ。口縁部横ナデ。	
2 619	須恵器 釜	口 (21.8)	南側周壁	①白色磁物粒を含む ②還元層・硬質 ③灰白7.5Y7/2	外面 体部平行印き。5条の細線が5段出る。口縁部凸帯の上下に7～8条1単位の横溝状文が2段ずつ出る。内面 青海波文。	

9号墳出土土輪観察表 (第206図・図版125)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②構成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1338	朝顔	高 (47.6) 底 14.5	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋2.5YR7/6	外面 9 内面 6	外面 刷毛目。縦長の円形透孔(5.2×4.7)。基部板押え調整。粘土板製作時の横刷毛が残る。内面 縦方向刷毛。底面 接合方向不明。細かい磁物粒残。	
2 1339	朝顔	高 (37.2)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋2.5YR6/8	外面 9	外面 刷毛目。縦長の円形透孔(5.6×5.2)。内面 左上がりの刷毛後に横な縦方向刷毛ナデ。	

9号墳出土土輪観察表 (第207図・図版126・127)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②構成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1179	形象 家	長 19.0	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋5YR6/6		壁材の刷毛目と考えられる。	
2 1180	形象 家	高 (17.5)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋5YR6/6		切妻屋根の上部と考えられる。	
3 1181	形象 家	高 (11.5)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	屋根材の一部。	
4 1182	形象 家	高 (10.6)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10	屋根材の一部。	
5 1183	形象 家	高 (10.4)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋5YR6/6		屋根材の一部。	
6 1184	形象 家	高 (14.1)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③明赤褐5YR5/4	外面 10	屋根材の一部。	
7 1185	形象 家	高 (20.4)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③埋5YR6/6	外面 10	屋根～壁材の一部で、方形の入り口が表現されている。	
8 1186	形象	高 (6.7) 底 7.3	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 10 内面 16	識別不明。	
9 1187	形象	高 (5.5)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化層・良好 ③明赤褐2.5YR5/6		大刀の矢尻の接合部分の可能性が考えられるが、種別不明。	

10 1188	形象 人物?	高 (6.0)	周知覆土中	①細砂を含む ②酸化硝・良好 ③橙SYR6/6		人物類の衣服表現の一部の可能性が考えられる。
11 1189	形象 盾	高 (6.7)	周知覆土中	①細砂を含む ②酸化硝・良好 ③明赤褐SYR5/6	外面 12 内面 14	右上隅部の破片。

9号墳出土遺物観察表 (第208・209図, 図版148~150)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 620	須恵器 坏蓋	口 13.4	南西部周知 №. 4・6	①砂粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰白2.5YR/1	右回転クロコ整形。天井部回転痕有り。	
2 621	須恵器 坏	口 13.0 底 8.0 高 3.0	南西部周知 №17	①緑赤 ②還元硝・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転クロコ整形。底部回転痕有り。	
3 622	須恵器 坏	口 14.4 底 9.2 高 3.9	南西部周知	①褐色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰7.5Y6/1	右回転クロコ整形。底部回転痕有り。焼締まり、降灰輪が掛かる。	
4 623	須恵器 平瓶	底 10.2 胴 20.0 肩 4.6	南西部周知 №27	①砂粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	右回転クロコ整形。外面 底部～体部下半は回転痕有り。肩部凸部上部に5～6条1単位の横線状文が走る。内面回転によるナデ。	焼熱により 軟化
5 624	須恵器 平瓶	胴 14.2	南西部周知	①砂粒を少し含む ②還元硝・硬質 ③灰白5Y7/2	右回転クロコ整形。肩部の1条状線間に8条1単位の縦線状文が走る。降灰輪が厚く掛かる。	
6 625	須恵器 提瓶?	最大径 13.0	南西部周知	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰5Y6/1	右回転クロコ整形。外面 カキ目が残る。内面 回転によるナデ。焼締まる。	
7 626	須恵器 高坏	最大径 10.6	南西部周知	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰オリーブ7.5Y5/2	右回転クロコ整形。体部下半回転痕有り。焼締まり、降灰輪が掛かる。	
8 627	須恵器 高坏	高 (7.9)	南西部周知 №. 4	①砂粒を含む ②還元硝・やや軟質 ③灰白5Y6/1	右回転クロコ整形。体部下半回転痕有り。透孔は認められない。	
9 628	須恵器 平瓶	胴 21.2 肩 6.2	南西部周知	①緑赤 ②還元硝・軟質 ③灰白10Y7/1	右回転クロコ整形。体部下半回転痕有り。	面表が摩耗 している
10 629	須恵器 平瓶	胴 21.9 肩 8.2	南西部周知 №. 8・23 №. 19~21	①褐色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰オリーブ5Y6/2	右回転クロコ整形。体部下半回転痕有り。3段接合。焼締まり、降灰輪が厚く掛かる。円形浮文は1個のみ。	
11 630	須恵器 蓋	つまみ	南西部周知	①砂粒を多く含む ②還元硝・硬質 ③灰10Y5/1	右回転クロコ整形。天井部回転痕有り後、径3.5cm×高さ2.0cmのつまみを貼り付ける。焼締まる。	
12 631	須恵器 蓋	口 15.0	南西部周知 №13 №15~17	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰10Y6/1	右回転クロコ整形。肩部に1条の沈線が走る。天井部は1段低くなる。焼締まる。	つまみ復元
13 632	須恵器 短頸瓶	口 10.0 高 16.5 底 12.1	南西部周知 №10・13 №15・16	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰10Y5/1	右回転クロコ整形。体部回転痕有り。肩部に1条の沈線が2本走る。底面は高台貼り付け後、強いナデ。焼締まり、降灰輪が掛かる。	
14 633	須恵器 短頸瓶	胴 19.8	南西部周知	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・やや軟質 ③灰オリーブ5Y6/2	右回転クロコ整形。体部下半回転痕有り。肩部に浅い沈線が2本走る。底面は高台貼り付け後、強いナデ。	
15 634	須恵器 壺	口 14.6	南西部周知 №27・29 №56	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③緑灰9G5/1	外面 体部下半平行叩き。上半部は右回転による強いナデ。内面 青海沈文。	
16 635	須恵器 提瓶	口 9.0	石室内部	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・やや軟質 ③灰オリーブ5Y6/2	右回転クロコ整形。	
17 636	須恵器 提瓶	口 15.0 底 6.2 高 36.0	南西部周知 №4・6 №8	①白色鉱物粒を含む ②還元硝・硬質 ③灰10Y6/1	外面 平行叩き。口縁部に沈線が2本走る。内面 青海沈文。焼締まり、降灰輪が掛かる。	

18 637	須磨器 提瓶	口 9.2 高 24.8	西宮市周瀬 No 3・5 No 6・8	①白色軟物粒を含む ②還元焼・硬質 ③灰10Y6/1	右回転クロコ整形。体部3段接合。外面に明確なカキ目が見られる。焼締まり、降灰粒が散らかる。
-----------	-----------	-----------------	---------------------------	----------------------------------	---

9号墳出土遺物観察表 (第210区、図版156・159)

番号	器種	残存量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1 765	鉄鏃	長さ 23.5 重さ 0.7	玄室中	無茎長三角形鏃。幅12.5mm。矢羽の痕跡が残る。	
2 766	鉄鏃	長さ 34	玄室中	長頸鏃。鏃身部・茎端部欠損。台形区。	
3 767	鉄鏃	長さ 29	玄室中	鉤り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。管部に木質付着。	
4 768	鉄鏃	長さ 30	玄室中	鉤り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。軸の一端欠損。管部に木質付着。	
5 769	鉄鏃 刀装具		玄室中	刀子の鞘口金具と考えられる。長さ9mmで、径15×21mmの倒卵形を呈すると考えられる。	
6 770	鉄鏃 刀装具		玄室中 No19	輝緑金具と考えられる。厚さ3.5mmで、23.5×30mmの倒卵形を呈する。	
7 771	鉄鏃 刀装具		玄室中 No3	銅付足金物。径27.5×31mmの楕円形を呈すると考えられる。	
8 772	刀子	長さ 41	玄室中 No4	平造。刃幅10mm、幅3.5mmの平楕で、鋒はフクラウヤ付く。	
9 773	刀	長さ 50	玄室中 No9	小刀の基部破片。径4mmの鉄目釘が残る。	
10 774	刀	長さ 108	玄室中	刀身部の剥離が著しい。直の両区造で、区幅3mm。	
11 775	土玉	9.4×7.1 重さ 0.714	玄室中 No18	黒。土製品と考えられる。	
12 776	土玉	9.5×7.2 重さ 0.715	玄室中 No27	黒。土製品と考えられる。	
13 777	ガラス玉	12×8.5	玄室中 No15	グリーン・白。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。表面銀化。鉛ガラス。表面の一部剥離。	
14 778	ガラス玉	10.5×7.0	玄室中 No5	白。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。表面銀化。鉛ガラス。	
15 779	ガラス玉	10.5×6.5	玄室中 No6	白。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。表面銀化。鉛ガラス。表面の一部剥離。	
16 780	ガラス玉	9.3×6.2 重さ 1.004	玄室中 No26	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。表面の角ど剥離。	
17 781	ガラス玉	破片	玄室中	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。	
18 782	ガラス玉	破片	玄室中	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。	
19 783	ガラス玉	破片	玄室中	コバルトグリーン。気泡の観察が不可能なため製作方法不明。鉛ガラス。	

11号墳出土埴輪観察表 (第220～224区・図版127～130)

番号	器種	法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (ノ2cm)	器形成・整形の特徴	備考
1 1190	円筒 胎土No17	高 (22.4) 底 13.0	テラス 埴輪列	①礫・細砂を含む ②還元焼・良好 ③洗黄緑10YR8/3	外面 11 内面 11	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜の刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り擦合。植物圧痕。	
2 1191	円筒 胎土No18	高 (21.6) 底 15.9	テラス 埴輪列	①細砂を含む ②還元焼・良好 ③洗黄緑5YR6/6	外面 12 内面 12	外面 刷毛が著しい。縦刷毛。 内面 左上がり斜の刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り擦合。植物圧痕。	
3 1192	円筒 胎土No19	高 (17.2) 底 13.9	テラス 埴輪列	①礫・細砂を含む ②還元焼・良好 ③洗黄緑10YR8/4	外面 13 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜の刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り擦合。植物圧痕。	
4 1193	円筒 胎土No19	高 (20.0) 底 16.5	テラス 埴輪列	①細砂を含む ②還元焼・良好 ③洗黄緑5YR7/4	外面 16 内面 12	外面 刷毛が著しい。縦刷毛。 内面 左上がり斜の刷毛後に縦方向指ナデ。 底面 右回り擦合。植物圧痕。	

5	円筒	高 底	(15.6) 16.4	テラス 増輪列 №5	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標5YR6/6	外面 内面	15 14	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
6	円筒	高 底	(19.2) 16.0	テラス 増輪列 №6	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③改良標7.5YR8/6	外面 内面	13 12	外面 内面	刷毛が著しい。縦刷毛。 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
7	円筒	高 底	(22.4) 15.9	テラス 増輪列 №7	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標5YR6/6	外面 内面	12 14	外面 内面	縦刷毛。内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
8	円筒	高 底	(20.0) 15.9	テラス 増輪列 №8	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標5YR6/6	外面 内面	15 15	外面 内面	刷毛が著しい。縦刷毛。 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
9	円筒	高 底	(21.6) 16.4	テラス 増輪列 №9	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標5YR7/6	外面	13	外面	刷毛が著しい。縦刷毛。 内面 縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
10	円筒	高 底	(21.2) 15.5	テラス 増輪列 №10	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標5YR7/6	外面 内面	14 13	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
11	円筒	高 底	(22.0) 16.2	テラス 増輪列 №11	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標7.5YR6/6	外面 内面	13 12	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
12	円筒	高 底	(22.8) 15.9	テラス 増輪列 №12	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標5YR6/6	外面 内面	10 11	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
13	円筒	高 底	(22.8) 15.6	テラス 増輪列 №13	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標5YR6/6	外面 内面	13 13	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
14	円筒	高 底	(16.8) 15.6	テラス 増輪列 №14	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標7.5YR7/6	外面 内面	13 12	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
15	円筒	高 底	(15.6) 15.9	テラス 増輪列 №15	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③改良標5YR8/4	外面 内面	14 13	外面 内面	刷毛が著しい。縦刷毛。 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
16	円筒	高 底	(17.6) 15.0	テラス 増輪列 №16	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③改良標10YR8/4	外面 内面	13 11	外面 内面	縦刷毛。 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
17	円筒	高 底	(20.4) (13.2)	テラス 増輪列 №17	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③純黄標10YR7/3	外面 内面	12 8	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
18	円筒	高 底	(20.8) 13.6	テラス 増輪列 №18	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③改良標10YR8/3	外面 内面	11	外面 内面	縦刷毛。 縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
19	円筒 粘土№20	高 底	(20.0) 14.7	テラス 増輪列 №19	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③純黄標10YR7/4	外面 内面	12 13	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
20	円筒	高 底	(19.2) 14.4	テラス 増輪列 №20	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標7.5YR7/6	外面 内面	14 13	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。植物圧痕。
21	円筒 粘土№21	高 底	(22.8) 14.7	テラス 増輪列 №21	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標7.5YR7/6	外面 内面	8 7	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
22	円筒	高 底	(26.0) 16.8	テラス 増輪列 №22	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③改良標10YR8/4	外面 内面	14 11	外面 内面	縦刷毛。 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。粘土幅5.5cm。植物圧痕。
23	円筒	高 底	(20.0) 15.8	テラス 増輪列 №23	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標7.5YR7/6	外面 内面	13 12	外面 内面	縦刷毛。 左上がり斜め刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。
24	円筒	高 底	(16.0) 15.2	テラス 増輪列 №24	①細砂を含む ②酸化塩・良好 ③標7.5YR7/6	外面	13	外面	刷毛が著しい。縦刷毛。 内面 刷毛が著しい。縦方向指ナズ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。

25	円筒	高 (24.8) 底 16.0	テラス 埴輪列 №25	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③洗黄橙7.5YR7/8	外面 16 内面	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 右回り整合。植物圧痕。	
26	円筒	高 (26.8) 底 16.0	テラス 埴輪列 №26	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③洗黄橙7.5YR8/6	外面 14 内面 12	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。左上がり斜め刷毛。 底面 右回り整合。植物圧痕。	
27	円筒	高 (26.0) 底 15.8	テラス 埴輪列 №27	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 13 内面	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 右回り整合。植物圧痕。	
28	円筒	高 (21.6) 底 15.9	テラス 埴輪列 №28	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 16 内面	外面 剥離が著しい。縦刷毛。 内面 剥離が著しい。縦方向指ナデ。 底面 右回り整合。植物圧痕。	
29	円筒	高 55.0 口 38.3 底 23.5	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙10YR8/3	外面 7 内面 8	外面 縦刷毛。2・3段目に円形透孔。口縁部赤色塗彩。内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 右回り整合。粘土板2枚使用か？植物圧痕。	
30	円筒	高 (26.0) 底 17.2	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙7.5YR8/4	外面 13 内面 11	外面 縦刷毛。3段目に透孔。 内面 丁字方向指ナデナデ。 底面 整合方向不明。植物圧痕。	
31	朝顔	高 (10.0)	周堀覆土中	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙7.5YR8/3	外面 7 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛。	
32	朝顔	高 (27.8)	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙10YR7/4	外面 12 内面 9	外面 縦～左上がり斜め刷毛。 縦長の円形透孔 (6.5×5.5) 内面 左上がり斜め刷毛後に強い縦方向指ナデ。	
33	朝顔	高 (29.5)	南西部周堀	①礫・細砂を含む ②酸化焰・硬質 ③洗黄橙10YR7/3	外面 6 内面 6	外面 縦～左上がり斜め刷毛。 横長の円形透孔 (6.5×5.2)。肩～頂部に赤色塗彩。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	

11号墳出土遺物観察表 (第225回・図版150)

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装飾の特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	口 19.0	南東部周堀 №41	①緻密 ②還元焰・やや軟質 ③灰黄2.5Y7/2	右回転クロコ整形。	9号墳の遺物の可能性が高い
2	土師器 高坏	口 18.4	南東部周堀	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③にぶ・赤褐2.5YR5/4	外面 丁寧なナデ。 内面 放射状増文。	27号住の遺物の可能性が高い
3	土師器 高坏	小破片	南東部周堀	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③赤褐10Y4/3	外面 体部下半手持り覆削り。 内面 丁寧なナデ。	27号住の遺物の可能性が高い
4	土師器 高坏		南東部周堀	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	脚部内面に接合時のナデ付り痕跡が明確に残る。	27号住の遺物の可能性が高い
5	土師器 甕	口 16.7	南東部周堀	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③にぶ・赤2.5YR5/4	外面 手持り覆削り。口縁部横ナデ。 内面 体部上半貫ナデ。口縁部横ナデ。	27号住の遺物の可能性が高い
6	須恵器 甕	口 20.3	南東部周堀 №23・31・ 32・36	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリャーブル5Y6/1	外面 平行叩き。口唇部に列点刺突。 内面 青黄波文。	9号墳の遺物の可能性が高い
7	須恵器 羽釜	口 21.4	周堀覆土中	①砂粒を多く含む ②還元焰・やや軟質 ③灰オリャーブル5Y6/2	右回転クロコ整形。体部下半縦方向覆削り。	

12号墳出土埴輪観察表 (第225回)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (\angle 2cm)	器形・成形・装飾の特徴	備考
1	円筒	高 (10.4) 底 20.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	外面 14 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 整合方向不明。植物圧痕。	
2	円筒	高 (19.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③洗黄橙7.5YR7/4	外面 12 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	

3	円筒	高 (26.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	外面 11 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	
4	朝顔	高 (7.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	外面 15	外面 縦刷毛。 内面 横方向指ナデ。	
5	円筒	高 (12.7)	古堀周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼5YR7/6	外面 12 内面 14	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向指ナデ。	

12号墳出土埴輪観察表 (第236図・図版130～132)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (\angle /2cm)	器形・成形・装飾の特徴	備考
1 1223	形象 馬	高 (7.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼7.5YR7/4		左頬。口の切り込みと径12mmの鼻孔が認められる。 鼻面までふさいぐタイプ。	
2 1224	形象 馬	高 (8.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼7.5YR7/4		右回転クランク整形痕。口の切り込みが認められる。 鼻面をふさいだ粘土の刺刺痕が有る。	
3 1225	形象 馬	高 (11.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6	外面 12	人物の右頬。口の切り込みが僅かに残りに残り、赤色塗彩が認められる。	
4 1226	形象 馬	高 (7.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼7.5YR7/4		頬。鼻縁板と引手の表現が認められるが、左右不明。	
5 1227	形象 馬	高 (10.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6		左頬。轡の引手の端部と鬮鬚の辻金具の表現が認められる。赤色塗彩が残る。	
6 1228	形象 馬	高 (7.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6		左頬。轡の引手の端部の表現が認められる。赤色塗彩が残る。	
7 1229	形象	高 (4.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6		立髪。	
8 1230	形象	高 (5.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡黄焼7.5YR8/4		立髪。	
9 1231	形象	高 (8.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡黄焼7.5YR8/4		立髪。	
10 1232	形象 胎土№80	高 (30.0)	東南部周堀	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼5YR7/4		胸鎖と2個の馬蹄及び右足の付け根の一部の表現が認められる。赤色塗彩が残る。	
11 1233	形象	高 (20.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼7.5YR7/4		右腰筋。鞍と舌葉の表現が認められる。赤色塗彩が残る。	
12 1234	形象	高 (15.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR6/6		左腰筋。鞍と三鈴舌葉の表現が認められる。	
13 1235	形象 胎土№23	高 (20.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼7.5YR7/4		腹面。左右の足の付け根及び性器の表現が認められる。	
14 1236	形象	高 (15.5)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼7.5YR7/4		顔面付近の破片と考えられる。	
15 1237	形象	高 (4.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明黄焼		不明。	
16 1238	形象	高 (5.0)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③純焼7.5YR7/4		不明。	

17 1239	形象	高 (6.6)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄槽7.5YR8/6		尾。筒状の粘土を絞り込んでいる。	
18 1240	形象	高 (9.1)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6		尾。筒状の粘土を絞り込んでいる。	
19 1241	形象	高 (8.3)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄橙7.5YR6/4		輪戴。左右不明。	
20 1242	形象	高 (7.8)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR6/6		辻金具。部分不明。赤色塗彩が残る。	

12号墳出土埴輪観察表 (第237回・図版132・133)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	断面目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1243	形象 人物	高 (9.0)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6		顔。性別不明。鼻と両目及び口の表現の一部が認められる。赤色塗彩が残る。鼻孔は認められない。	
2 1244	形象 人物	高 (7.0)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6		顔。赤色塗彩が残る。	
3 1245	形象 人物	高 (9.9)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄槽7.5YR3/4		顔。鼻と両目の表現の一部が残る。鼻孔は認められない。	
4 1246	形象 人物	高 (5.4)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄槽10YR8/3		女性像の胸部破片。	
5 1247	形象 人物	高 (4.7)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄槽10YR8/4		耳。穿孔した周縁に粘土紐を貼付けて耳垂を表現している。左右不明。	
6 1248	形象 人物	高 (5.4)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄橙7.5YR6/4		上げ髷。左右不明。	
7 1249	形象 人物	高 (12.6)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6		下げ髷。右側か？。	
8 1250	形象 人物	高 (9.4)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄橙7.5YR7/4		左腕。手首に2個の鈴の表現が残る。姿態不明。	
9 1251	形象 人物	高 (8.6)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄槽10YR7/3		左腕。姿態不明。	
10 1252	形象 人物	高 (7.6)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③黄橙7.5YR7/4		左腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。11と対の可能性有り	
11 1253	形象 人物	高 (16.0)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好③洗黄槽10YR7/4		右腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。	10と対の可能性有り
12 1254	形象 人物	高 (9.7)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄2.5YR8/3		右腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。	13と対の可能性有り
13 1255	形象 人物	高 (10.9)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄槽10YR7/4		左腕。胸の付近に掌を置くと考えられる。	12と対の可能性有り
14 1256	形象 人物	高 (4.1)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③洗黄槽10YR7/4		右掌。	
15 1257	形象 人物	高 (5.0)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6		胸の付け根部分。左右不明。	

16	形象人物	高 (4.0)	周部覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③珪質燧10YR7/6		鏡の付け根部分。右鏡の可能性が高い。	
17	形象人物	高 (10.3)	周部覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③珪質燧10YR7/4	外面 18	弥生像の腰部の可能性が考えられるが、詳細不明。	

12号墳出土埴輪観察表 (第238図・図版133)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	刷毛目 (≤ 2 cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1	形象家	高 (12.2)	周部覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③斜摺7.5YR7/4		切妻屋根の棟部の破片。赤色塗彩が残る。	
2	形象家	高 (4.5)	周部覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③斜摺7.5YR7/4		榫木。	
3	形象不明	高 (8.3)	周部覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③浅黄燧10YR8/4		不明。	

12号墳出土遺物観察表 (第239～242図、図版160～165)

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形・成形・整形の特徴	備考
1	鉄鏡	49.5×25 重さ 4.9	玄室中	無茎五角形鏡。	
2	鉄鏡	22.5×22 重さ 3.1	玄室中 No.56	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。	
3	鉄鏡	33×23.5 重さ 3.9	玄室中 No.28	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。	
4	鉄鏡	34.5×17 重さ 1.1	玄室中 No.10	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。	
5	鉄鏡	32×21.5 重さ 2.0	玄室中 No.45	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。	
6	鉄鏡	25.5×18.5 重さ 1.7	玄室中 No.40	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。	
7	鉄鏡	38.5×22.5 重さ 3.0	玄室中 No.38	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。重快りの逆刺。	
8	鉄鏡	38.5×22.5 重さ 4.7	玄室中 No.33	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。重快りの逆刺。	
9	鉄鏡	33×26 重さ 3.6	玄室中 No.3	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。重快りの逆刺。	
10	鉄鏡	24×21 重さ 1.9	玄室中 No.22	無茎五角形鏡。重快りの逆刺。	
11	鉄鏡	26×23.5 重さ 2.3	玄室中	無茎五角形鏡。重快りの逆刺。	
12	鉄鏡	19.5×22 重さ 1.4	玄室中 No.32	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。	
13	鉄鏡	35.5×21.5 重さ 2.9	玄室中	無茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。重快りの逆刺。	
14	鉄鏡	25.5×13 重さ 1.3	玄室中 No.34	無茎五角形鏡。	
15	鉄鏡	19.5×19 重さ 1.2	玄室中	無茎五角形鏡。	
16	鉄鏡	35×25.5 重さ 4.6	玄室中	短茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。重快りの逆刺。	
17	鉄鏡	38×25 重さ 5.1	玄室中 No.4	短茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。重快りの逆刺。	
18	鉄鏡	31×19.5 重さ 1.6	玄室中	短茎五角形鏡。鏡身の中央部に穿孔。重快りの逆刺。	
19	鉄鏡	22.5×33.5 重さ 2.5	玄室中	短茎五角形鏡。重快りの逆刺。	

20 803	鉄鏃	30×34.5 重さ 1.7	玄室中 №29	短茎五角形鏃。重快りの逆刺。	
21 804	鉄鏃	35.5×19.5 重さ 1.95	玄室中 №9	短茎五角形鏃。重快りの逆刺。	
22 805	鉄鏃	84×12	玄室中 №5	片丸造柳葉形長頭鏃。鏃部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
23 806	鉄鏃	57×10	玄室中 M-8	片丸造柳葉形長頭鏃。鏃部に独立した逆刺を持つ。	
24 807	鉄鏃	43×8.5	玄室中 №39	片丸造柳葉形長頭鏃。	
25 808	鉄鏃	52×13.5	玄室中	長頭鏃。鏃部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
26 809	鉄鏃	68×13	玄室中 №17・50	長頭鏃。鏃部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
27 810	鉄鏃	65×13	玄室中 №57	長頭鏃。鏃部に独立した逆刺を持ち、区部に口巻金具が認められる。	
28 811	鉄鏃	34×12	玄室中	長頭鏃。区部に口巻金具が認められる。	
29 812	鉄鏃	48.5×11	玄室中 №14	長頭鏃。区部に口巻金具が認められる。	
30 813	鉄鏃	107×9	玄室中	片丸造長頭鏃。鏃身部・と茎の端部欠損。台形区。	
31 814	鉄鏃	69×7	玄室中 №2	長頭鏃。台形区。	
32 815	鉄鏃	46.5×9	玄室中	長頭鏃。台形区。欠柄の痕跡が認められる。	
33 816	鉄鏃	25×8	玄室中 №15	片丸造三角形長頭鏃。鏃部以下欠損。	
34 817	鉄鏃	18.5×8	玄室中	片丸造三角形長頭鏃。鏃部以下欠損。	
35 818	鉄鏃	22×9.5	玄室中 №51	片丸造柳葉形長頭鏃。鏃部以下欠損。	
36 819	鉄鏃	21×8.5	玄室中 №49	片丸造柳葉形長頭鏃。鏃部以下欠損。	
37 820	鉄鏃	22×9	玄室中	片丸造柳葉形長頭鏃。鏃部以下欠損。	
38 821	鉄鏃	22×7.5	玄室中	片丸造片方長頭鏃。鏃部以下欠損。	
39 822	鉄鏃	15×11	玄室中	刀子の柄口金具と考えられる。	
40 823	鉄箭	長さ 27	玄室中	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれている。	
41 824	鉄箭	長さ 29	玄室中	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれている。	
1 825	鉄箭	76×12	前室中 M-6 M-29	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を嵌装して径4mmの鉄製円頭鏃が密に打たれている。長さ約9mmの鏃の胴には木質が残る。鏃の嵌装に使用された可能性が有る。	形状は種々 であるが検 出された破 片の総延長 は98.35cm
2 826	鉄箭	77.5×10	前室中 M-23	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を嵌装して径4mmの鉄製円頭鏃が密に打たれている。長さ約9mmの鏃の胴には木質が残る。鏃の嵌装に使用された可能性が有る。	
3 827	鉄箭	6.5×74	前室中 M-6 M-29	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を嵌装して径4mmの鉄製円頭鏃が密に打たれている。長さ約9mmの鏃の胴には木質が残る。鏃の嵌装に使用された可能性が有る。	
4 828	鉄箭	21×40	前室中 M-19	幅5.5mm・厚さ1.5mmの鉄帯に、頭部を嵌装して径4mmの鉄製円頭鏃が密に打たれている。長さ約9mmの鏃の胴には木質が残る。鏃の嵌装に使用された可能性が有る。	
5 829	鉄箭	19×27	前室中 M-6 M-29	16～23mmの鋼管を穿けた鉄板を両端の鋼で連結している。鏃には木質が付着しているが、用途不明。	
6 830	鉄箭	21×40	前室中 M-19	小型の鏃。	
7 831	鉄箭 馬具	41×62.5	前室中 M-30	鏃。端部欠損。一本の材を中央から折り曲げ、端部を丁字形に開いて刺金と軸とを作り、鎌金の間に挟み込んでいる。	
8 832	鉄箭 馬具	66.5×40	前室中 M-9	鏃。端部を折り曲げて鏃に固定したと考えられる。	
9 833	鉄箭	44.5×64.5	前室中 №28	鉄具。鎌金の間に挟み込んだ鏃に軸を挿めて刺金としている。	

10	鉄器	29×47.5	前室中 M-3	鉄具。環状の鎌金の一辺に鉄棒を編めて新金としている。	
11	鉄器		前室中	鉄具。環状の鎌金の一辺に鉄棒を編めて新金としている。	
835					
12	鉄器	17.5×28.5	前室中 M-25	貴金具。断面甲丸形の鉄棒の上面に罫目が刻まれており、鋸の薄板が嵌せられている。2個が並行していることから、使用時にも二重にして用いた。	
13	鉄器	26×14	前室中 №12	貴金具。断面甲丸形の鉄棒の上面に罫目が刻まれており、鋸の薄板が嵌せられている。	14とセット で使用か？
837					13とセット
14	鉄器	26×6	前室中 №12	貴金具。断面甲丸形の鉄棒の上面に罫目が刻まれており、鋸の薄板が嵌せられてい	
838					
15	鉄器	32×27.5	前室中 M-8	不明。裏面に2本の鉄の痕が残る。	
839					
16	鉄器	14.5×24.5	前室中 M-22	爪形鋸り金具。鉄地金剛張。径5mmの縦横門鎖鋼2個で留める。	
840					
17	鉄器	16×24	前室中 M-26	爪形鋸り金具。鉄地金剛張。径5mmの縦横門鎖鋼2個で留める。	
841					
18	鉄器	19×30.5	前室中	縦座金具。心臓形の下部に円鎖鋼3個と2個の穿孔の一部が認められる。	
842					
19	馬具	16×14.5	前室中 M-13	爪形鋸り金具。鉄地金剛張。径5mmの縦横門鎖鋼で留める。左上隅の面取りが大きく、やや不整形。	
843					
20	鉄器	18×19.5	前室中 M-27	鉄地金剛張。花形の鋸り金具。中央に鋼の痕が残る。	
844					
21	鉄器	22×20.5	前室中	不明。周縁部欠損。1本の鉄痕が残る。	
845					
22	金銅製品	26×15	前室中	旧態は筒状を呈していたと思われるが、潰れており、用途不明。	
846					
23	鉄器	62×62	前室中 M-21	無脚半球形青銅。鉄地に金銅板を嵌せ、鋸を嵌せた8個の花形鎖で留めて、列点文を施している。中央に二重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
847					
24	鉄器	59×59	前室中 M-2	無脚半球形青銅。鉄地に金銅板を嵌せ、鋸を嵌せた8個の花形鎖で留めて、列点文を施している。中央に二重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
848					
25	鉄器	61×59.5	前室中 M-11	無脚半球形青銅。鉄地に金銅板を嵌せ、鋸を嵌せた8個の花形鎖で留めて、列点文を施している。中央に二重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
849					
26	鉄器	108.5×110	前室中 M-14	無脚半球形青銅。鉄地に金銅板を嵌せ、鋸を嵌せた8個の花形鎖で留めて、列点文を施している。中央に一重の6葉文を刻み、周縁部に列点波状文を巡らしている。	
850					
27	鉄器		前室中	木製巻籠は欠けているが、鉄具と10連の兵庫巻からなる巻籠。兵庫巻の中間にC字形の金具を入れる。	
851					
28	鉄器	44.5×106.5	前室中 №1	籠に行く鉄具と兵庫巻。鉄具は鎌金の間に通した輪に銅金を編めている。	
852					
29	鉄器	137×37	前室中 M-1 M-4	木製巻籠の飾り金具か、内側から文様を打ち出している。	
853					
30	鉄器	115.5×17.5	前室中	木製巻籠。先端が細くなり3本の鎖が残る。	
854					
31	鉄器	19.5×144.5	前室中 №8	木製巻籠。先端が細くなり3本の鎖が残る。	
855					
32	鉄器		前室中	角状兵庫鎖立開素障懸板付巻。長さ約181mmの二連巻の先端に径74.2～77.1mmの鉄板を取り付け、別造の引手巻を持った引手と兵庫鎖の立開を付ける。左側が長い。	全体的に右側がやや大
856					

12号墳出土遺物観察表 (第243～245図、図版151・152)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①土質 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1	須恵器 坏蓋	口 15.0 高 4.3	副室 №36	①黒色黏土物を含む ②還元焰・硬質 ③オリブBR2.5GY6/1	右回転クワロ整形。天井部回転軸周リ。 内面 回転によるナデ。	2とセット をなす
2	須恵器 坏身	口 13.0 高 5.4	副室 №3	①黒色黏土物を含む ②還元焰・硬質 ③オリブBR2.5GY6/1	右回転クワロ整形。底部回転軸周リ。 内面 回転によるナデ。	1とセット をなす

3	須磨器 坏蓋	口 14.8 高 4.4	須室 №31	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	4とセット をなす
4	須磨器 坏身	口 12.8 高 5.2	須室 №12	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	3とセット をなす
5	須磨器 坏蓋	口 12.0 高 4.3	須室 №37	①緻密 ②還元焰・硬質 ③明オリブ灰	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。 薄緑色の釉が掛かる。	6とセット をなす
6	須磨器 坏身	口 10.7 高 4.7	須室 №29	①緻密 ②還元焰・硬質 ③明オリブ灰 2.5GY7/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。 薄緑色の釉が掛かる。他のものは緑灰釉だが、5と共に釉 毛塗り状である。	5とセット をなす
7	須磨器 坏蓋	口 14.0 高 3.7	須室 №34	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰NS/	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	8とセット をなす
8	須磨器 坏身	口 12.0 高 4.7	須室 №11	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰NS/	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	7とセット をなす
9	須磨器 坏蓋	口 13.8 高 4.3	須室 №27	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	10とセット をなす
10	須磨器 坏身	口 11.8 高 4.7	須室 №. 6	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY6/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	9とセット をなす
11	須磨器 坏蓋	口 13.8 高 4.0	須室 №28	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	12とセット をなす
12	須磨器 坏身	口 12.3 高 5.2	須室 №14	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	11とセット をなす
13	須磨器 坏蓋	口 13.8 高 4.5	須室 №30	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY6/1	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	14とセット をなす
14	須磨器 坏身	口 12.1 高 4.7	須室 №. 4	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY6/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	13とセット をなす
15	須磨器 坏蓋	口 14.0 高 4.8	須室 №17	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリブ灰N6/1	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	16とセット をなす
16	須磨器 坏身	口 11.6 高 4.7	須室 №2.	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリブ灰N6/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	15とセット をなす
17	須磨器 坏蓋	口 14.3 高 4.7	須室 №33	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	18とセット をなす
18	須磨器 坏身	口 12.3 高 5.1	須室 №. 13	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰10GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	17とセット をなす
19	須磨器 坏蓋	口 14.3 高 5.3	須室 №. 18	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY5/1	右回転ロクロ整形。天井部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	20とセット をなす
20	須磨器 坏身	口 12.1 高 5.0	須室 №1	①黒色鉱物粒を含む ②還元焰・硬質 ③緑灰7.5GY5/1	右回転ロクロ整形。底部回転覆削り。 内面 回転によるナデ。	19とセット をなす
21	須磨器 鉢	口 13.6 高 14.1	須室 №38	①緻密 ②還元焰・硬質 ③灰N4/	右回転ロクロ整形。体部下半手持ち覆削り。体部の孔の周 圍は平である。体部と口縁部に細かな鑿文状文を施す。	
22	土師器 高坏	口 12.0 底 9.0 高 13.0	須室 №20	①緻密 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	脚部に三角形透孔を3方向に穿つ。 外面 体部・脚部は丁寧なナデ。口縁部滑ナデ。 内面 丁寧なナデ。	

23	土師器 高坏	口 底 高	12.5 9.0 12.9	厨室 №26	①織文 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	脚部に三角形透孔を3方向に穿つ。 外面 体部・脚部は丁寧な寛ナデ。口縁部横ナデ。 内面 丁寧なナデ。
24	土師器 高坏	口 底 高	12.0 9.1 12.9	厨室 №39	①織文 ②酸化焰・良好 ③赤い帯5YR6/6	脚部に三角形透孔を3方向に穿つ。外面 体部・脚部は丁寧な寛ナデ。口縁部横ナデ。 内面 丁寧なナデ。
25	土師器 直口壺	口 底 高	10.2 17.1	厨室 №24	①織文 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YR3/3	外面 体部下半手持り寛削り。体部上半〜胴部丁寧な寛ナデ。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。
26	土師器 直口壺	口 底 高	12.9 19.6	厨室 №23	①織文 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	外面 体部手持り寛削り。口縁部丁寧な寛ナデ。口唇部は強い横ナデ。 内面 ナデ。底面に篋の痕跡が残る。

12号墳出土遺物観察表 (第243〜245回、図版151・152)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 670	土師器 高坏	底 9.0	東側周溝中	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③赤い帯5YR6/4	外面 丁寧な寛ナデ。 内面 脚部も丁寧にナデている。	
2 671	土師器 壺	口 底 高	東側周溝中	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③赤い帯7.5YR6/3	外面 底部・体部縦方向の手持り寛削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。口縁部横ナデ。	

14号墳出土遺物観察表 (第251回、図版153)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	備考
1 672	須恵器 提瓶	口 8.0	前庭右側石 組み付近	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗緑沢10G4/1	右回転口コロ整形。口縁部1条の沈線を描す。沈線より、 降伏輪が掛かる。	
2 673	土師器 壺	底 5.5	南堀覆土中	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③明赤褐色5YR5/6	外面 底部・体部手持り寛削り。口縁部横ナデ。 内面 ナデ。	
3 674	須恵器 壺	口 40.4	南堀覆土中	①黒色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗緑沢10G4/1	胴部縮強帯を持つ。2条の沈線で区画し、7〜8条1単位 の櫛状沈文を描す。口唇部は強い横ナデ。 沈線より、降伏輪が掛かる。	
4 675	須恵器 壺	口 31.0	南堀覆土中	①黒色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③暗緑沢10G4/1	胴部縮強帯を持つ。1条の沈線で区画し、8条1単位 の櫛状沈文を描す。胴部に縦方向の櫛目が残る。口唇部は 強い横ナデ。沈線より、降伏輪が掛かる。	

14号墳出土遺物観察表 (第252・253回、図版166・167)

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形・整形の特徴	備考
1 857	鉄鏡	53.5×24.5 重さ 5.6	玄室中 No.4	無茎長三角形鏡。鏡身の中央部に穿孔が認められる。矢柄の痕跡が残る。	
2 858	鉄鏡	40×29 重さ 7.2	玄室中	無茎長三角形鏡。鏡身の中央部に穿孔が認められる。	
3 859	鉄鏡	長さ 52	玄室中	平造長三角形短頸鏡。鏡身端部欠損。	
4 860	鉄鏡	長さ 31	玄室中	長頸鏡。轆轤区。鏡身部・茎端部欠損。	
5 861	鉄鏡	長さ 53	玄室中	長頸鏡。轆轤区。鏡身部・茎端部欠損。	
6 862	鉄鏡	長さ 90	供進部	長頸鏡。轆轤区。鏡身部欠損。茎端部欠損。	
7 863	鉄鏡	長さ 26	玄室中 No.66	長頸鏡。鏡身部欠損。無区。鏡身幅7.5mm。	
8 864	鉄鏡	長さ 15	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏡。鏡身部下欠損。	
9 865	鉄鏡	長さ 27	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏡。浅い逆刺。鏡身12×20.5mm。	
10 866	鉄鏡	長さ 40	玄室中	片丸造柳葉形長頸鏡。無区。鏡身11×19mm。	

11 867	鉄線	長さ 36	玄室中 No 9	両丸造柳葉形長頭線。線身端部欠損。
12 868	鉄線	長さ 32	玄室中	片丸造柳葉形長頭線。線身の刺離が著しい。
13 869	鉄線	長さ 72	玄室中	片丸造柳葉形長頭線。無区。線身幅9.0mm。
14 870	鉄線	長さ 55	玄室中	片丸造柳葉形長頭線。無区。線身幅8.5mm。
15 871	鉄線	長さ 56	玄室中	片丸造柳葉形長頭線。線身部の刺離が著しい。
16 872	鉄線	長さ 41	玄室中	片丸造柳葉形長頭線。線身先端・線部下欠損。
17 873	鉄線	長さ 69	玄室中 No8	長頭線。線身の刺離が著しい。
18 874	鉄線	長さ 40	玄室中	長頭線。線身部・基端部欠損。
19 875	鉄線	長さ 36	玄室中 No47	長頭線。台形区。線身部・基端部欠損。
20 876	鉄器	長さ 30	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。
21 877	鉄器	長さ 35	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。管は殆ど残っていない。
22 878	鉄器	長さ 26	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。軸の一端欠損。
23 879	鉄器	長さ 26	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。管は殆ど残っていない。
24 880	鉄器	長さ 30	玄室中 No20	飾り弓金具。両端が球状になった軸が管に差し込まれており、管の両端は花卉状に切り開かれている。軸の一端欠損。
25 881	鉄器 刀装具		玄室中 No46	長さ15.5cmで、径30×37mmの筒筒形を呈する。端と考えられる。
26 882	鉄器 刀装具		玄室中 No74	鞘装具。径24×33mmの楕円形の円盤に、長さ11mmの釦目釘が2本付く。
27 883	鉄器 刀装具		玄室中 No12	鍔。厚さ5mmで、径38×45mmの楕円形を呈する。側面に銀象嵌が認められるが、意匠は不明。
28 884	耳環	27×30 重さ 22.3	玄室中 No61	径7mmの銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程の切れ目を持つ袂状に曲げたもの。
29 885	耳環	20×22 重さ 10.1	玄室中 No14	径4×7.5mmの楕円形の銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、1.5mm程の切れ目を持つ袂状に曲げたもの。
30 886	馬具	120×140	玄室中 No15・19	有脚半球形鍔珠。鉄地金銅鍔。周縁部に3本の沈線が認められ、楕円形を呈すると考えられる。頂部に花卉文が認められるが全体の意匠は不明。
31 887	馬具	75×55	玄室中 No 5	有脚半球形鍔珠。鉄地金銅鍔。周縁部に3本の沈線が認められ、楕円形を呈すると考えられる。頂部に花卉文が認められるが全体の意匠は不明。4脚か？
32 888	馬具	25×26	玄室中 No 3	有脚半球形鍔珠。鉄地金銅鍔。楕円形を呈すると考えられる。
33 889	馬具	80×80	玄室中 No23	九曜文花形杏葉。鉄地金銅鍔。径6.5mmの金被り頭版で留めているが、錆化のために厚き上がって下地と金銅鍔がずれている。
34 890	馬具	22×32	玄室中 No 2	爪形飾り金具。鉄地金銅鍔。径7.5mm・長さ11mm程の金被り頭版2個。
35 891	紡錘玉	79×9 重さ 0.804	玄室中 No13	アイボリー。水晶製。片側穿孔。
36 892	ガラス玉	11.1×10 重さ 1.73	玄室中 No13	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
37 893	ガラス玉	9.7×8.6 重さ 1.138	玄室中 No 94	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
38 894	ガラス玉	9×6.2 重さ 0.753	玄室中 No13	ブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
39 895	ガラス玉	8.2×5.4 重さ 0.575	玄室中 No13	ウルトラマリン。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
40 896	ガラス玉	8.1×7.2 重さ 0.881	玄室中 No77	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
41 897	ガラス玉	8.2×5.6 重さ 0.610	玄室中 No13	ブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。

42	ガラス玉	8.8×5.2	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
898		重さ 0.547	No97	
43	ガラス玉	8.1×6.2	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
899		重さ 0.644	No83	
44	ガラス玉	8.1×6.2	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
900		重さ 0.580	No85	
45	ガラス玉	8.3×6.1	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
901		重さ 0.654	No13	
46	ガラス玉	8.6×5.8	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
902		重さ 0.568	No88	
47	ガラス玉	8.1×6	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
903		重さ 0.592	No89	
48	ガラス玉	8.3×5.1	玄室中	ウルトラマリン。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
904		重さ 0.55	No41	
49	ガラス玉	8.2×4.8	玄室中	ウルトラマリン。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
905		重さ 0.524	No96	
50	ガラス玉	8.4×4.2	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
906		重さ 0.492	No42	
51	ガラス玉	7.7×5.0	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
907		重さ 0.483	No13	
52	ガラス玉	7.2×7.4	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
908		重さ 0.608	No12	
53	ガラス玉	7.8×6.8	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
909		重さ 0.63	No90	
54	ガラス玉	7.6×6.3	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
910		重さ 0.554	No13	
55	ガラス玉	8.1×5.9	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
911		重さ 0.581	No70	
56	ガラス玉	8.6×5.1	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
912		重さ 0.526	No92	
57	ガラス玉	8×5.1	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
913		重さ 0.509	No102	
58	ガラス玉	7.4×4.8	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
914		重さ 0.401	No93	
59	ガラス玉	6.9×4.8	玄室中	コバルトブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
915		重さ 0.323	No84	
60	ガラス玉	6.5×3.9	玄室中	ブルシャンブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
916		重さ 0.233	No40	
61	ガラス玉	5.5×4.4	玄室中	ピーコックブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
917		重さ 0.201	No91	
62	ガラス玉	4.8×3.5	玄室中	ターコイズブルー。管切法による製作。両断面は加熱・研磨処理され、偏平な形を呈する。
918		重さ 0.122	No39	

15号墳出土遺物観察表 (第257図・図版167)

番号	器種	残存 法量	出土位置	器形成・整形の特徴	備考
1	鉄斧		玄室中		
919	刀状具				径約44×36mm・長さ26mmの倒卵形の鈍の破片と考えられる。開口側の一端が僅かに外側に折り返されている。
2	耳環	29.35×27.40 重さ 24.9	玄室中		径6.5×8.2mmの楕円形の銅線に環状の金の薄板を巻き、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程度の切れ目を持つ袂状に曲げられたもの。
3	鉄刀	長さ 132.0	玄室中		平直小刀。平縁で、横区は直で2mm、径3mmの扁本孔が認められる。茎に柄の木質が僅かに残る。
1356					

17号墳出土埴輪観察表 (第266～268図・図版134～136)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①胎土 ②構成 ③色調	刷毛目 〔/2cm〕	器形成・整形の特徴	備考
1	円筒 胎土No24	高 33.2 口 21.5 底 12.0	テラス 埴輪列 No 2		外面 12 内面 10	外面 縦刷毛。平円透孔(4.0×4.0)。内面 縦～左上がり斜めの刷毛後に縦な縦方向指ナデ。 底面 右回り横合。植物圧痕。	
2	円筒	高 (19.6) 底 13.3	テラス 埴輪列 No 3		外面 9 内面 12	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り横合。植物圧痕。	

3	円筒	高 (13.6) 底 12.0	テラス 増輪列 №4	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/4	外面 10 内面 11	外面 縦刷毛。基部板押入。内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
4	円筒	高 (21.6) 底 13.3	テラス 増輪列 №5	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 12 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
5	円筒	高 (17.2) 底 12.6	テラス 増輪列 №6	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 12 内面 12	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
6	円筒	高 (16.0) 底 14.1	テラス 増輪列 №7	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR7/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
7	円筒	高 (16.4) 底 13.9	テラス 増輪列 №9	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/8	外面 9 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
8	円筒	高 (10.8) 底 12.8	テラス 増輪列 №10	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 7 内面 7	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
9	円筒	高 (18.0) 底 12.6	テラス 増輪列 №13	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/8	外面 9 内面 14	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
10	円筒	高 (21.6) 底 13.6	テラス 増輪列 №14	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/8	外面 8 内面 7	外面 縦刷毛。内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
11	円筒	高 (20.4) 底 13.7	テラス 増輪列 №15	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 8 内面 11	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
12	円筒 粘土№25	高 (29.2) 底 13.5	テラス 増輪列 №16	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 11 内面 9	外面 縦刷毛。粘土板製作時の横刷毛が残る。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
13	円筒	高 (12.4) 底 13.4	テラス 増輪列 №17	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。粘土板製作時の横刷毛が残る。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
14	円筒	高 (18.8) 底 14.1	テラス 増輪列 №18	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 9 内面 12	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
15	円筒	高 (15.2) 底 11.7	テラス 増輪列 №20-1	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増7.5YR6/6	外面 11 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
16	朝顔	高 (25.8)	テラス 増輪列 №11	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。縦長の透孔。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な指ナデ。	胴部に2条の寛記号
17	円筒	高 41.2 口 20.8 底 15.0	石室内	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/8	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (6.1×5.0)。基部調整。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	口縁部に2条の寛記号
18	円筒	高 36.4 口 24.4 底 13.0	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 13 内面 11	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (5.2×5.0)。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
19	円筒 粘土№26	高 36.8 口 20.8 底 12.4	奥遺部	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増2.5YR6/6	外面 12 内面 13	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (5.0×4.6)。基部調整。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	胴部に2条の寛記号
20	朝顔	高 (9.5)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増5YR6/8	外面 11 内面 12	外面 縦刷毛。折り返し口縁。 内面 横方向刷毛。	
21	朝顔	高 (56.0) 底 13.7	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③明赤5YR5/8	外面 10 内面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
22	円筒	高 (22.0) 底 13.9	朝顔	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③増5YR6/6	外面 7 内面 6	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	

23 1348	円筒	高 底	(26.0) 13.5	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR6/8	外面 内面	10 10	外面 縦刷毛。縦長の透孔。基部調整。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
24 1349	形象基部	高 底	(33.6) 15.8	前縁	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③明赤褐7.5YR5/8	外面 内面	13 10	外面 縦刷毛。縦長の透孔。 内面 丁寧な指ナデ。基部調整。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
25 1350	円筒	高 底	(17.2) 14.1	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/6	外面 内面	13 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。粘土板製作時の横割れが残る。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
26 1351	円筒	高 口 底	(26.4) 20.5	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/8	外面 内面	10 10	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (4.2×4.0)。 内面 縦方向刷毛後に丁寧な縦方向指ナデ。	
27 1352	円筒	高 底	33.0 13.3	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/8	外面 内面	10 8	外面 縦刷毛。縦長の透孔 (4.0×4.4)。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
28 1353	円筒	高 底	18.8 14.5	石室内	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③明赤褐5YR5/8	外面 内面	9 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向刷毛。 底面 右回り接合。植物圧痕。	

17号墳出土土輪観察表 (第269回・図版137)

番号	器種	法量	出土位置	①土質 ②構成 ③色調	刷毛目 (≤ 2 cm)	器形・成形・整形の特徴	備考		
1 1282	形象 人物	高	(12.4)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面	12	右腕。	2と対の可能性が高い
2 1283	形象 人物	高	(22.0)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面	12	左腕及び腰部。駒の表現が一部残る。	1と対の可能性が高い
3 1284	形象 人物 髻	高	(10.5)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面	10	左腕の下げ髻。	4と対の可能性が高い
4 1285	形象 人物	高	(7.8)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/8			右腕の下げ髻。	3と対の可能性が高い
5 1286	形象 人物	高	(8.8)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③鈍黄緑10YR7/3			腕。左右・姿勢不明。	
6 1287	形象 人物	高	(4.9)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6			耳。粘土紐で耳朶を表現し、11×2cmの長方形の穿孔及び2箇所の刺突が認められる。	
7 1288	形象 人物	高	(7.0)	石室内	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR6/6	外面	12	衣服の裾部。性別不明。	
8 1289	形象 家	高	(11.0)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6	外面	6	壁材の一部と考えられる。	
9 1290	形象 家	高	(13.1)	周縁覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③鈍橙7.5YR7/4	外面 7	7	壁材の一部と考えられる。	

17号墳出土土遺物観察表 (第270・271回・図版153・154)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①土質 ②構成 ③色調	器形・成形の特徴	備考	
1 676	須恵器 坏蓋	口 底	18.0	前縁部	①白色麻布粒を含む ②還元焙・やや軟質 ③オリーブ灰2.5GY5/1	右回転コクロ型。天井部回転度有り。	
2 677	須恵器 坏	口 底 高	17.4 12.3 4.0	裏面部	①白色麻布粒を含む ②還元焙・硬質 ③オリーブ灰3GY6/1	右回転コクロ型。底面 回転度有り。	
3 678	須恵器 高坏	口 底 高	10.0 10.8 4.5	前縁部 №70	①砂粒を含む ②還元焙・硬質 ③灰白10Y7/1	右回転コクロ型。体部下半回転度有り。体部が2段になる。	

4 679	須恵器 高坏	底	11.8	前庭部 №12・13・ 15-21・24・ 38	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③曜オリーブ灰SGY4/1	右回転クロコ整形。三角形透孔を3方向に穿つ。胴部外面にカキ目調整。焼締まり、降伏軸が掛かる。
5 680	須恵器 高坏	底	10.2	前庭部	①鎌倉 ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/1	右回転クロコ整形。3方向に透孔を穿つ。胴部端部を凸帯状に盛り上げる。
6 681	須恵器 高坏	底	11.0	前庭部 №71	①鎌倉 ②還元焰・硬質 ③曜緑灰10G4/1	右回転クロコ整形。三角形透孔を3方向に穿つ。焼締まり、降伏軸が掛かる。
7 682	須恵器 高坏	底	14.4	前庭部	①砂粒を含む ②還元焰・硬質 ③曜オリーブ灰SGY4/1	3方向に透孔を穿つ。2条の沈線を施す。
8 683 684	土師器 高坏	胴部		胴底部	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③地5YR6/6	3方向に透孔を穿つ。体部と脚部の接合部に隙間がある。
9 685	土師器 壺	胴	16.0	前庭部	①砂粒を含む ②酸化焰・良好 ③ふいご5YR6/4	内外面ともナガ調整。
10 686	須恵器 壺	口縁部破片		前庭部	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③曜緑灰10GY4/1	2条沈線で区画し、6～8条1単位の櫛歯状文を施す。焼締まり、降伏軸が掛かる。
11 687	須恵器 壺	口縁部破片		前庭部	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	2条沈線で区画し、6条1単位の櫛歯状文を施す。焼締まり、降伏軸が掛かる。
12 688	須恵器 壺	口縁部破片		前庭部	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ5Y6/2	9条1単位の櫛歯状文を施す。
13 689	須恵器 壺	口縁部破片		前庭部	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	10条1単位の櫛歯状文を施す。
14 690	須恵器 壺	口縁部破片		前庭部	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③灰オリーブ7.5Y6/2	10条1単位の櫛歯状文を施す。振幅が小さい。
15 691	須恵器 横瓶	口 高	14.1 27.2	前庭部 №1・26・ 50	①白色磁物粒を含む ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	
16 692	須恵器 台付 長頸壺	口 底 高	11.3 11.3 26.8	前庭部 №29・46	①鎌倉 ②還元焰・硬質 ③灰白7.5Y7/2	右回転クロコ整形。体部下半回転割り。肩部に2条の沈線を施す。降伏軸が掛かる。
17 693	須恵器 高坏	口	15.3	テラス盛土	①鎌倉 ②還元焰・硬質 ③オリーブ灰2.5GY6/1	右回転クロコ整形。体部下半回転割り。体部が2段になる。3方向に透孔を穿つ。焼締まり。
18 694	須恵器 高坏	脚部 底		テラス盛土 9.6	①鎌倉 ②還元焰・硬質 ③RN5/	3方向に透孔を穿つ。焼締まり、緑色の降伏軸が厚く掛かる。

17号墳出土遺物観察表(第272頁、図版167・168)

番号	部 種	残 存 法 量	出土位置	器 形 成 ・ 整 形 の 特 徴	備 考
1 921	鉄線	長さ 166 重さ 11.8	玄室中 № 8	長頸線。線身部は欠損しており、基部から折れ曲がっている。	
2 922	鉄線	長さ 71.5	玄室中	長頸線。基部と線状の区のみ残る。基部長63mm。	
3 923	鉄線	長さ 137 重さ 13.3	玄室中 № 4	長頸線。線身部欠損。線状の区を持つ。	
4 924	鉄線	長さ 104 重さ 10.9	玄室中 № 6	長頸線。線身部欠損。台形状の区を持つ。	
5 925	鉄線	長さ 125.5 重さ 5.8	玄室中 № 9	片丸造線形長頸線。基部欠損。	
6 926	鉄線	長さ 161.5 重さ 11.2	玄室中 № 5	長頸線。線身部欠損。	

7 927	鉄線	長さ 69.5 重さ 5.0	玄室中 No.7	片丸造柳葉形長頸飾。基部欠損。	
8 928	鉄線	長さ 68.5 重さ 4.7	玄室中 No.12	長頸飾。基部欠損。	
9 929	鉄線	長さ 34 重さ 1.6	玄室中 No.12	片丸造柳葉形長頸飾。基部欠損。	
10 930	刀子	長さ 166.5	玄室中 No.3	平造。平棟で片幅15mm。僅かに反りが有り、鋒は元張ってフラク結れる。直の棟区が僅かに有り、茎に柄の下地と思われる織物の巻き付けが認められる。	
11 931	刀装具	径 33×46 重さ	玄室中 No.1	柄頭の縁金具。厚さ約0.5mmの金銅板で、倒筒形に成形する。断面形はC字形を呈する。	13とセットになるか?
12 932	鉄器 刀装具	径 27.5×37 重さ	玄室中 No.2	輝縁金具。厚さ2mmの鉄板で、倒筒形に成形する。長さ13mm。	
13 933	刀装具	10×13 重さ 0.83	玄室中 No.1	柄頭の鑿透孔に用いられた埴目金具。厚さ約0.5mmの金銅板で成形する。	11とセットになるか?
14 934	耳環	29.60×26.75 重さ 19.4	玄室中 No.2	径6.5mmの銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程度の切れ目を持つ袂状に曲げたもの。	
15 935	耳環	31.55×28.50 重さ 22.9	玄室中 No.4	径7.8mmの銅棒に筒状の金の薄板を被せ、小口を菊花状に絞って留めた後に、2.5mm程度の切れ目を持つ袂状に曲げたもの。14よりもやや大きい。	

19号墳出土土輪観察表 (第278号・図R137・138)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①土質 ②構成 ③色調	網目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1 1291	円筒	高 (16.4) 底 16.8	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 14	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナズ。 底面 左回り接合。細かい横物圧痕。	
2 1292	円筒	高 (10.4) 底 14.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 丁寧な縦方向指ナズ。 底面 右回り接合。細かい横物圧痕。	
3 1293	円筒	高 (12.1)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③鈍橙5YR7/4	外面 7 内面 8	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛→横方向刷毛。	
4 1294	朝顔	高 (16.3)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙5YR7/6	内面 16	内外共に刷毛が著しい。外面 縦刷毛?。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナズ。	
5 1295	形象 人物 女子顔部	高 (15.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	2本の首筋と耳環の表現が認められる。顔部に赤色塗彩が残る。	
6 1296	形象 人物 顔部?	高 (7.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR6/6		線刻による円と歯歯文が認められる。	
7 1297	形象 人物	高 (11.2)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③鈍橙7.5YR7/4		下げ髷の朝顔痕が認められるので、男子像の右面であると考えられる。顔部及び頬に赤色塗彩が残る。	
8 1298	形象 人物	高 6.0	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6		顔部。目の表現が認められるが左右不明。赤色塗彩が残る。男子像の可能性が高い。	
9 1299	形象 人物	高 (3.7)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR7/6		耳朶と耳飾りの玉1個の表現が認められる。	
10 1300	形象 人物	高 (8.8)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR6/6	外面 14	下げ髷の朝顔痕が認められるので、男子像の可能性が高い。	
11 1301	形象 家	高 (9.4)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③明赤焼5YR5/8	外面 14	壁材の隅部破片。	
12 1302	形象 家	高 (6.6)	周堀覆土中	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③橙7.5YR6/6		壁材の下部破片。	

21号墳出土埴輪観察表 (第283~288図・図版138~144)

番号	器種	法量 (cm)	出土位置	①粘土 ②構成 ③色調	刷毛目 (/2cm)	器形・成形・整形の特徴	備考
1	円筒	高 (14.0) 底 19.5	テラス 埴輪列 No.1	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③赤褐色10YR7/6	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
2	円筒	高 (9.6) 底 21.4	テラス 埴輪列 No.2	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③赤褐色10R6/6	外面 12	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
3	円筒	高 (21.6) 底 17.5	テラス 埴輪列 No.3	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③淡黄褐色10YR8/4	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
4	円筒	高 (21.6) 底 18.8	テラス 埴輪列 No.5	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③淡黄褐色10YR8/4	外面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
5	円筒	底 (19.7)	テラス 埴輪列 No.6	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③黄褐色7.5YR7/4	外面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 接合方向不明。植物圧痕。	
6	円筒 胎土No31	高 (24.4) 底 19.8	テラス 埴輪列 No.7	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③赤褐色7.5YR7/6	外面 11	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
7	円筒	高 (9.6) 底 17.0	テラス 埴輪列 No.8	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③淡赤褐色2.5YR7/4	外面 10	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
8	円筒 胎土No32	高 (16.8) 底 18.1	テラス 埴輪列 No.9	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③淡褐色5YR8/4	外面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 右回り接合。植物圧痕。	
9	円筒	高 (47.6) 底 27.1	テラス 埴輪列 No.10	①細砂を含む ②酸化焙・良好 ③淡赤褐色2.5YR7/4		ナゲ調整 外面 ナゲ調整。黒点が認められる。 内面 輪模み痕を縦方向ナゲで消す。 底面 左回り接合。植物圧痕。	
10	円筒 胎土No29	高 43.2 口 33.4 底 22.2	テラス 埴輪列 No.13	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③淡褐色5YR8/3	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔 (5.0×7.0)。 内面 縦方向指ナゲ。口縁部横方向刷毛。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
11	円筒	高 46.8 口 36.3 底 25.2	テラス 埴輪列 No.14	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③鈍黄褐色10YR8/3	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。2段目にB種横刷毛。2・3段目に 円形透孔 (5.6×6.1)。内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	口唇部に5 個の刻み
12	円筒	高 47.6 口 30.9 底 24.9	テラス 埴輪列 No.16	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③淡褐色5YR8/4	外面 9 内面 10	外面 縦刷毛。基部を除きB種横刷毛。2・3段目 に円形透孔 (7.5×7.7)。内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	口縁部に3 本の寛記号
13	円筒	高 48.4 口 31.8 底 22.7	テラス 埴輪列 No.17	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③鈍黄褐色10YR7/4	外面 8 内面 8	外面 縦刷毛。2・3段目にB種横刷毛。2・3段目 目に円形透孔 (6.9×7.5)。内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板3枚接合。植物圧痕。	口唇部に9 個の刻み
14	円筒	高 46.4 口 31.8 底 21.9	テラス 埴輪列 No.18	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③淡褐色7.5YR7/4	外面 10 内面 14	外面 縦刷毛。2段目にB種横刷毛。2・3段目に 円形透孔 (6.7×7.2)。内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	口唇部に15個 の刻み
15	円筒	高 (28.0) 底 23.8	テラス 埴輪列 No.21	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③鈍褐色5YR7/4	外面 8	外面 縦刷毛。縦長の円形透孔。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
16	円筒 胎土No30	高 47.2 口 34.0 底 23.5	テラス 埴輪列 No.23	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③赤褐色2.5YR7/4	外面 10 内面 8	外面 縦刷毛。2・3段目にB種横刷毛。2・3段目 目に円形透孔 (5.6×6.3)。内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板3枚接合。植物圧痕。	口縁部に5 本の寛記号
17	円筒 胎土No79	高 47.6 口 30.7 底 23.3	テラス 埴輪列 No.24	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③鈍褐色7.5YR7/4	外面 7 内面 8	外面 縦刷毛。基部を除きB種横刷毛。2・3段目 に円形透孔 (7.6×6.1)。内面 横・左上がり斜め刷毛 も。基部縦方向指ナゲ。底面 粘土板2枚接合。	
18	円筒	高 (9.6) 底 26.0	テラス 埴輪列 No.25	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③鈍褐色7.5YR7/4	外面 9	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
19	円筒	高 (15.2) 底 22.4	テラス 埴輪列 No.26	①細砂を多く含む ②酸化焙・良好 ③赤褐色10YR6/8	外面 8	外面 縦刷毛。 内面 縦方向指ナゲ。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	

20 1322	円筒	高 (D0.8) 底 22.1	テラス 地輪判 №27	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍黄緑10YR7/4	外面 10 内面 10	外面 縦刷毛。 内面 横～左上がり斜め刷毛。 底面 粘土板2枚接合。植物圧痕。	
21 1323	朝顔	高 (D0.2)	テラス 地輪判 №4	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③鈍赤橙10R6/4	外面 11 内面 13	外面 縦刷毛。 内面 左上がり斜め刷毛後に縦方向指ナデ。	
22 1324	円筒	高 (D3.6) 口 41.0	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向指ナデ。	
23 1325	円筒	高 (41.5)	墳丘斜面	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。円形透孔(4.0×3.8)。 内面 縦～横方向指ナデ。	
24 1326	円筒	高 48.0 底 30.8	墳丘斜面 №28	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③鈍橙5YR7/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向指ナデ。 底面 右回り輪痕み痕。植物圧痕。	
25 1327	朝顔	高 (D4.6)	墳丘斜面 №20	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向指ナデ。	
26 1328	朝顔	高 (D0.1)	周壁覆土中	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③淡橙5YR8/4	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向指ナデ。	
27 1329	朝顔	高 (D7.2) 底 24.6	墳丘斜面 №28	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	ナデ調整	外面 ナデ調整。 内面 縦～横方向指ナデ。 底面 右回り輪痕み痕。植物圧痕。	

21号墳出土遺物観察表 (第289図、図版154)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装形の特徴	備考
1 695	土師器 鉢	口 31.3 底 8.1 高 23.7	張出部西側 №22	①細砂を多く含む ②酸化焰・良好 ③明褐7.5YR5/6	外面 体部縦方向貫削り。口縁部横ナデ。 内面 底ナデ後にナデ。	
2 696	土師器 甕	底 7.4	張出部東側 №15	①細砂を含む ②酸化焰・良好 ③にぶみ橙7.5YR7/3	外面 体部縦方向貫削り。口縁部横ナデ。 内面 底ナデ。 焼成後に胴部に外側から穿孔。	

22号墳出土遺物観察表 (第290図、図版154・168)

番号	器種	残存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・装形の特徴	備考
1 697	土師器 高杯	口 17.1 底 12.5 高 12.8	覆土中	①砂粒を多く含む ②酸化焰・良好 ③にぶみ赤褐5YR5/4	外面 体部下平手持ち貫削り。黒灰有り。 内面 丁寧なナデ。	
2 936	鉄鏃	長さ 12.2	北西部		先端部が欠損しているが曲刃鏃。基部には、3.5cm幅の刃に対してほぼ直角に着柄のための折り返しが付く。柄の径は2cmと考えられる。	
3 937	鉄押	長さ 8.6	北西部		有袋有鋼鉄押。着柄のための袋部の合わせ目跡は丁寧に作っている。基部は3.3×2.3cmの楕円形形状を呈する。刃部幅5.3cm。	
4 938	鉄刀	長さ 84.5	北朝顔		平造大刀。平棟で、握かに反りを持ち、鋒はフクラ付く。刃区は直で8mm。基部から2/3付近に径3mmの目釘穴。一部に櫛の木質が残る。	

(2) 住 居

17号住居出土遺物観察表 (第284図、図版17)

番号	器 種	残 存 状 態	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文 様	備 考
1 255	葉	口縁部～胴部上 位破片	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は外反弱く立ち上がる。	口縁部は櫛歯状文を充実する。 4段か。胴部には6条1 単位2連止の櫛状文が巡る。 胴部上位には7条1単位の櫛 歯状文が1度施文される。	被熱。
2 257	葉	口縁部～胴部上 位破片	埋没土	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③明赤褐5YR5/6	口縁部は短く、先端は折り返し 口縁。	胴部には9条1単位、間隔の あいた2連止櫛状文を施す。 胴部上位には櫛歯状文が1 段みえる。	
3 256	葉	口縁部～胴部上 位1/4残存 口 11.1 高 (4.2)	中央部 +5 No10	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR5/4	口縁部はくの字状に屈曲、短く 立ち上がる。口縁部は刷毛目後 横溝で、胴部外面は横方向の刷 毛目。		磨減して いる。
4 258	盃か	底部1/2残存 高 (8.2)	北部 +14 No.2	①細砂大の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4	胴部は大きく張るか、外面は置 無で。		灰青残着。
5 259	盃か	底部 高 7.2	南東部 +27 No.11	①粗砂大の白色鉱物 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6			灰青残着。
6 262	葉か	底部1/3残存 高 (5.4)	埋没土	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6			被熱。
7 263	葉	口縁部～胴部上 位 口 (14.2) 高 (9.2)	中央部 +15 No.9	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/3	口縁部はくの字状に屈曲、短く 立ち上がり、先端は外側へつま まれる。口縁部は横溝で、胴部 外面は縦方向に器面調整後、横 方向の刷毛目。		被熱。
8 254	盃	胴部中位～底部 1/3残存 高 (15.5)	2号伊内、西 部 灰底 No.15・16	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい黄橙10YR 7/4	胴部は球形で大きく張る。内外 面とも丁寧な磨削り、見無で。		灰青残着。
9 261	台付甕	胴部下位～台部 上位 高 (5.8)	中央部 灰底 No.7	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 6/4	大きく張る胴部に低い台部が取 り付くと思われる。外面は刷毛 目。胴部内面は見無で。胴部内 面は刷毛目後、指痕による無で。		内面に灰青 残着。
10 260	高杯	杯部下位～胴部 高 (9.1)	中央部 +2.5 No.6	①微大のチャート・ 細砂の輝石 ②酸化焰・良好 ③にぶい橙 7.5YR 7/4	杯部の口縁部分は狭小な器面か ら腹をなして斜め上方に立ち上 がるか。胴部上位は短く柱状 を呈する。徐々に径を増し、下 位は大径の頸部分を有したか。 外面は丁寧な磨き。胴部内面は 見無で。		
11 35	台石	32.8・23.0 9.0	埋没土	船粒安山岩 10079	器面にごくわずかに磨耗が認められる。		
12 36	打製石斧	9.6・4.8 2.6	埋没土	硬質泥岩 150	片面に自然面を残し、2辺に刃をつける。		

21号住居出土土遺物観察表 (第300・301B、図版171)

番号	器種	残存 状況	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
1 506	杯 胎土№75	ほぼ完形 口 12.0 高 5.2	P 1内 床直 №3	①精選、凝灰岩・輝石の細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色SYRS/6	口径に比較して高さが高く扁平である。口縁部は内湾して立ち上がり、先端は尖る。	口縁部は横溝で、底部外面は不定方向の蔑削り。内面は非常に丁寧な態で、磨き。その上に棒状工具による磨きが放射状に施される。	内外面の一部に炭素吸着。
2 507	杯 胎土№74	完形 口 12.8 高 5.1	南東部 +3.5 №12	①精選、凝灰岩細砂 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は緩やかに内湾して立ち上がる。先端は尖りぎみである。	外面の先端を横溝で、以下は不定方向に丁寧な蔑削り。内面は丁寧な態で後放射状に棒状工具による磨き。	内外面の一部に炭素吸着。
3 509	杯	ほぼ完形 口 11.9 高 5.4	南東部 +3 №8	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色SYRS/6	深みがあり、板状を呈する。先端は緩やかに内湾して立ち上がり尖る。	外面の先端は幅広い横溝で、以下は丁寧な蔑削り。内面は丁寧な態で、一部に指痕圧痕。	内外面の一部に炭素吸着。
4 513	杯	1/3残存 口 (11.2) 高 (5.9)	P 1内 +5 №10	①チャート・石英の粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色SYRS/6	口縁部は斜め外方に立ち上がり、先端で深く内湾する。先端は尖る。底部は不安定である。	外面は粗雑な態で、口縁部に横溝で、下半は深い蔑削り後態である。内面は丁寧な態で、	
5 508	杯	ほぼ完形 口 14.0 高 5.5	中央部 +3 №16	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐色SYR 4/4	口縁部は緩やかに内湾、先端は直立ちぎみに立ち上がる。	外面は先端を横溝で、以下は不定方向に蔑削り。内面は丁寧な態で、一部に指痕圧痕。	内面に黒色の付着物。
6 516	杯	破片 口 (14.2) 高 (4.8)	埋没土中	①赤色粘土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部は内湾して立ち上がる。	口縁部は横溝で、内外面は丁寧な態で、	一部に炭素吸着。
7 511	杯	完形 口 13.5 高 5.2	南東部 +3 №2	①凝灰岩細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YRS/6	口縁部はいわゆる内斜口縁で、内湾りぎみに立ち上がり先端は尖る。	口縁部は横溝で、底部外面は削り後丁寧な態で、内面も丁寧な態で、一部に工具圧痕。	一部に炭素吸着。
8 510	碗	完形 口 12.7 高 6.2	南東部 +3 №9	①精選、凝灰岩細砂 少量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色SYRS/6	口縁部は短く、いわゆる内斜口縁。先端は尖る。底部は狭小な平坦面を持つ。	口縁部と胴部上位は横溝で、胴部下半は不定方向の蔑削り。内面は丁寧な態で、一部に工具圧痕。	内外面の一部に黒色の付着物。
9 517	鉢	完形 口 8.0 高 5.9	南東部 床直 №7	①比較的精選、赤色粘土粒・凝灰岩の細砂を少量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YRS/8	小径。口縁部は丸みをもって斜め上方に立ち上がる。底部は狭小で不安定である。	口縁部は横溝で、外面は丁寧な態で、一部に成形痕。内面は態で後棒状工具による磨き。	内面に黒色の付着物。
10 505	鉢	ほぼ完形 口 12.8 高 7.9	P 1内 +4 №4・5・6・11	①チャートの微・粗砂 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部は深く張り、内湾ぎみに立ち上がる。先端は丸みを帯びる。底部は不安定な平底である。	外面は先端を横溝で、以下は不定方向に削り、態で、底部は磨き。内面は不定方向の態で、	外面に炭素吸着。
11 515	鉢	口縁部1/4残存 口 (12.9) 高 5.4	南東部 +3.5 №11	①細砂 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐色SYR 5/4	口縁部は斜め上方に向けて立ち上がる。底部は狭小の平底と思われる。	口縁部先端は横溝で、以下は斜方向の蔑削りあるいは粗雑な態で、磨きの可能	炭素吸着。 514と同一性がある。
12 514	鉢小	口縁部1/3残存 口 (14.5) 高 (3.5)	南東部 +3.5 №11・19	①細砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色SYRS/8	粘土組の接合が粗雑で、器面に凹凸が生じている。口縁部は斜め上方に立ち上がり先端は尖る。	口縁部先端は横溝で、以下は蔑削り後不定方向に蔑削り。内面は態で、	一部に炭素吸着。
13 502	甕	ほぼ完形 口 17.4 高 28.1	南東部 床直 №1	①チャートの微・粗砂・輝石 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/8	口縁部はくの字状に屈曲して立ち上がり、先端は内側に丸く肥厚する。胴部は丸みをもって張り、最大径を中央に持つ。底部は平底。	口縁部は横溝で、胴部外面は上半を下から上方に2～3回に分けて蔑削り。下半は斜め下方に蔑削り、態で、内面は丁寧な態で、	外面の一部に炭素吸着。

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形・整形の特徴	文様	備考
14 563	甌	1/2残存 口(21.9) 高 23.5	中央部 床直 №18	①チャートの礫・粗砂・輝石 ②酸化焰・良好 ③赤褐色2.5YR4/6	口縁部は短く、弱く外傾する。胴部は上位に最大径を持ち、底抜けの底部に向かって徐々に細くなる。	口縁部は横溝で、胴部外面は斜方向に3回に分けて寛削り、寛撫で。内面は3回に分け、方向を違えて寛撫で。その上に磨きも施したか。	外面に炭素痕着。
15 504	小型甌	口縁部1/3残存 口(9.5) 高 13.2	中央部 +9 №.19	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③赤褐色2.5YR4/8	口縁部は極めて短く、外傾弱く立ち上がる。胴部は球状を呈する。	口縁部は横溝で、胴部外面は立ち上がる。胴部は斜方向に寛撫で。内面は横方向に無で、一部に指線正痕。	
16 47	母岩	6.0・6.5 5.3	埋没土	頁岩 337	小型の円盤から割片を取ったもの。		
17 48	割片石罫	4.0・6.6 1.0	中央部 №22	黒色安山岩 28	端部で使用痕がある。		

27号住居出土遺物観察表 (箱303・304回、図版172・173)

番号	器種	残存量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
1 536	杯	口縁部3/4残存 口 11.8 高 6.6	南東部 +5 №7	①チャート・輝石・金堂母の粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YR5/8	口縁部は斜め上方に向かって立ち上がった胴部に内湾ぎみに続く。底部は狭小な平底。	口縁部は横溝で、胴部外面は斜方向に寛削り、寛撫で。内面は横方向に寛撫で、一部に指線正痕。	一部に炭素痕着。全体に荒れている。
2 533	鉢	ほぼ完形 口 13.2 高 6.3	南西部 床直 №32	①チャート・赤色粘土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YR5/8	成形が粗雑で器形の歪みが著しい。口縁部は幅2cm程が折り返し状の複合口縁。底部は狭小な平底。	器面は荒れて観察の困難である。口縁部は横溝で、胴部にも溝で描かれたと思われるが、それ以前の削りの痕跡を器面に残す。	熱を受けているか。黄色、変質。
3 531	鉢	完形 口 12.9 高 5.8	南東部 +3 №8	①石英・チャートの粗砂 ②酸化焰・良好 ③褐色2.5YR6/8	口縁部は弧状に膨らみを帯びて斜め上方に立ち上がる。底部は狭小な平底。	口縁部は横溝で、胴部外面は刷毛状工具による撫で。内面は横方向に寛撫で、一部に指線正痕。	
4 534	小型広口 壺	3/4残存 口 9.8 高 7.7	P 1内 +5 №14	①チャートの粗砂 ②酸化焰・良好 ③褐色2.5YR6/6	口縁部は短く直立ぎみに外傾する。胴部は弱く傾って丸みをもち、底部は安定した平底。	口縁部から胴部上位は横溝で、胴部下部の上位は無で、下位は寛削り。内面は無で、下位から底部には工具正痕。	炭素痕着。
5 538	鉢	2/3残存 口 13.4 高 5.9	南東部 床直 №.15	①赤色粘土粒・輝石の粗砂 ②酸化焰・良好 ③褐色2.5YR6/8	口縁部は弧状に立ち上がり、先端は倒い縁を持って肥厚する。底部は非常に狭小。	口縁部は横溝で、胴部は寛削り後寛撫で、口縁部の下位には指線正痕。	器面は荒れている。
6 530	鉢	完形 口 12.3 高 5.8	南東部 床直 №24	①チャートの礫・石英の粗砂 ②酸化焰・良好 ③褐色2.5YR6/8	口縁部はやや膨らみをもって斜め上方に立ち上がる。底部は狭小な平底。	口縁部は横溝で、胴部外面は寛削り後寛撫で。内面は横方向に弱く寛撫で。	一部に炭素痕着。
7 540	小型粗製 土器	口縁部欠損 高(2.5)	北西部 +12 №31	①粗砂 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	胴部は上位がやや細く、丸底の底部に続く。	器面に成形時の寛削り痕を残す。内外面とも粗雑な撫で。	炭素痕着。
8 535	小型甌	口縁部1/2残存 口 7.3 高 6.6	埋没土	①粗砂多量 ②酸化焰・良好 ③明赤褐色2.5YR5/6	口縁部は短く、くの字状に外傾する。胴部は球状で、狭小で不安定な底部に続く。	口縁部は内外面とも横溝で、胴部外面は横溝で、下半は非常に粗雑な整形で器面に歪みを生じさせている。内面にも粗雑な撫で、指線正痕。	外面の一部に炭素痕着。
9 529	小型広口 甌	ほぼ完形 口 10.3 高 9.5	P 2内 №21	①チャートの礫・輝石の粗砂 ②酸化焰・良好 ③褐色5YR6/6	口縁部は短く、くの字状に屈曲し立ち上がる。胴部は上位で張り、丸底の底部に続く。	口縁部は横溝で、胴部外面の最上位は横溝で、中位から底部は寛削り、寛撫で。内面は寛撫で。	内面に黒色の付着物。

番号	器種	残存 方法	出土位置	①粘土 ②焼成 ③色調	器形	成・整形の特徴	備考
10 537	埴	完形 口 8.1 高 8.9	埋没土	①赤色粘土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	口縁部は長く直線的に延びる。 胴部は楕長の球形を呈し胴部最 大径と口径はほぼ等しい。底部 は不安定な平況。	器面が荒れており観察は困難 である。口縁部は横撫で後内 面には棒状工具による縦方向 の磨き。外面も同様の整形と 思われる。胴部外面は上半が 撫で、下半が筒用である。 内面は指頭による撫で。	
11 532	高杯	杯部のみ 口 17.8 高 (7.1)	南東部 №19・20	①赤色粘土粒 ②酸化焰・良好 ③赤焼2.5YR4/8	杯部は弧状に立ち上がり、先端 が外側につままれて尖る。	口縁部は横撫で。内外面とも 丁寧な磨で。内面はその上に 棒状工具による不定方向の磨 き。	ビット内と +154#接合。 一部に炭素 痕着。内面 は荒れている。
12 520	高杯 胎土№78	杯部のみ 口 19.8 高 (7.6)	P 1内 №16-17・18・ 19・20	①精選、赤色鉱物 粒・細砂 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR7/8	杯部は底面から丸みをもって立 ち上がり外積する。先端はやや 内側にかえる。	口縁の先端は横撫で。それ以 下は丁寧な磨で後、縦方向に 棒状工具による磨き。底面内 側にも棒状工具による磨き。	破碎後熱を 受けたのか 一部に炭素 痕着。
13 522	高杯 胎土№76	杯部のみ 口 17.8 高 (5.5)	南東部 №2	①精選、チャートの 微量量 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	口縁は外積して立ち上がり、先 端は割くかえる。	口縁の先端は横撫で。中位以 下は内外面とも斜方向の撫で 後棒状工具による縦方向の磨 き。底面にも磨き。	内面は荒れ ている。
14 541	高杯	口縁部1/2残存 口 (18.8) 高 (5.7)	南東部 # 8	①細灰岩・黒雲母粗 砂 ②酸化焰・良好 ③赤焼2.5YR4/8	胴部から水平に開いた底面は屈 曲し、斜め上方に反する口縁 部に続く。	口縁部は先端を横撫で。下半 は斜方向の荒撫で。内面は割 で後丁寧な磨。底面も荒撫 で。	一部荒れて 割離してい る。
15 524	高杯	杯部1/3残存 口 17.7 高 14.5	南東部 茨道 №9	①チャートの赤色粘 土粒の粗砂 ②酸化焰・良好 ③焼2.5YR6/8	杯部は底面から腹をなして口縁 に移り、斜め上方に強く外反す る。胴部は下位に向けて緩やか に開き、下位は内面に腹をなし て大きな腹をつくる。	杯部・胴部とも底撫でが施さ れるが、杯部底面は成・整形 とも粗雑である。胴部内面上 位には杯部接合のためのぼろ 状の突起がみられ、指頭整形 痕が顕著である。	杯部内面は 斜線磨着。
16 523	高杯 胎土№77	杯部口縁1/2残 存 口 高	P 1内 茨道 №12	①精選、緑色、細砂 ②酸化焰・良好 ③赤焼2.5YR4/8	杯部は水平に開いた底面から腹 をもって斜め上方に強く外反し て立ち上がる。柱状の胴部は腹 が大きく開く。	胴部内面の上半～一部粘土層 の接合痕を認める他は杯部、 胴部とも丁寧な磨で、磨きが 施され、杯部内外面、胴部下 半の外面には棒状工具による 磨き。	
17 521	高杯	脚部1/4残存 口 19.5 高 15.4	P 2内 №18・23	①赤色粘土粒・白色 鉱物粒 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	杯部は下位に不明瞭な腹をなし ながら外側強く立ち上がる。脚 部は柱状を呈し、下位で屈曲。 縦方向に大きく開く。	杯部の口縁部分は横撫で。底 部分は撫で。脚部外面も磨で。	
18 525 526	高杯	杯部1/3残存 口 18.0 高 14.1	南東部 茨道 №5・11・13	①チャートの粗砂・ 金雲母の細砂 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/8	杯部は水平に開く底面から強い 腹を経て、口縁が斜め上方に立 ち上がる。柱状の脚部は緩やか な膨らみをもり、下端近くで腹 が大きく開く。	器面は荒れており観察は困難 である。口縁が斜め上方に、 指頭による撫で、荒刷りがあ るほかは、丁寧な磨撫でと思 われる。	
19 543	小型盃	口縁部～胴部上 位2/3残存 口 (12.1) 高 (7.0)	南東部 # 8 №1・2	①精選、白色軽石細 砂少量 ②酸化焰・良好 ③焼5YR6/6	口縁部はくの字状に屈曲、斜め 上方に長く立ち上がる。	器面が荒れており観察は困難 であった。口縁部は横撫でか。	
20 940	甕	口縁部1/2残存 口 (20.2) 高 (7.1)	埋没土	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③焼7.5YR7/6	口縁部は中位に強い腹をつくる いわゆる複合口縁。先端も外面 に腹をなして尖る。	内外面とも丁寧な横撫で。	
21 527	甕	口縁部 口 15.2 高 (3.5)	南東部 # 4 №11	①粗砂大のチャート・ 輝石 ②酸化焰・良好 ③赤い焼5YR7/4	口縁部はくの字状に強く屈曲し て立ち上がる。	内外面とも横撫で。	

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形	成・整形の特徴	備 考
22 519	葉	口縁部は1/4 胴部は2/3残存 口 (15.4) 高 22.1	P 2内 №22	①石灰・チャートの 粗砂 ②酸化焰・良好 ③明赤褐2.5YR5/6	口縁部は短く外反する。胴部は 球状を呈し、狭小な底部に狭く、	口縁部は横溝で、下半に一部 刷毛目。胴部外面は上～中位 を斜から縦方向、下位を斜方 向に彫削り。内面は荒撫でか。	焼熱による 変色。一部に炭素吸着。
23 528	葉	胴部上位～下位 1/3残存 高 (18.6)	南東部 +6 №10	①チャートの粗砂多 量 ②酸化焰・良好 ③にぶい赤褐2.5 YR5/4	胴部は球状に張り、最大径を中 位に持つと思われる。底部は狭 小な平底。	外面は貫削り後荒撫で。内面 も荒撫で。上位に斜方向の貫 削り。	焼熱による 変色。 底部外面に 粗圧痕。
24 518	蓋	完形 口 19.2 高 34.7	F 1内 №20	①チャートの粗・粗 砂を多量 ②酸化焰・良好 ③橙5YR6/6	口縁部はくの字状に立ち上がり、 中位に弱い横を持つ。内面も受 け口状を呈する。胴部は球状で 最大径を中位に持つ。底部は不 安定な平底。	口縁部は斜方向の刷毛目後上 半を横撫で。胴部外面は刷毛 目後4回程に分けて貫削り。 内面は丁寧な撫で。	内外面の一 部に炭素吸着。

(3) 土 坑

2号土坑出土遺物観察表(第306図)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形	成・整形の特徴	備 考
1 942	埴	1/2残存 口 (6.1) 高 11.0		①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③にぶい橙5YR6/4	口縁部は内湾して立ち上がる。 胴部はやや扁平な球形を呈する。 底部は小径の平底。	外面は貫撫で後丁寧な磨き。 口縁部内面は削で。	炭素吸着。

3号土坑出土遺物観察表(第306図)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形	成・整形の特徴	備 考
2 941	埴	1/2残存 口 11.2 高 (15.1)		①粗砂大の赤色粘土 粒 ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR6/6	口縁部は屈曲後斜め上方に長く 立ち上がる。胴部は球形を呈す る。	器面の刷削りが著しく観察が困 難であるが、内面の上位に口 縁部との接合痕が残る。	

4号土坑出土遺物観察表(第306図)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形	成・整形の特徴	備 考
3 943	埴	口縁部1/3残存 口 (10.7) 高 5.4	№1	①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③橙7.5YR7/6	口縁部は屈曲後短く外反する。 体部は狭く、丸底。	口縁部は横溝で、体部外面は 荒撫でか。	器面は荒れ ている。

(4) 墓

10号墓出土遺物観察表(第307図)

番号	器種	残存 法量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形	成・整形の特徴	備 考
1 959	蓋	ほぼ完形 口 17.1 高 32.6		①粗砂大のチャート ②酸化焰・良好 ③灰褐色YR8/3	口縁部は屈曲後外反して立ち上 がる。胴部は球形で大きく張る。 底部は周縁が高台状を呈する。	外面は斜方向に刷毛目を施し、 口縁部のみ横撫で。口縁部内面 にも刷毛目が残る。	内外面の一 部に炭素吸着。

3. 平安時代の遺構出土遺物

(1) 住 居

31号住居出土遺物観察表 (第310図、図版175)

番号	器 種	検 存 法 量	出土位置	①胎土 ②焼成 ③色調	器 形	成・整形の特徴	備 考
1 548	杯 土師器	1/3残存 口 (12.2) 高 4.0	中央部 +9 №47・廻り方	①精選されているが 粗砂も多量 ②酸化焰・良好 ③よい焼7.5YR 7/4	口縁部は斜め上方に立ち上がり。 先端に弱い稜をなす変曲点がある。 全体に器肉は厚い。	外面は口縁部先端を横断して 以下も漸で。底部は長削り後 擦でか。内面は横で。	やや荒れて いる。
2 550	杯 須恵器	ほぼ完形 口 12.6 高 3.2	中央部 床直 №46・廻り方	①灰石・チャートの 粗砂少量 ②還元焰・軟質 ③灰白7.5Y8/1	口縁部は底部から弱く丸みをも って外傾する。先端は更に斜 め上方につままれたように延び る。口径と底径の比率は1:0.41。	右回転クロコ成形。底部は回 転未切り離し後無調整。口縁 部は内外面とも横断で。	一部に炭素 吸着。
3 551	杯 須恵器	ほぼ完形 口 11.8 高 3.4	北西部 床直 №2・カマド・ 野藏穴	①粗砂少量 ②還元焰・軟質 ③灰白10Y7/1	口縁部は内傾ぎみに立ち上がり。 先端は更に外側につままれる。 口径と底径の比率は1:0.46。	右回転クロコ成形。底部は回 転未切り離し後無調整。粗砂 で底部に粘土粒が付着する。 口縁部は横断で。	一部に炭素 吸着。
4 547	杯 土師器	完形 口 12.8 高 3.8	南西部 床直 №1	①石灰・チャートの 粗砂 ②還元焰・良好 ③焼5YR6/8	口縁部は短く、斜め上方に立ち 上がり先端は尖る。口径と底径 の比率は1:0.69。	唇面の瓦れが著しく観察が困難 である。内面は横方向の擦 でと思われる。	
5 552	杯 須恵器	2/3残存 口 13.2 高 3.4	南東部 +4 №.45・廻り方	①白色鉱物粒・細砂 少量 ②還元焰・軟質 ③灰白7.5Y7/	口縁部は斜め上方に立ち上る。 口径と底径の比率は1:0.50で 底部が広い形状である。	右回転クロコ成形。底部は回 転未切り離し後無調整。	炭素吸着。 底部をはじ め唇面の磨 減が著しい。
6 553	高台付柄か 須恵器	破片 口 14前後か 高 (5.5)	廻り方埋土	①精選、細砂少量 ②還元焰・良好 ③焼7.5YR6/6	右回転クロコ成形。口縁部は斜 め上方に立ち上るが、深み のある形状を呈していたと思われ る。先端は内側がそけて尖る。	右回転クロコ成形。外側に成 形痕が顕著に認められる。	内面黒色化 用。
7 549	蓋 須恵器	完形 口 18.1 高 3.7	カマド・野藏 穴 №6・11・22・ 29・33・42	①精選、黒色鉱物粒 ②還元焰・良好 ③6N6/	天井部は扁平で歪みは弱い。 口縁部の先端は短く内折する。 つまみは中央がへこみリング状 を呈する。	左回転クロコ成形。回転未切 り離し後つまみを取り付けて おり、つまみの周辺に未切り 離し痕がみられる。天井部上 半は回転をとまう長削り調 整。	
8 546	甕 土師器	口縁部～胴部上 位3/4残存 口 19.8 高 (7.4)	野藏穴・カマ ド №2・13・14・ 15・24・26・ 37	①白色鉱物の細砂 ②還元焰・良好 ③焼5YR6/8	口縁部は直立して立ち上がり、 中位で外反する。胴部は緩やか に膨らむ。	口縁部は横断で。胴部外面は 横方向の置削り。内面は横で。	
9 545	甕 土師器	完形 口 20.2 高 27.2	カマド・野藏 穴 №8・17・18・ 19・21・28・ 30・31・38・ 41	①粗砂多量 ②還元焰・良好 ③焼5YR6/8	口縁部は内傾ぎみに立ち上がり、 中位で強く屈曲、外反する。胴 部は最大径を上位に持つが、変 り出しは弱い。底部は狭小な平 坦面を持つ。	口縁部は横断で。胴部外面は 上位を斜め、あるいは横方向 の置削り。中位以下を斜方向 の置削り。内面は横方向の擦 で。	外面に炭素 吸着。

00群馬県埋蔵文化財調査事業団
調査報告書 153 冊

少林山台遺跡

〈遺物観察表編〉

少林山砂防施設工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成 5 年 3 月 19 日 印刷

平成 5 年 3 月 26 日 発行

編集・発行／00群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北横村大字下箱田784-2
電話 (0279) 52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社